一般国道253号

上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅰ

下　割　遺　跡　Ⅰ

２００３

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道253号

上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅰ

下割（しもわり）遺跡Ⅰ

２００３

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

上越市と中頸城郡三和村を結ぶ上越三和道路は、上越市から南魚沼郡六日町に至る延長約60kmの一般国道253号上越魚沼地域振興快速道路の一部です。地域の活性化と他地域との交流を促進することを目的に作られる地域高規格道路（自動車専用道路）で、高規格幹線道路である北陸自動車道と併せて、信頼性の高い循環型広域ネットワークを形成することを目指しています。これによって、沿線地域の産業・経済・文化の交流発展が促進されるものと期待されています。

本書は、この上越三和道路建設に先立ち、平成14年度に実施した下割遺跡の発掘調査報告書です。調査の結果、下割遺跡は中世の屋敷地であることが判明しました。中世の遺構としては、掘立柱建物跡をはじめ、井戸や菱形に区画された溝など、貴重なものが数多く検出されました。遺物としては、中世を代表する珠洲をはじめ、曲物・箸などの木製品、さらに古代の土師器・須恵器、近世の陶磁器など様々な種類の土器・陶磁器や石製品、木製品、金属製品が出土しました。

今回の調査結果が、地域の歴史を解明するための研究資料として広く活用されると共に、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大な御協力と御援助を賜った上越市教育委員会、並びに地元の方々、また、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御高配を賜った国土交通省北陸地方整備局高田工事事務所に対して厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

新潟県教育委員会

教育長　板屋越　麟一

例　　言

1　本報告書は、新潟県上越市大字米岡字下割1,205番地ほかに所在する下割遺跡の発掘調査記録である。

2　本調査は上越三和道路の建設に伴い、国土交通省から新潟県が受託したもので、発掘調査は調査主体である新潟県教育委員会（以下、県教委）が財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に委託し、平成14年4月11日から10月11日に実施した。

3　整理作業及び報告書作成に係る作業は、平成14年度に埋文事業団が県教委から受託しこれにあたった。

4　出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料は、一括して県教委が保管・管理している。

5　遺物の注記は下割遺跡の略記号「下ワリ」とし、出土地点や層位を続けて記した。

6　本書の図中で示す方位は、すべて真北である。

7　遺物番号は種別に係りなく通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。

8　本文中の注は、第Ⅵ章を除いて脚注とし、頁ごとに番号を付した。また、引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。ただし、第Ⅵ章の自然化学分析については、章末に記載した。

9　調査成果の一部は現地説明会（平成14年10月5日）、遺跡発掘調査報告会（平成15年3月2日）などで公表しているが、本報告書の記述をもって正式な報告とする。

10　本報告書の作成にあたり、航空写真撮影・遺構の図化・自然科学分析は、以下の機関に委託して行った。

航空写真撮影……国際航業株式会社

遺 構 の 図 化……有限会社中郷測量設計

木製品の樹種同定…株式会社パリノ・サーヴェイ

11　遺構図のトレース及び各種図版作成・編集に関しては、株式会社セピアスに委託してデジタルトレースとDTPソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。遺物写真撮影はデジタルカメラ（ニコンD100）で撮影し、デジタル化した遺構写真と合わせて編集を行った。なお、図版作成・編集作業に係り、業者に支給した資料は以下のとおりである。

本 文 ・ 挿 図：テキスト形式・Excel形式のデータ、トレース原図・貼り込み版下

遺構図面図版：原図（修正済）・レイアウト図・文字データ

遺物図面図版：トレース図（個別）・拓影・レイアウト図

写　真　図　版：デジタルデータ（ＣＤ）・レイアウト図

12　本書の執筆は、高橋　保（埋文事業団調査課国土交通省担当課長代理）の指導のもとに、山崎忠良（同　文化財調査員）、小林芳宏（同　主任調査員）、辻　範朗（同）、外山浩史（同）がこれにあたり、編集は山崎が担当した。執筆分担は以下のとおりである。

第Ⅰ章・第Ⅱ章……外山　　第Ⅲ章１・２・第Ⅳ章２－Ａ・Ｄ……辻

第Ⅲ章３・第Ⅳ章１・２－Ｂ・Ｃ・Ｅ……小林　　第Ⅴ章・第Ⅶ章……山崎

第Ⅵ章……株式会社パリノ・サーヴェイ

13　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くの御教示・御協力を賜った。ここに記して厚くお礼申し上げる。（敬称略　五十音順）

相羽　重徳　　大居　敬子　　垣内　光次郎　　川上　環　　川上　義人　　国土交通省北陸地方整備局高田工事事務所　　笹澤　正史　　上越市教育委員会　　田辺　早苗　　鶴巻　康志　　富岡　直人　　中村　太一

古澤　妥史　　水澤　幸一

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査と整理作業 …… 1

A　調査と調査体制 …… 1

B　整　理　作　業 …… 3

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 4

1　遺跡周辺の地理的環境 …… 4

2　遺跡の分布と歴史的環境 …… 6

A　周辺遺跡の概要 …… 6

B　周辺の水利環境 …… 7

第Ⅲ章　調 査 の 概 要 …… 8

1　グリッドと調査区の設定 …… 8

2　基　本　層　序 …… 8

3　遺構・遺物の検出状況 …… 10

第Ⅳ章　遺　　構 …… 11

1　遺構の記述・表記方法 …… 11

A　記述・表記方法 …… 11

B　遺 構 の 分 類 …… 11

2　遺　構　各　説 …… 12

A　掘 立 柱 建 物 …… 12

B　井　　戸 …… 14

C　溝 …… 16

D　道 路 状 遺 構 …… 18

E　土坑・ピット・その他 …… 18

第Ⅴ章　遺　　物 …… 21

1　一次調査の遺物 …… 21

2　古 代 の 遺 物 …… 21

A　土　師　器 …… 21

B　須　恵　器 …… 21

C　灰　釉　陶　器 …… 22

3 中世の遺物 …… 22
A 土師質土器 …… 22
B 珠　　州 …… 22
C 越　　前 …… 23
D 瀬戸美濃 …… 23
E 輸入陶磁器 …… 23
F 石器・石製品 …… 23
G 木製品 …… 24
H 金属製品 …… 24
4 近世の遺物 …… 24
A 越中瀬戸 …… 25
B 肥前系陶器 …… 25
C 肥前系磁器 …… 25
D その他の陶磁器 …… 25
E 金属製品 …… 25
5 その他の遺物 …… 25

第Ⅵ章　木製品の樹種同定 …… 26
1 はじめに …… 26
2 試　　料 …… 26
3 方　　法 …… 26
4 結　　果 …… 26
5 考　　察 …… 27

第Ⅶ章　まとめ …… 30
1 土器・陶磁器 …… 30
2 遺構とその年代 …… 32

《要　　約》 …… 34
《引用文献》 …… 35
《遺物観察表》 …… 36

挿図目次

第 1 図　一次調査トレンチと二次調査対象範囲 …… 2
第 2 図　位置と周辺の遺跡 …… 5
第 3 図　グリッド設定図 …… 9
第 4 図　基本層序柱状図 …… 9
第 5 図　出土遺物分布図 …… 10
第 6 図　溝・掘立柱建物の方向と規模 …… 17
第 7 図　検出樹種の顕微鏡写真 …… 29

表 目 次

第 1 表　周辺の主要な遺跡 …… 4
第 2 表　溝（SD51・52・251）の層位対応表‥ 17
第 3 表　土器・陶磁器の組成 …… 30

図版目次

［図　面］

図版 1　遺構全体図
図版 2　分割図（1）
図版 3　遺構断面図（1）
図版 4　分割図（2）
図版 5　遺構断面図（2）
図版 6　分割図（3）
図版 7　分割図（4）
図版 8　遺構断面図（3）
図版 9　分割図（5）
図版 10　遺構断面図（4）
図版 11　遺構個別図（1）
図版 12　遺構個別図（2）
図版 13　遺構個別図（3）
図版 14　遺構個別図（4）
図版 15　遺構個別図（5）
図版 16　遺構個別図（6）
図版 17　遺構個別図（7）
図版 18　遺構個別図（8）
図版 19　遺構個別図（9）
図版 20　遺構個別図（10）
図版 21　遺構個別図（11）
図版 22　遺構個別図（12）
図版 23　遺構個別図（13）
図版 24　遺構個別図（14）
図版 25　遺構個別図（15）
図版 26　遺構個別図（16）
図版 27　遺構個別図（17）
図版 28　遺構個別図（18）
図版 29　一次調査出土遺物・古代の遺物
図版 30　中世の遺物（1）
図版 31　中世の遺物（2）
図版 32　中世の遺物（3）
図版 33　中世の遺物（4）
図版 34　中世の遺物（5）
図版 35　中世の遺物（6）
図版 36　中世の遺物（7）
図版 37　中世の遺物（8）
図版 38　近世の遺物・その他の遺物

［写　真］

図版 39　調査区近景
図版 40　調査区全景ほか
図版 41　Ⅳ～Ⅶ区
図版 42　Ⅰ・Ⅳ区
図版 43　基本層序・掘立柱建物（1）
図版 44　掘立柱建物（2）
図版 45　掘立柱建物（3）
図版 46　井戸（1）
図版 47　井戸（2）
図版 48　井戸（3）
図版 49　井戸（4）
図版 50　井戸（5）
図版 51　井戸（6）・溝（1）
図版 52　溝（2）
図版 53　道路状遺構
図版 54　土坑（1）
図版 55　土坑（2）
図版 56　土坑（3）
図版 57　ピット
図版 58　性格不明遺構
図版 59　一次調査出土遺物・古代の遺物・中世の遺物（1）
図版 60　中世の遺物（2）
図版 61　中世の遺物（3）
図版 62　中世の遺物（4）
図版 63　中世の遺物（5）
図版 64　中世の遺物（6）
図版 65　中世の遺物（7）・近世の遺物（1）
図版 66　近世の遺物（2）・その他の遺物

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

上越三和道路は、上越魚沼地域振興快速道路（一般国道253号）のうち、新潟県上越市から中頸城郡三和村までの7.4km区間を指す。上越地方拠点都市地域内の連携強化を図り、地域の活性化を促進することを目的として計画され、平成10（1998）年12月に整備区間としての指定を受けた。また、上越魚沼地域振興快速道路（一般国道253号）は、現国道253号の南側をほぼ平行して走る、上越市から六日町を結ぶ延長約60kmの自動車専用の地域高規格道路として計画され、完成すれば上越地方と首都圏を結ぶ最短経路として広域的な交流を促進することが期待されている。

国土交通省は、西端の上新バイパスにつながる上越三和道路の着工に向けて、新潟県教育委員会（以下、県教委）に計画予定地内における埋蔵文化財の分布調査を依頼した。県教委の委託を受けた（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）は、平成13（2001）年4月に予定法線内の上越市寺から三和村本郷を対象にして埋蔵文化財の分布調査を実施したところ、範囲内の24か所から主に古代・中世の遺物が採集されたため、ほぼ全域にわたり一次調査による遺跡の存在確認が必要との旨を報告した。

国土交通省の依頼を受けて、県教委は再び埋文事業団に調査を委託し、平成14（2002）年3月に飯田川左岸の上越市大字米岡地内で一次調査を実施した。すぐ北に周知の下割遺跡が隣接していることから同様の遺跡の存在が予想された。一次調査の結果、上層が古代・中世の遺物と遺構、下層が古墳時代の遺物を多数包蔵していることが確認された。そして、対象面積14,000m^{2}のうちの6,500m^{2}については古代・中世と古墳時代の上下2面、延べ13,000m^{2}の二次調査が必要で、残り7,500m^{2}についても再調査が必要との旨を国土交通省に通知した。その後、国土交通省と県教委と埋文事業団の三者で調査工程について協議し、下割遺跡の上層6,500m^{2}の二次調査を平成14年度に実施することを決定した。

2　調査と整理作業

A　調査と調査体制

1）一　次　調　査

一次調査は、埋文事業団が平成14（2002）年3月4日～8日にかけて実施した。調査は対象範囲14,000m^{2}に任意にトレンチを設定し（第1図）、重機を使用して徐々に掘り下げ、遺構・遺物の有無、土層の堆積状況などを観察・記録した。

一次調査の結果、調査範囲全体で、現水田面下20～30cmの深さから、厚さ30～100cmの灰色粘土層と青灰色粘土層を古代・中世の遺物包含層として確認できた。出土した遺物は須恵器、珠洲、越中瀬戸が多かった。遺物の多くは土層の中上部から出土したが、層位的に分離することは困難であった。遺構は3・4・6・7・8・11・12トレンチで検出された。遺構確認面は明青灰色粘質土で、遺構の検出は比較的容易であった。6・11トレンチでは幅2m以上の溝が検出された。7トレンチでは井戸の可能性のある径2mほどの遺構が，多くの土坑・ピットとともに検出された。その他のトレンチでも土坑・ピット

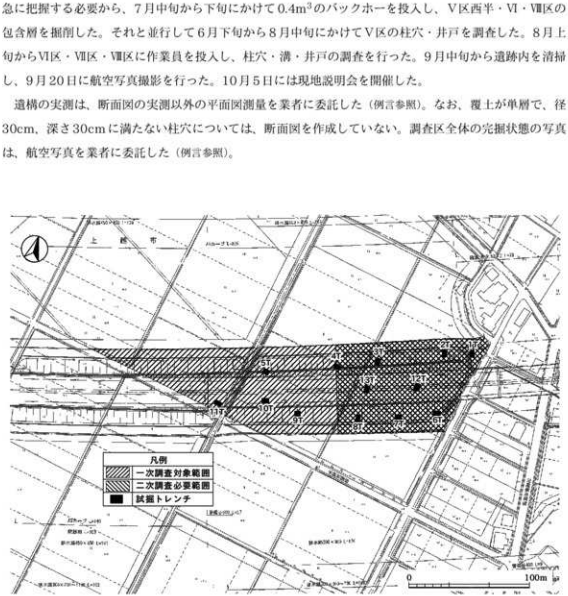
などが検出されたが、東側の米岡集落に向かって分布が密になる傾向が見られた。

古墳時代の遺物は、古代・中世の遺構確認面の下、標高12.5m付近の粘性の強い黒褐色または暗灰色粘質土から多数出土した。特に、2・4・6トレンチで非常に多くの遺物が出土した。遺物は古墳時代前期末～中期初頭の甕・壺が主体であるが、遺構は検出されなかった。

2）二　次　調　査

平成14（2002）年4月11日から5月13日に、表土20cmと遺物が希薄な包含層上部25cmを0.7m^{3}のバックホーを使用し掘削した。掘削の際は調査員が指示し、遺物は大グリッドごとに取り上げた。5月1日から作業員（30人）を投入し、Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ区（第4図）から包含層掘削を開始した。6月上旬から溝・道路状遺構の調査を行った。6月中旬からはⅤ区の調査に入り、柱穴や井戸が比較的集中することが判明した。また包含層の粘性が極めて強く、掘削道具から土が離れにくいことなど、人力掘削では当初の計画通り調査が進まないことも明らかになってきた。そこで調査の迅速化を図り、また遺構密度を早急に把握する必要から、7月中旬から下旬にかけて0.4m^{3}のバックホーを投入し、Ⅴ区西半・Ⅵ・Ⅶ区の包含層を掘削した。それと並行して6月下旬から8月中旬にかけてⅤ区の柱穴・井戸を調査した。8月上旬からⅥ区・Ⅶ区・Ⅷ区に作業員を投入し、柱穴・溝・井戸の調査を行った。9月中旬から遺跡内を清掃し、9月20日に航空写真撮影を行った。10月5日には現地説明会を開催した。

遺構の実測は、断面図の実測以外の平面図測量を業者に委託した（例言参照）。なお、覆土が単層で、径30cm、深さ30cmに満たない柱穴については、断面図を作成していない。調査区全体の完掘状態の写真は、航空写真を業者に委託した（例言参照）。



第1図　一次調査トレンチと二次調査対象範囲

3）調　査　体　制

一　次　調　査

調査期間　平成14年3月4日～3月8日

調査主体　新潟県教育委員会（教育長　板屋越麟一）

調　　査	財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	須田　益輝　（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団事務局長）
管　　理	長谷川司郎　（　　同　　総務課長）
庶　　務	榧谷　久雄　（　　同　　主任）
調査総括	岡本　郁栄　（　　同　　調査課長）
調査指導	高橋　　保　（　　同　　国土交通省担当課長代理）
調査担当	澤田　　敦　（新潟県教育庁文化行政課主任調査員）
調査職員	小田由美子　（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団調査課主任調査員）
	小林　芳宏　（　　同　　主任調査員）
	後藤　　孝　（　　同　　主任調査員）
	渡辺　　弘　（　　同　　主任調査員）
	田中　一穂　（　　同　　嘱託員）

二　次　調　査

調査期間　平成14年4月11日～10月11日

調査主体　新潟県教育委員会（教育長　板屋越麟一）

調　　査	財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	黒井　幸一　（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団事務局長）
管　　理	長谷川司郎　（　　同　　総務課長）
庶　　務	高野　正司　（　　同　　主任）
調査総括	岡本　郁栄　（　　同　　調査課長）
調査指導	高橋　　保　（　　同　　国土交通省担当課長代理）
調査担当	山崎　忠良　（　　同　　文化財調査員）
調査職員	小林　芳宏　（　　同　　主任調査員）
	辻　　範朗　（　　同　　主任調査員）
	外山　浩史　（　　同　　主任調査員）

B　整　理　作　業

1）整　理　作　業

遺物の整理作業は水洗・注記、接合・復元、実測、トレースの順に行い、水洗～復元、実測の8割、図面整理は現地で行った。遺物は図化できる最低限の復元を行った。11月以降埋文センターで実測、トレース、遺物の写真撮影、図版作成、原稿の執筆を行った。

2）整　理　体　制

整理期間　平成14年10月15日～平成15年3月31日

整理主体　新潟県教育委員会（教育長　板屋越麟一）

整　　理	財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	黒井　幸一　（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団事務局長）
管　　理	長谷川司郎　（　　同　　総務課長）
庶　　務	高野　正司　（　　同　　主任）
整理総括	岡本　郁栄　（　　同　　調査課長）
整理指導	高橋　　保　（　　同　　国土交通省担当課長代理）
整理担当	山崎　忠良　（　　同　　文化財調査員）
整理職員	小林　芳宏　（　　同　　主任調査員）
	辻　　範朗　（　　同　　主任調査員）
	外山　浩史　（　　同　　主任調査員）

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　遺跡周辺の地理的環境

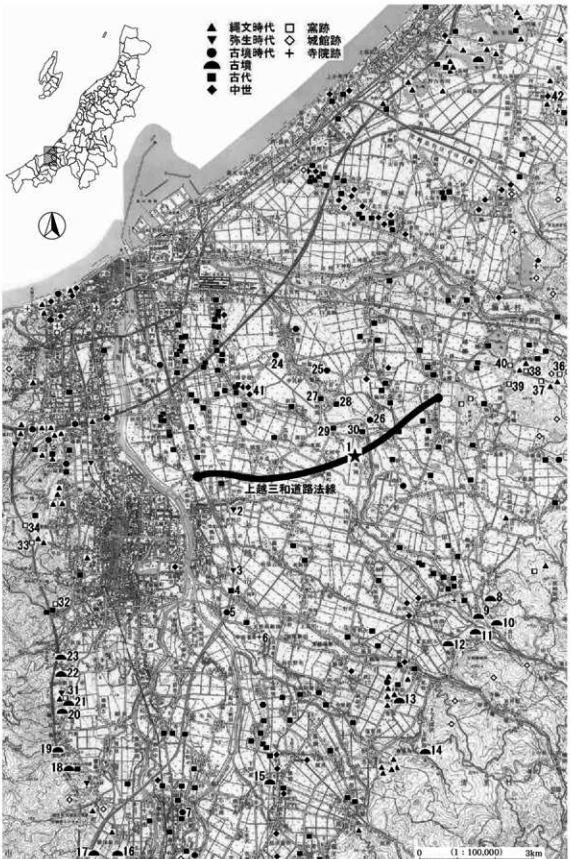
下割遺跡は高田平野の中央部に位置し、上越市と中頸城郡三和村との境を流れる飯田川の中流部左岸に立地する。その高田平野は、北を米山山地、南を関田山地に挟まれた東頸城丘陵を東縁として、西を妙高火山から連なる西頸城丘陵と接する、逆三角形の堆積平野である。平野を形成する河川は、西偏して流れる関川に向かって収斂する様相を呈する。また、丘陵から流出する河川の多くが小河川で、関川が西偏しているために流路は長い。このため、堆積は西部が卓越し、東部には潟町砂丘との間に湿地や潟湖が見られる。高田平野の大半を覆う高田面は礫層と砂層・シルト層の互層からなる高田層によって形成される沖積面で、縄文海進期に貫入した海水域が埋積されたものと考えられていることから、そのような堆積の傾向は縄文海進期以来のことといえる。

飯田川は、北の保倉川と桑曽根川、南の柳池川、別所川と並行して東頸城丘陵を流下する。このため、どの河川も集水域が狭く細長い。いずれも谷の出口に扇頂・扇端間が数km程度の小規模な扇状地を形成するが、それらは帯状に連なり、その先に自然堤防と後背湿地がなだらかに続く。集水域が狭いためにどの河川も流量の変動が大きく、飯田川も過去に出水と干害を繰り返してきた。中でも、飯田川と保倉川の間を流れる桑曽根川は流量が不安定で、飯田川右岸には灌漑用に造られた溜池群が広がる。

下割遺跡に隣接する米岡集落は、飯田川が扇状地扇端から北に屈曲した先の左岸に位置する。大正～昭和初期にかけて県による河川改修工事が行われる以前、飯田川は米岡集落付近で複雑に蛇行していた。米岡付近に限らず飯田川は蛇行と流路の変更を繰り返し、その度に自然堤防が形成・拡大された。そして、その上が集落や畑地として、背後に広がる氾濫性低地が水田として利用されてきた。米岡も旧河道の自然堤防上に立地する集落で、標高は15m強、周囲に畑地と林地を有する。遺跡は集落の西側、標高14.5mの水田から発見された。周辺の現水田は飯田川の流れに沿って下流方向（北）と離岸方向（西）に

No.	遺跡名	時代区分	No.	遺跡名	時代区分
1	下割遺跡	古墳～中世	22	灰塚古墳群	古墳
2	中島廻り遺跡	弥生／古墳／平安／中世	23	津倉田遺跡	古墳
3	子安遺跡	弥生／古墳～近世	24	前田遺跡	古墳
4	下新町遺跡	奈良／平安	25	八幡遺跡	古墳／奈良／平安／中世
5	今池遺跡	古墳／奈良／平安／中世	26	川久保遺跡	平安
6	本長者原廃寺	平安	27	杉野袋遺跡	平安
7	月岡遺跡	古墳	28	竜石遺跡	平安
8	水吉古墳	古墳	29	道珍野遺跡	平安
9	水科古墳群	古墳	30	下馬場古窯跡	古代
10	宮口古墳群	古墳	31	向橋窯跡	奈良／平安
11	北方古墳群	古墳	32	大貫古窯跡	平安
12	高王古墳群	古墳	33	滝寺古窯跡	平安
13	菅原古墳31号	古墳	34	今熊古窯跡Ⅰ	平安
14	大塚古墳	古墳	35	今熊古窯跡Ⅱ	平安
15	塚之宮古墳	古墳	36	長峰古窯跡	平安
16	観音平古墳群	古墳	37	神田長峰1号窯跡	平安
17	天神堂古墳群	古墳	38	神田長峰2号窯跡	平安
18	青田古墳群古墳	古墳	39	末野古窯跡	平安
19	稲荷山古墳群	古墳	40	本郷古窯跡	奈良～平安
20	南山古墳群	古墳	41	横曽根Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡	中世
21	黒田古墳群	古墳	42	樋田遺跡	中世

第１表　周辺の主要な遺跡（第１表と第２図の番号は対応する）



第２図　位置と周辺の遺跡（1：100,000）

（国土地理院1：50,000「柿崎」平成10、「高田東部」平成11、「高田西部」平成13原図）

向かってなだらかに傾斜しており、支流や用水路もこの２方向で流れている。なお、上越市教育委員会の調査では、耕地整理の際に旧自然堤防を削平して水田化した例も報告されており［笹澤ほか1999］、遺跡周辺の環境は、現代の河川改修やほ場整備、道路整備などによりかなり改変されている。

2　遺跡の分布と歴史的環境

A　周辺遺跡の概要（第２図）

下割遺跡に関係する古墳時代から中世までの遺跡と、飯田川流域の遺跡に絞って以下で概観する。

縄文～弥生時代

縄文時代の遺跡は丘陵上に立地するものと潟湖沿岸に立地するものとに分けられ、弥生時代の遺跡は潟湖沿岸、関川流域、南西部の丘陵上に分布する。ともに沖積面上に立地するものはほとんどない。

古　墳　時　代

古墳時代に入っても沖積地に立地する遺跡は前期で子安遺跡や中島廻り遺跡、中期でも月岡遺跡などが見られる程度である。しかし、後期に入ると古墳数は飛躍的に増加し、丘陵上や段丘上に立地するものに加えて、山麓の沖積地に立地する群集墳が高田平野の南西部と南東部に多数見られるようになる。飯田川上流でも水科古墳群・宮口古墳群・水吉古墳群・北方古墳群が周知されている。他方、集落遺跡の調査例は未だに多くはない。しかもその多くが段丘上や丘陵上に立地する。古墳の数に対して集落遺跡数が少ないことから、多くの遺跡が沖積層に埋没していると期待されてきたが、近年、ほ場整備事業などに伴う調査が本格化するにつれ、多数の遺跡が発見されている。本遺跡周辺だけでも津倉田遺跡［笹澤ほか前掲］や八幡遺跡・前田遺跡などが調査されている。

古　　代

古代になると高田面上の、特に自然堤防上に遺跡が多く分布するようになる。関川沿いでは今池遺跡群［坂井ほか1984］や本長者原廃寺など、国府や国分寺との関連が考えられる遺跡も調査されている。本遺跡もそれらの遺跡とほぼ同じ標高（15m弱～18m弱）にあるが、飯田川左岸では本遺跡より上流で古代の遺跡がほとんど見つかっていない。これは、この地域で遺跡を確認する機会が少ないこととも関係しており、今後の調査が待たれるところである。

平安期の遺跡はいずれの流域においても中～下流にかけて多数分布するが、飯田川流域も本遺跡のすぐ下流で川久保遺跡・杉野袋遺跡・竜石遺跡・道珍野遺跡など多くの遺跡が発見されている。この時期に平坦な沖積面である高田面に遺跡が多数見つかるようになるのは、高田面の完全な離水が平安時代以降である［高田平野団体研究グループ1980］ことと関連づけられることが多い。しかし、汀線の推移などの詳細な研究はむしろ多くの遺跡の発掘を待たねばならないため、本遺跡付近の離水と水田の拡大、遺跡の成立年代の関係は現時点でははっきりしない。

この他、本遺跡と関連するところでは古窯跡があげられる。本遺跡の西８～10kmの南西部丘陵上に上流から下馬場窯跡群・向橋窯跡・滝寺窯跡などが点在し、本遺跡の北東約5kmには末野古窯跡群が東頸城丘陵の山麓稜線に集中して見つかっている。これらの窯跡と遺跡出土の須恵器の時期的、地理的関係は遺跡の性格を検討するうえでも重要である。

中　　世

中世になると城館跡や塚、墳墓、廃寺跡などが特徴的に見られるようになる。越後府中として栄えたこ

の地方の変遷を検討する上で、史料研究と併せて、これらの遺跡の発掘調査が行われてきた。しかし、本遺跡に関わるような史料は多くない。関川と飯田川の間に広がっていた公領が平安後期以降私領地化して郷や保と呼ばれる国衙領になっていく過程で、本遺跡近くの本道・真砂・津有といった地名が見られる［高橋1999］程度である。しかし、これら郷・保は、その位置・範囲は不明なものの中世を通して存在しており、集落遺跡との関連は無視できない。

本遺跡の北東約11kmに位置する樋田遺跡は、掘立柱建物や井戸を伴う区画がいつくか集まる形態の集落で、本遺跡と類似する。また北西約3.5kmには、15世紀後半の居館と考えられる横曽根Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡が位置する。

B　周辺の水利環境

本遺跡は東縁を中江用水と接している。中江用水は延宝（1673～1681）年間に高田城主松平光長の藩営事業として、江戸より河村瑞軒を顧問に招き、家老小栗正矩が指揮を執って開発した用水と伝えられている。飯田川左岸末端の水利改善と新田開発を目的とした事業であるが、普請や水利の取り決めの度に米岡の肝煎の名も見える。しかし、この水路は昭和22（1947）年に米軍が撮影した空中写真では確認できない。大正8（1917）～昭和6（1931）年の県による飯田川改修工事の後、昭和19（1944）～28（1953年にかけて県営中江用水改良事業が行われ、直線化した飯田川に平行する現在の水路が造られた。それを受けて昭和32（1957）年からは団体営による耕地整理事業が随時実施され、一帯は現在の景観になっている。明治29（1896）年の『中頸城郡諏訪村大字米岡更正地図』によれば、遺跡周辺の道路・水路は現在よりも多く、現存するものも現在とは若干ずれた位置を通っている。また、字名も「下割」ではなく、遺跡付近が「権現堂」、西隣が「大坪田」である。米岡集落在住の川上環氏によれば、この付近の水利権も県営事業以前は中江用水ではなく重川用水であったという。

重川用水は、中江用水開削以前からある飯田川左岸地域を灌漑する用水であり、古墳群のある東頸城郡牧村宮口と北方の間から分岐する重川に水源を負っている。また、その重川そのものが用水路として開削され、時間の経過とともに侵食が進んで自然流路のようになったという［池田1967］。『慶長二年越後国絵図』では「わうま川」（現、飯田川）から分岐する人工的な重川が見られ、その先に重川用水及び真砂堰（現、上真砂）が掲載されている。

『慶長二年越後国絵図』には米岡を含む周辺集落が現在の大字名のまま掲載されている。また、同絵図の記載によると、米岡の検地高534余石は中江用水域52か村の中で2番目、本納高283余石は3番目の高さを誇っており、隣接する鵜町も高い生産力（検地高874余石は1番目、本納高277余石は4番目）を示していることから、この付近の農業生産力が当時すでに相当高い水準にあったことが窺える。

海岸に向かってなだらかに傾斜していく飯田川左岸は、右岸に比べて水利のよい場所であり、扇状地扇端の水田開発とあまり時期を違えずに水田化が進んだ可能性もある。これら水田の成立時期の違いは水利権の優先順位と関連することが多いが、その関係を示す水争いの史料には未だ十分な考察が加えられていない。それら史料の整理が、遺跡調査の成果とともに飯田川水系の集落展開を検討する上で重要となろう。

第Ⅲ章　調 査 の 概 要

1　グリッドと調査区の設定（第３図）

グリッドは国家座標を基準として10m方眼を組んで大グリッドとし、大グリッドを2m四方に25など分したものを小グリッドとした。グリッドの呼称は北から南をアルファベットの大文字、東から西を算用数字を用い両者の組み合わせで「5D」などと表した。なお、杭の呼称は、各大グリッドの北東杭にその大グリッドの呼称を付した。小グリッドは各大グリッドの北東隅を１、南西隅を25となるように番号を付し、「5D15」などと表した。平成14年度調査区では、5D杭の座標値が「世界測地系X＝125800.658、Y＝－16350.947」を示す。また、発掘調査区の東西南北にそれぞれ２本の土層観察用のセクションベルトを設定し、それにより区画された調査区を便宜上ⅠからⅧ区に分けて呼称した（第４図）。

2　基　本　層　序（第４図）

遺跡は飯田川左岸の自然堤防上に立地し、標高は13.0～13.5mを測る。調査前の現況は水田で平坦な地形を呈するが、旧来は現在の米岡集落付近を中心に標高が高く、南側に向かいなだらかに傾斜する地形であったことが、平成12年の上越市教育委員会の発掘調査（以下、上越市教委調査）で確認された［大居2002］。以下に基本土層を記すが、Ⅳ層、Ⅵ～Ⅷ層は部分的にしか堆積しない。

Ⅰ　層……黒褐色土。粘性あり。しまりあり。植物根を含む。耕作土に相当する。

Ⅱ　層……灰オリーブ色粘質土。粘性あり。しまりあり。酸化鉄を全面に含む。床土に相当する。

Ⅲ１層……オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。古代～近世の遺物包含層。

Ⅲ２層……黒褐色粘質土。粘性あり。しまりあり。径2mm程度の礫、炭化物を少量含む。古代～近世の遺物包含層。

Ⅳ　層……黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。基本は無遺物層である。

Ⅴ１層……明青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。Ⅴ２層に褐鉄鉱を含む。

Ⅴ２層……明青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。古代・中世の遺構確認面。

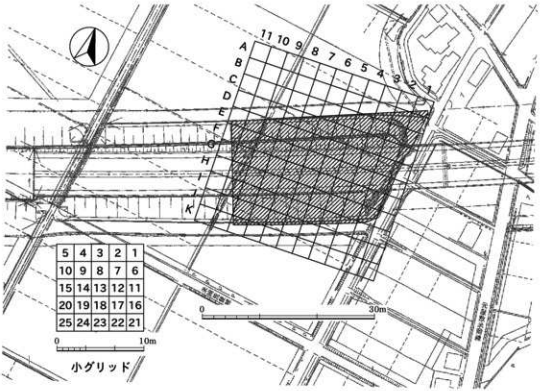
Ⅵ　層……暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。古墳時代～古代の遺物包含層。

Ⅶ　層……オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。酸化鉄をまばらに含む。古墳時代～古代の遺物包含層。

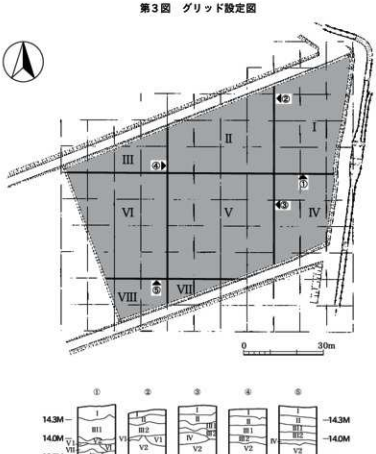
Ⅷ　層……灰オリーブ色粘質土。粘性あり。しまりややあり。酸化鉄をまばらに含む。古墳時代～古代の遺物包含層。

Ⅸ　層……黒褐色粘質土。古墳時代の遺物包含層。

Ⅹ　層……オリーブ灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。古墳時代の遺構確認面。



第３図　グリッド設定図



第４図　基本層序柱状図

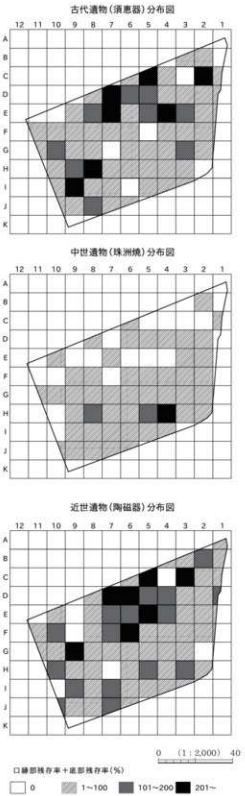
3　遺構・遺物の検出状況

遺跡は、飯田川の自然堤防上に形成され、遺跡のほぼ中央部が堀と考えられる大きな3つの溝（SD51・52・251）によって菱形に区画されている。遺構はその内側南東部に集中しているが、それ以外の区域では遺構の数は少ない傾向にある。遺物出土状況も同様に、遺構集中区を除いては散発的で、遺物包含層の含有密度が低かった。遺物は、古代・中世・近世のもので、特に中世の遺物が多く出土している。遺構出土の遺物も多くが中世であることから、中世の集落と考えることができる。

遺構は、掘立柱建物14棟とそれに付随する井戸・土坑・ピット・溝が検出された。掘立柱建物の柱穴の中には柱根が遺存するものも見られ、柱根形態は丸太形態と角材形態とがある。柱根の中には「ほぞ穴」を穿ったものも見られ、家屋の上屋部材からの転用材と考えられる。これらの掘立柱建物の主軸はほぼ溝の方向と一致することから、両者はほぼ同時期と考える。また、溝の外側でも、東側では道路状遺構と溝が、西側では井戸・土坑・ピット・溝などの遺構が検出されている。これらの遺構は溝（SD51・52・251）内側の遺構集中区からは離れているが、別の屋敷の一部と捉えることもでき、集村形態をとっていた中世の集落と考えるのが妥当である。

遺物は、古代では土師器・須恵器などが出土した。中世では、珠洲を中心に土師質土器や青磁などの輸入陶磁器、瀬戸美濃を中心とした国産陶磁器、石器・石製品、曲物・箸などの木製品、その他金属製品が出土した。また近世では、越中瀬戸、肥前系陶磁器などが出土し、寛永通宝もわずかながら出土した。

遺物の分布状況を平面的に見てみると（第5図）、古代の遺物は遺跡全体から広く出土していて、特に、SD51とSD52付近に集中している。中世の遺物は、区画溝の内側、遺構集中区を中心に出土している。近世の遺物は、遺構の北側にややまとまるが、出土範囲は遺跡全域に及ぶ。



第5図　出土遺物分布図

第Ⅳ章　遺　　構

1　遺構の記述・表記方法

A　記述・表記方法

掘立柱建物（SB）、井戸（SE）、溝（SD）、道路状遺構（SR）、土坑（SK）、ピット（P）、性格不明遺構（SX）について記述する。なお、掘立柱建物以外の柱穴、溝の一部は扱わない。また、土坑とピットについては、検出面での長径がおよそ70cm以下をピット、70cmをこえるものを土坑とした。規模については、特に断りのないかぎり、検出面での大きさである。計測値は、平面形上端の長径・短径の最大値を示している。

覆土については、本文中で「○○土」と記述したが、ほとんどが粘質土である。

遺構番号は層位・種別に関係なく、すべて通し番号としている。整理の段階で遺構種別を変更したものもあるが、遺構番号は調査時に付したものをそのまま使用している。また、整理の段階で同一の遺構と判断したものは、早い番号を生かし後の番号は欠番とした。

B　遺 構 の 分 類

遺構の形態は、平面形態と断面形態を中郷村所在の和泉A遺跡での分類基準［荒川・加藤ほか1999］に基づいて記載した。以下に転載する。

1）平　面　形　態

円　形：長径が短径の1.2倍未満のもの。
楕円形：長径が短径の1.2倍以上のもの。
方　形：長軸が短軸の1.2倍未満のもの。
長方形：長軸が短軸の1.2倍以上のもの。
不整形：凸凹で一定の平面形をもたないもの。

2）断　面　形　態

台形状：底部に平坦面をもち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱　状：底部に平坦面をもち、ほぼ垂直に立ちあがるもの。
弧　状：底部に平坦面をもたない皿状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状：底部に平坦面をもたない碗状で、急斜度に立ち上がるもの。
U字状：確認面の長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
袋　状：確認面の長径よりも底部の径が大きく、内傾して立ち上がるもの。
V字状：点的な底部をもち、急斜度に立ち上がるもの。
漏斗状：下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
階段状：階段状の立ち上がりをもつもの。

2 遺 構 各 説

A 掘 立 柱 建 物（図版6・7・9・11～19・43～45）

平成14年度の調査で14棟の掘立柱建物を検出した。SB002～SB013の12棟が、SD51・SD52・SD251に囲まれた内部で検出されたが、SB001がSD51とSD282に、SB014がSD51とSD252に区画された場所で検出された。主軸は区画となる溝の方向と一致する。所属時期は掘立柱建物や井戸が位置する地点に中世の遺物が集中すること、井戸や溝から出土する珠洲の年代から判断して、13世紀後半～14世紀になると考える。今年度の調査では約400基の柱穴が検出されており、掘立柱建物の棟数は増えることが明らかである。また、新旧関係は明確にしえなかったが、重複した柱穴が多数検出されたり、P347からはほぞ穴の入った柱材（188）が出土するなど、建設部材の転用もみられ、頻繁な建て替えの痕跡が確認できた。

SB001　9G・9H行3間（6.3m）×梁行1間（3.3m）の掘立柱建物である。方向はN－58°－Wを向き、SD251、SD52と平行する。面積は20.8m^{2}を測る。柱間寸法は約2.0～2.2mで、柱穴は径30～40cmの円形や楕円形を呈し、深さは26～71cmを測る。柱穴覆土はおおむね粘性のある暗灰色土でV2層をブロック状に含む。SX274と直交する形で重複する。

SB002　7H・7Iに位置する。桁行3間（7.2m）×梁行1間（3.9m）の掘立柱建物である。方向はN－20°－Eを向きSD51と平行する。面積は28.5m^{2}である。柱間寸法は約2.3～2.6mで、柱穴は径30～40cmの円形や楕円形を呈し、深さは41～81cmを測る。P534は径36cm、深さ67cmであり、径14cmの柱根が遺存する。柱穴の覆土はおおむねSB001と同様であるが、P535のみ炭化物を少量含む。SB002の南西側にはSX526が、建物内にはP529が位置する。

SB003　6H・6Iに位置する。桁行3間（9.1m）×梁行1間（6.2m）の掘立柱建物である。方向はN－73°－WでSD251、SD52と平行する。面積は56.4m^{2}である。柱間寸法は約2.7～3.7mである。柱穴は径44～72cmの円形や楕円形を呈し、深さは40～67cmである。P400には径8cmの柱根が遺存する。柱穴の覆土は粘性のある暗灰色土でV2層をブロック状に含む。SB004と重複するが新旧関係は不明である。建て替えの際拡張したものであろうか。

SB004　6H・6Iに位置する。桁行3間（8.2m）×梁行1間（4.0m）の掘立柱建物である。方向はN－73°－WでSD251、SD52と平行する。面積は32.8m^{2}である。柱間寸法は約2.5～3.0mとほぼ等間隔である。柱穴は44～75cmの円形や楕円形を呈し、深さは50～72cmである。P318はテラスをもつ楕円形の柱穴で、径15cmの柱根が遺存する。柱穴の覆土はおおむね炭化物を含み、粘性のある黒色系覆土でV2層をブロック状に含む。北東端の柱穴P318がP317に切られる。SB003と重複する。

SB005　5I・6Iに位置する。桁行2間（3.3m）×梁行1間（2.0m）の掘立柱建物である。方向はN－63°－WでSD251、SD52と平行する。面積は6.6m^{2}である。柱間寸法は1.3～1.7mで柱穴は30～46cmの円形や楕円形を呈し、深さは28～39cmである。柱穴の覆土は粘性のある黒色系覆土で炭化物を少量含む。SB006と重複する。

SB006　5H・5Iに位置する。桁行3間（7.2m）×梁行1間（5.2m）の掘立柱建物である。方向はN－23°－EでSD51と平行する。面積は37.4m^{2}である。柱間寸法は1.9～2.5mである。柱穴は径35～62cmの円形や楕円形を呈し、深さは18～84cmとかなりばらつき、特にP163・P176・P179・P

344は浅い。P459はテラスをもち、84cmと深い。P334には径17cmの柱根が遺存する。柱穴覆土は、炭化物を少量含む粘性のある黒色系覆土である。南西端の柱穴P176はP175を切り、柱穴P179はP180に切られる。SB005、SB007、SB008と重複する。

SB007　5H・5Iに位置する。桁行2間（4.3m）×梁行1間（2.8m）の掘立柱建物である。方向はN－70°－WでSD251、SD52と平行する。面積は12.0m²である。柱間寸法は1.7～2.3mで、柱穴は36～48cmの円形や楕円形を呈する。深さは18～59cmとばらつき、P360・P362は20cm前後と浅く、P330は59cmと深い。柱穴の覆土は粘性のある黒色系覆土で炭化物を少量含み、Ⅴ2層をブロック状に含んでいる。SB006、SB008と重複する。

SB008　5H・5Iに位置する。桁行3間（6.3m）×梁行1間（4.3m）の掘立柱建物である。方向はN－17°－EでSD51と平行する。面積は27.1m²である。柱間寸法は約2.0～2.2mである。柱穴は50～80cmの円形や楕円形を呈し、深さは51～80cmである。P305には長さ60cm、幅16cm、厚さ16cmの柱根、P348には長さ77cm、径30cmの柱根、P456には長さ73cm、幅27cm、厚さ17cmの柱根が残存していた。P305・P456の柱根は割材状である。柱穴覆土はおおむね粘性のある黒色系覆土で炭化物を少量含む。北西端の柱穴P387はP388を切っており、北東端の柱穴P493はSD591を切っている。SB006、SB007、SB009と重複する。

SB009　4H・5Hに位置する。桁行2間（7.5m）×梁行1間（3.2m）の掘立柱建物である。方向はN－69°－WでSD251、SD52と平行する。面積は24.0m²である。柱間寸法はP410とP245、P249とP376間が3.1mで、P245とP222、P376とP215間が4.5mである。柱穴は34～62cmの円形や楕円形を呈し、深さは27～64cmとばらつき、P376は27cmと浅い。柱穴覆土は粘性のある暗灰色土で炭化物・Ⅴ2層を含む。SB008と重複する。

SD212は建物の東側をコの字状に巡る溝である。幅約25cm、深さ10cmを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は暗青灰色土の単層で微量の炭化物を含む。西側にも同様にSD398が位置する。幅約30cm、深さ6cmを測る。断面形は弧状を呈し、覆土はオリーブ黒色土の単層である。ともに雨落溝と思われる。

SB010　4Hに位置する。SB010の西側に位置するSE78・SE139付近の崩落が激しく柱穴の検出が不可能であったため、全容は不明であるが、2間（3.2m）×1間（3.0m）の建物と思われる。方向はN－32°－EでSD51と平行する。柱穴は38～52cmの円形や楕円形を呈し、深さ30～64cmである。柱穴覆土は粘性のある暗灰色土で、径2～3mmの炭化物やⅤ2層をまばらに含む。

SB011　4I・5Iに位置する。桁行2間（3.1m）×梁行1間（1.9m）の掘立柱建物である。方向はN－55°－WでSD251、SD52に平行する。面積は5.9m²である。柱間寸法は1.4～1.6mで、柱穴は38～52cmの円形や楕円形を呈し、深さは20～37cmである。柱穴覆土はおおむね粘性のある暗灰色土でⅤ2層をまばらに含む。南東端の柱穴P90はP91を切る。

SB012　5G・6G・6Hに位置する。桁行3間（6.6m）×梁行1間（4.6m）の掘立柱建物である。整理作業の段階で新たに抽出した。方向はN－25°－Eを向き、SD51と平行する。面積は30.3m²である。柱間寸法は約1.9～2.4mで、柱穴は径25～50cmの円形を呈し、深さは24～51cmである。P556には径8cmの柱根が遺存する。柱穴の覆土はおおむね粘性のある暗灰色土で炭化物を少量含み、Ⅴ2層をまばらに含んでいる。

SB013　4Hに位置する。桁行2間（3.2m）×梁行1間（5.1m）の掘立柱建物である。整理作業の段階で新たに抽出した。方向はN－13°－Eを向き、SD51と平行する。面積は16.3m²である。柱間寸法は

約1.3～1.7mで、柱穴は径30～55cmの円形や楕円形を呈し、深さは37～50cmである。柱穴の覆土はおおむね炭化物を少量含む、粘性のある暗灰色土で、Ⅴ2層をブロック状に含む。SB010と重複する。

SB014　7J・8J・8Kに位置する。調査区端にあるため南東側は不明であるが、桁行3間（6.7m）×梁行1間（4.3m）の掘立柱建物である。整理作業の段階で新たに抽出した。方向はN-26°-Eを向き、SD51と平行する。面積は28.8m²である。柱間寸法は約1.9～2.6mで、柱穴は径30～55cmの円形や楕円形を呈し、深さは27～63cmである。柱穴覆土はおおむね粘性のある暗青灰色土でP761・P764には径3～10mmの炭化物が含まれる。SB014の北側にはSD278、SE280が位置する。

B　井　　戸（図版20～24・46～51）

井戸は全部で24基あり、すべて素掘りで、深さは100cm前後の比較的浅いものが多い。遺物は中世のものを中心に出土している。遺構の配置や出土遺物などからみて、おおむね中世の井戸と判断する。

SE78　4H2・7に位置する円形の井戸である。断面形はU字状で、規模は径70cm、深さ147cmを測る。覆土は単層で、暗灰色土が堆積する。土師器1点、砥石1点、木製品（158・159）が出土した。

SE126　4H16・21に位置する円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径94cm、短径84cm、深さ116cmを測る。覆土は単層で、灰色土が堆積する。遺物は出土していない。

SE139　4H7・8・12・13・17・18に位置する楕円形の井戸である。断面形は漏斗状で、規模は長径273cm、短径139cm、深さ96cm、くびれ部の径78cmを測る。覆土は2層に分層でき、ともに黒色系覆土が堆積する。1層はⅤ2層をブロック状に含み、2層はⅤ2層と炭化物を含む。出土遺物は、珠洲（52・53）、木製品（160）である。

SE190　5I16・17に位置する円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は径120cm、深さ129cmを測る。覆土は8層に分層できる。1～4・6・7層は黒色系覆土、5・8層は灰色系覆土で、下層はレンズ状堆積、上層は水平堆積となる。炭化物を多量に含む覆土7層から土師器と木製品（161）が出土した。

SE195　5I24・25に位置する円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は長径185cm、短径158cmを測る。覆土は3層は確認できる。東西方向で半裁しているが、記録を取り終える前に崩落した。出土遺物は、土師質土器（54）と木製品（162～165）である。P196を切る。

SE208　4H9に位置する楕円形の井戸である。断面形は漏斗状で、規模は長径115cm、短径85cm、深さ88cm、くびれ部の径65cmを測る。掘り込みは鮮明で、覆土は4層に分層できる。いずれも黒色系覆土がレンズ状に堆積する。出土遺物は珠洲（56）である。P213に切られる。

SE210　4F19・20・24・25に位置する円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は長径165cm、短径150cm、深さ154cmを測る。掘り込みは鮮明で、覆土は15層に分層できる。おおむね黒色系覆土と灰色系覆土の互層となっており、レンズ状に堆積する。出土遺物は、珠洲（57）と砥石（143）、木製品（167～169）、金属製品（191）である。

SE226　4H4・5・9・10に位置する不整形な井戸である。断面形はU字状で、規模は長径157cm、短径127cm、深さ110cmを測る。覆土は3層に分層できる。いずれも黒色系覆土で、1・3層はⅤ2層を含む。出土遺物は、珠洲（57・58）、土師器、須恵器である。

SE229　4H15・5H11に位置する不整形な井戸である。断面形はU字状で、規模は長径150cm、

短径128cm、深さ120cmを測る。覆土は5層に分層できる。1～3層は黒色系覆土、4・5層は灰色系覆土が堆積する。1層はⅢ2層に相当し、2層はⅤ2層を含む。出土遺物は、珠洲（60）と木製品（170・171・173）である。

SE277　10H2・3に位置する円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は長径208cm、短径177cm、深さ88cmを測る。覆土は5層に分層でき、レンズ状に堆積する。1・3～5層は黒色系覆土、2層は緑灰色土が堆積する。出土遺物には木製品（172）がある。

SE280　8J11・12に位置する円形の井戸である。断面形はU字状で、規模は長径85cm、短径80cm、深さ106cmを測る。覆土は4層に分層できる。1層は灰色土、2～4層は黒色系覆土で、おおむね水平に堆積する。出土遺物は、須恵器（16）と土師質土器（60）である。

SE385　5H1・2・6・7に位置する円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径70cm、短径62cm、深さ54cmを測る。覆土は6層に分層できる。おおむね黒色系覆土がレンズ状に堆積する。特に3層は炭の層となる。出土遺物は珠洲（61）1点である。

SE422　5G25、5H5に位置する不整形な井戸である。断面形は台形状で、規模は長径290cm、短径230cm、深さ90cmを測る。覆土は5層に分層でき、いずれも黒色系覆土が堆積する。出土遺物は、土師器、須恵器（17）、珠洲（62～64）、木製品（著）である。

SE448　5F21・22に位置する円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径85cm、短径73cm、深さ102cmを測る。覆土は6層に分層できる。1～3・5層は黒色系覆土、4・6層は灰白色土が堆積する。遺物は出土していない。

SE455　6I9・10・14・15に位置する円形の井戸である。断面形は台形状で、規模は長径233cm、短径215cm、深さ114cmを測る。覆土は4層に分層できる。1層はⅤ2層に類似する灰白色土、2層は灰白色土、3・4層は黒色系覆土が堆積する。また、4層は炭化物を多く含む。出土遺物は、土師器と磨石類（144）、木製品（174・175）である。

SE538　7I2に位置する円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径65cm、短径55cm、深さ79cmを測る。覆土は3層に分層できる。いずれもⅤ2層を含む黒色系覆土で、おおむね水平に堆積する。出土遺物は珠洲（65・66）である。

SE656　9G15に位置する円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径84cm、短径73cm、深さ109cmを測る。覆土は3層に分層できる。1層は暗灰色土が、2・3層は黒色系覆土が堆積する。1層はⅤ2層を含む。出土遺物は土師器である。

SE657　9H5に位置する円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径68cm、短径60cm、深さ68cmを測る。覆土は3層に分層できる。1・2層は黒色系覆土が、3層は灰色土が堆積する。遺物は出土していない。P658を切る。

SE706　9E7・12・13に位置する円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径85cm、短径84cm、深さ135cmを測る。覆土は3層に分層でき、いずれも黒色系覆土が堆積する。出土遺物は須恵器片1点のみである。

SE714　10I21、10J1に位置する円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径135cm、短径123cm、深さ110cmを測る。覆土は3層に分層できる。いずれも黒色系覆土で、多量の炭化物を含む。出土遺物は、珠洲、土師器、木製品（178）、小刀（192）である。

SE717　8F4・9に位置する円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径70cm、短径64cm、

深さ141cmを測る。覆土は3層に分層でき、黒色系覆土が堆積する。出土遺物は土師器片数点である。

SE725　8F24に位置する円形の井戸である。断面形は漏斗状で、規模は長径117cm、短径104cm、深さ142cm、くびれ部の径65cmを測る。覆土は3層に分層でき、いずれも黒色系覆土が堆積する。出土遺物は、土師器、珠洲と木製品（179・180）である。

SE736　9E22に位置する円形の井戸である。断面形はU字状で、規模は長径65cm、短径55cm、深さ120cmを測る。覆土は3層に分層でき、いずれも黒色系覆土が堆積する。出土遺物は、土師器、白磁（67）と木製品である。

SE741　10G20に位置する円形の井戸である。断面形は箱状で、規模は長径86cm、短径76cm、深さ121cmを測る。覆土は4層に分層でき、いずれも黒色系覆土が堆積する。1・2・3層は炭化物を少量含み、3層には籾殻が多量に混入していた。出土遺物は、珠洲（68）と台石（145）である。

C　溝（図版2～10・51・52）

主に区画溝と考えられるものを扱う。

SD19　1H10～2G9に位置する。全長12m、幅1.6m、深さ20cmの規模で、立ち上がりは比較的急である。方向はN-40°-Wである。覆土は3層に分層でき、1・2層は黒色系覆土、3層は灰オリーブ色土が堆積する。2GでSD20に切られる。SD52の延長線上に位置する。出土遺物には須恵器（19）がある。

SD20　1G20～2H23に位置する。全長16m、幅1.3～2m、深さ54cmの規模で、立ち上がりは比較的急である。方向はN-5°-Eで、途中からN-74°-Eとなる。覆土は4層に分層でき、1・3・4層は灰色系覆土が堆積し、2層は黒色土が堆積する。出土した遺物は、須恵器と台石（149）である。2GでSD19を切る。2Hに入り、SD52と平行する。

SD51　6C19～10J21に位置する。全長77m、幅1.2～4.5m、深さ44～100cmの規模で、立ち上がりはやや緩やかである。方向はN-24°-Eで、覆土は4層に分層できる。1層はⅢ2層類似の層であるが、部分的に覆土1層の上にⅢ2層が堆積する。1層とⅢ2層は相前後して堆積したものと考える。1層は青灰色土で、その他の層は黒色系覆土が堆積する。出土した遺物は、須恵器（21～28）や珠洲（72・74）、土師質土器（73）、磨石類（146）、台石（147）、その他木製品（181・182）である。また、9I1・2からは、獣骨が出土した。なお、須恵器と珠洲の層位的な傾向は須恵器は上層からの出土であるが、珠洲は下層からも出土する。他の遺構との関連や出土遺物から、SD51の時期は中世であると考える。SD51はSD52・SD251とともに敷地の周りを囲む堀を構成する。堀は一辺50～60m程で、平面形は菱形を呈する。

SD52　6C24～3I7に位置する。全長70m、幅2～3.8m、深さ44～63cmの規模で、立ち上がりはやや急である。方向はN-51°-Wで、途中からN-40°-W、N-6°-Eと変化する。覆土は9層に分層できる。1層はⅢ2層類似の層であるが、部分的に覆土1層の上にⅢ2層が堆積する。1層とⅢ2層は相前後して堆積したものと考える。2・4・5・9層は黒色系覆土で、その他の層は灰色系覆土が堆積する。出土した遺物は、須恵器（29～33）や珠洲（75・76・78）、土師質土器（77）、銭貨（193・194）である。また、6C23で馬と思われる獣骨と臼歯（岡山理科大学富岡直人氏御教示、図版66）が出土した。なお、須恵器と珠洲の層位的な傾向は確認できない。他の遺構との関連や出土遺物から、SD52の時期は中世であると考える。

SD151　5C15～3E9に位置する。全長27m、幅1.2～1.6m、深さ30cmの規模で、立ち上がりは比較的緩やかである。方向はN-52°-Wである。覆土は単層で、暗緑灰色土が堆積する。出土した遺物は土師器と須恵器である。位置関係は、SD52とは平行し、SD25は延長線上に位置する。

SD251　6J6～8H25に位置する。全長31m、幅1.7～2m、深さ50cmの規模をもつ。立ち上がりは比較的急である。方向はN-64°-Wである。覆土は6層に分層でき、1・5・6層は灰色系覆土、それ以外は黒色系覆土が堆積する。出土した遺物は、須恵器（251）と珠洲（79）である。

SD51	SD52	SD251
1層	1層	1層
2層		
3層	2層	2層
		3層
	3層	
	4層	4層
	5層	
4層	6層	5層
	7層	
	8層	6層
	9層	

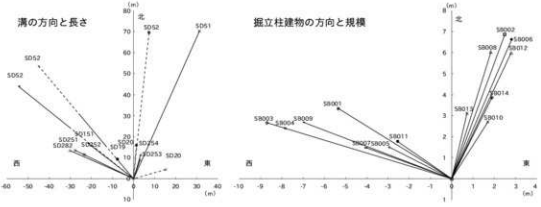
第2表　溝（SD51・52・251）の層位対応表

SD252　6J13～9I11に位置する。全長26m、幅2.3～5.5m、深さ24cmの規模で、立ち上がりは比較的急である。方向はN-64°-Wである。覆土は単層で、灰色土が堆積する。出土した遺物は、須恵器（35）と珠洲（80）、銭貨（195）である。SD251と平行する。

SD253　10E9～11F11に位置する。全長9.5m、幅1.3m、深さ43cmの規模で、立ち上がりは比較的緩やかである。方向はN-19°-Eである。覆土は3層に分層される。1・3層は灰色系覆土、2層はオリーブ黒色土が堆積する。遺物は出土していない。SD254と平行する。

SD254　10E8～10F15に位置する。全長12m、幅1m、深さ9cmの規模で、立ち上がりは比較的急である。方向はN-17°-Eである。覆土は単層で、酸化鉄を含む灰色土が堆積する。遺物は出土していない。SD253と平行する。

SD282　8G14～11F4に位置する。全長33m、幅0.9～1.4m、深さ20～30cmの規模で、立ち上がりは比較的緩やかである。方向はN-66°-Wである。覆土は単層で、褐灰色土が堆積する。出土遺物は須恵器である。



第6図　溝・掘立柱建物の方向と規模

D 道路状遺構（図版2・3・6・8・53）

SR18（SD16・SD17）

調査区の北東部を北東から南西へ並行するSD16とSD17及びその間のピットで構成される。検出された長さは約32m、路面幅約1.5m、SD16・SD17の心々距離約6mを測る。方向はN－45°－Eである。路面中央部からは長径60～80cm、短径20～40cm、深さ10cm前後の楕円形のピットが連続して18基検出された。ピットの覆土は、粘性が強く2層に分けられ、4層は暗緑灰色土、5層はオリーブ黄色土でよくしまっていた。路面の波板状凹凸面と判断した。SD16は長さ約40m、幅約1.1m、深さ約25cm、SD17は長さ約12m、幅約1.8m、深さ約20cmを測る。両溝とも覆土は3層に分かれ、1層はⅢ2層、2層は黒色土、3層は灰オリーブ色土で粘性がありよくしまる。SD17の南東側にはSD17に平行してSD21が位置する。SD21が埋まってからSD17が掘削される。SD21から出土遺物はないので明確ではないが、SR18は構築し直された可能性もある。遺物は須恵器（18）、珠洲（70）、青磁が出土している。側溝の出土遺物から、中世以降に構築された可能性が高いと思われる。

SR600（SD23・SD27）

調査区の南東部を北東から南西へ向かって、並行する2条の溝SD23とSD27で構成される。長さは20～25m、SD23・SD27の心々距離約2.6mを測る。方向はN－35°－Eである。SD23は幅60cm、深さ13cmを測り、SD27は幅60cm、深さ11cmを測る。覆土は両溝とも単層で、黒色土が堆積する。SD23・SD27間で硬化面は確認できなかった。また、3Hの周辺ではピット（柱穴）と重複するが、一部を除いて新旧関係は確認できなかった。新旧関係が確認できたものはピット（柱穴）がSR600を切る。SR600の北東側はSD52に切られるが、北西側のSD51とは平行になる。SD52をこえて2F・2Gでは、SD23・SD27は確認できない。中世の溝（SD52）に壊されていることから、中世かそれ以前に構築されたものと考えられる。

E 土坑・ピット・その他（図版2・3・9・10・25～28・54～58）

柱穴以外の土坑やピット、性格不明遺構を扱う。多くが時期・性格を明確にしえない。

SK71　4G6に位置する。平面形は不整形で、断面形は弧状である。径130cm、深さ20cmの規模で、立ち上がりはやや緩やかである。覆土は3層に分層できる。1層はⅢ2層に相当し、2層は暗灰色土、3層は明青灰色土が堆積する。遺物は出土していない。東側をトレンチで切られる。

SK157　5I22に位置する。平面形は円形で、断面形は弧状である。径110cm、深さ30cmの規模で、立ち上がりは比較的緩やかである。覆土は4層に分層でき、1～3層は黒色系覆土、4層は緑灰色土が堆積する。遺物は出土していない。P156を切る。

SK187　1C18に位置する。平面形は不整形で、断面形は台形状である。SD16の床面で検出された。長径160cm、短径130cm、深さ37cmの規模で、立ち上がりは急である。覆土は単層で、Ⅲ2層に相当する。遺物は出土していない。SD16との切り合いは、SD16覆土1層・SD187覆土1層ともⅢ2層に相当することから、SD16が覆土2層まで埋まった段階でもSK187は開口していたと思われる。よって、SK187がSD16を切ると思われる。

SK201　4H4に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状である。長径90cm、短径86cm、深さ52cmの規模で、立ち上がりは比較的急である。覆土は3層に分層でき、1・2層は黒色系覆土、3層

は明青灰色土が堆積する。2層から縮銭97枚（202～296）が出土した。

SK205　4H17・18・22・23に位置する。平面形は不整形で、断面形は漏斗状である。長径350cm、短径170cm、深さ35cm、くびれ部の径156cmの規模で、立ち上がりは比較的緩やかである。覆土は2層に分層でき、1層は暗灰色土、2層は灰色土が堆積する。出土遺物は、土師質土器（84）、木製品である。

SK206　4H4・5に位置する。平面形は不整形で、断面形は階段状である。長径190cm、短径30～160cm、深さ24cmの規模で、立ち上がりは比較的急である。覆土は単層で、暗灰色土が堆積する。出土遺物は珠洲である。

SK209　4H14・15に位置する。平面形は円形で、断面形は弧状である。径130cm、深さ34cmの規模で、立ち上がりはやや急である。覆土は3層に分層でき、1・3層は黒色系覆土、2層は明青灰色土が堆積する。2・3層はⅤ2層を含む。出土遺物には珠洲がある。

SK264　7J14・15・19・20に位置する。平面形は不整形で、断面形は階段状である。長径360cm、短径210cm、深さ48cmの規模で、立ち上がりは比較的急である。覆土は4層に分層され、1～3層が灰色系覆土、4層がオリーブ黒色土となる。遺物は出土していない。

SK275　9I9・10・14・15、10I1・2・6・7・11・12に位置する。平面形は不整形で、断面形は弧状である。長径660cm、短径230cm、深さ26cmの規模で、立ち上がりは緩やかである。覆土は2層に分層できる。いずれも黒色系覆土が堆積し、酸化鉄を含む。出土遺物は土師器である。

SK276　10H6・11に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状である。長径180cm、短径120cm、深さ49cmの規模で、立ち上がりは急である。覆土は3層に分層でき、1・3層は黒色系覆土が、2層は青灰色土が堆積する。遺物は出土していない。

SK419　5G20・25に位置する。平面形は円形で、断面形は弧状である。長径180cm、短径150cm、深さ30cmの規模で、立ち上がりはやや急である。覆土は3層に分層でき、いずれも黒色系覆土が堆積し、1・3層はⅤ2層を含む。遺物は出土していない。

SK537　7H12・17に位置する。平面形は楕円形で、断面形は弧状である。長径140cm、短径110cm、深さ24cmの規模で、立ち上がりは緩やかである。覆土は単層で、暗灰色土が堆積する。遺物は出土していない。

SK572　4G24に位置する。平面形は円形で、断面形は台形状である。長径110cm、短径100cm、深さ15cmの規模で、立ち上がりは急である。覆土は単層で、Ⅴ2層を含む暗緑灰色土が堆積する。遺物は出土していない。

P41　3H14に位置する。平面形は円形で、断面形は箱状である。長径90cm、短径80cm、深さ23cmの規模で、立ち上がりは急である。覆土は単層で、炭化物を多く含む黒色土が堆積する。遺物は出土していない。

P118　4H18・19に位置する。平面形は楕円形で、断面形は台形状である。長径80cm、短径50cm、深さ28cmの規模で、立ち上がりは急である。覆土は単層で、炭化物を含む暗灰色土が堆積する。遺物は出土していない。

P167　6I6・7に位置する。平面形は楕円形で、断面形は台形状である。長径90cm、短径70cm、深さ36cmの規模で、立ち上がりは急である。覆土は5層に分層され、いずれも黒色系覆土が堆積する。2・4・5層はⅤ2層をまばらに含む。遺物は出土していない。

P488　6I21・22に位置する。平面形は楕円形で、断面形は台形状である。長径70cm、短径50cm、深さ24cmの規模で、立ち上がりは急である。覆土は3層に分層され、1・2層は黒色系覆土、3層は緑灰色土が堆積する。遺物は出土していない。

P500　5G21、5H1に位置する。平面形は楕円形で、断面形はV字状である。長径90cm、短径80cm、深さ58cmの規模で、立ち上がりは急である。覆土は単層で、暗青灰色土が堆積する。出土した遺物は瀬戸美濃（93）である。P551を切る。

SX22　2D、2E、3D、3Eに位置する。平面形は長方形で、断面形は弧状である。長さ970cm、幅570cm、深さ32cmの規模をもつ。立ち上がりは、南側は緩やか、北側はややや急である。掘り込みは、北側が撹乱のためやや不鮮明である。覆土は2層に分層できる。1層はV2層に相当し、2層は黒色土が堆積する。SX22周辺は古墳時代の包含層が浅く、覆土2層と見分けがつきにくい。発掘中に、ベルトに古墳時代の包含層を確認することができることから、SX22は古墳包含層を切っていないと考える。出土した遺物は、須恵器、灰釉陶器（36）、珠洲である。なお、須恵器にはSD16覆土1層出土のものと同一個体の破片がある。器種は甕であろう。長軸はSD25・52・151と平行する。性格は不明であるが、中世の竪穴状遺構である可能性もあろうか。

SX72　4Gに位置する。平面形は不整形で、断面形は弧状である。長径220cm、短径180cm、深さ11cmの規模で、立ち上がりは緩やかである。覆土は2層に分層でき、ともに黒色系覆土が堆積する。出土遺物は珠洲である。

SX274　9G・9Hに位置する。平面形は長方形で、断面形は弧状である。長径840cm、短径540cm、深さ40cmの規模をもつ。立ち上がりは比較的緩やかで、掘り込みはやや不鮮明である。覆土は3層に分層できる。1層は暗青灰色土、2・3層は灰色系覆土が堆積する。出土遺物は珠洲である。SX274と直交する形でSB001が重複する。SX274内のピットでSB001以外のピットは、配置に規則性が認められないため、SX274に伴うとは判断しなかった。床面のレベルは南西側と北東側で違い、北東側のほうが低い。このことから、セクションでは確認できていないが、2つの遺構が重複している可能性もある。性格は中世の竪穴状遺構の可能性がある。

SX465　6Iに位置する。断面形は弧状である。径250cm、深さ14cmの規模をもつ。立ち上がりは緩やかである。覆土は3層に分層できる。1層は灰オリーブ色土が堆積し、2・3層は黒色系覆土で多くの炭化物を含む。遺物は出土していない。南東側を一次調査のトレンチ（7トレンチ）によって切られる。

SX526　7Iに位置する。平面形は長方形で、断面形は弧状である。長径170cm、短径140cm、深さ18cmの規模をもつ。立ち上がりは緩やかで、掘り込みは鮮明である。覆土は2層に分層できる。1層は黒色土で炭化物を多く含む。2層は暗灰色土でV2層を含む。遺物は出土していない。

SX672　7E・7Fに位置する。平面形は不整形で、断面形は弧状である。長径310cm、短径190cm、深さ12cmの規模をもつ。立ち上がりは緩やかで、掘り込みは不鮮明である。覆土は単層で、Ⅲ2層に相当する暗灰色土が堆積する。遺物は出土していない。

第Ⅴ章　遺　　物

遺物の掲載は時期ごとに行い、その上で遺構出土遺物と包含層出土遺物を分けて掲載した。記載は時期・種別ごとに行い、必要によっては器種ごとにまとめて記述した。

1　一次調査の遺物（図版29・59）

本項では、平成14年度調査範囲内の一次調査トレンチ出土遺物のうち、古代～近世の遺物（1～15）を報告する。対象となるのは1～4・6～8・12・13トレンチである（第1図）。一次調査出土遺物と二次調査出土遺物とは特に接合はしていない。なお、編年などは本章2以降を参照していただきたい。須恵器は4点図示した（6・7・11・15）。6は体部下半のみ残存するが、器壁は薄く、底部と体部の境が比較的明瞭である。所属時期は6が今池Ⅳ期、15が今池Ⅰ～Ⅱ期であろう。1は土師質土器の皿で、13世紀後半～14世紀の所産であろうか。珠洲は6点図示した（2・3・4・10・12・13）。10の片口鉢がⅢ期の所産である以外は、時期を明確にしえない。越中瀬戸は2点図示した（5・14）。ともに17世紀前半の皿である。肥前系陶器は2点図示した（8・9）。8はⅡ期の溝縁皿、9はⅡ～Ⅲ期頃の擂鉢である。

2　古代の遺物（図版29・59）

本項では土師器、須恵器、灰釉陶器を扱う。土師器・須恵器の編年については主に今池遺跡群での編年［坂井ほか前掲］に準拠する。

A　土　師　器（37）

少量の破片が出土しているが、接合は低調で、確認できる器種は甕である。37は9世紀前葉の甕で、口縁部は外傾し、端部でわずかに立ち上がる。

B　須　恵　器（16～35・38～51）

器種は坏・坏蓋・広口瓶・甕・横瓶などが確認できる。坏は有台坏・無台坏とも確認できるが、有台坏の割合が高い。有台坏は今池（以下、今池省略）Ⅰ～Ⅱ期（20・21・25・29・30・39・40）とⅣ期（16・17・26・27・38・41）に比定できる。Ⅰ～Ⅱ期の有台坏は高台が内端で接地し、体部下半に丸みを帯び、底部と体部の境が不明瞭なものが目立つ。全体の器形が判明するのは21・25・39・40の4点で、口縁部は直線的に立ち上がる。21以外は器壁が比較的薄い。Ⅳ期の有台坏は、高台が外端で接地するもの（26・27）とほぼ全面で接地するもの（38・41）は器壁も薄く、底部と体部の境が比較的明瞭である。41は身が深い。高台が内端で接地するもの（16・17）は、体部下半から底部にかけて丸みを帯びる。無台坏は23がⅠ期頃に、18・22・44はⅢ～Ⅳ期に比定できる。32の底部は上げ底状で、外底面には糸切り痕が残る。器壁はやや薄く、口縁部はわずかに外反する。口径に対して底径が大きい。43は底部と体部の境が明瞭で、底部の厚さに比し体部が薄い。ともにⅣ期の所産と考える。坏蓋は6点図示

した。35の口縁は明瞭に折り返されずに垂下し、24・47は折り返された後、垂下する。33のつまみは擬宝珠型に近い。時期は35がⅡ～Ⅲ期、その他はおおむねⅢ～Ⅳ期に収まるものと思われる。48はⅦ期頃の広口瓶で、小泊窯産であろう。甕は4点図示したが（19・28・34・50）、時期は不明確なものが多い。34は割口が磨られており、研磨具に転用されたものと考える。50は外反する口縁部片で、端部に面を持つ。9～10世紀頃の所産である。49は長頸瓶と思われ、頸部内面に線刻が確認できる。このほか線刻が確認できるものが、坏で3点（27・42）、坏蓋で3点（24・31・45）ある。坏は3点とも有台坏で、外底面に「×」印が線刻される（42）。そのうち2点が糸切り（42）、1点が不明（27）である。坏蓋はいずれも内面に「－」印が線刻される（31）。51の横瓶はⅥ期の所産で、体部両端を欠損する。

C　灰　釉　陶　器（36）

36の器種は皿であろうか。施釉範囲は明確ではないが、内底面には施釉されないようである。高台は貼り付けで、内端で接地する。断面は長方形を呈する。10世紀の所産と考える。

3　中　世　の　遺　物（図版30～37・59～65）

本項では土師質土器、珠洲、越前、瀬戸美濃、輸入陶磁器、石器・石製品、木製品、金属製品を扱う。なお、陶磁器類の分類・編年などについては、それぞれ以下の各氏の論考に準拠した。珠洲…吉岡康暢氏［吉岡1994］、瀬戸美濃…藤澤良祐氏［藤澤1995・2002］、青磁碗…上田秀夫氏［上田1982］、白磁…横田賢次郎氏・森田　勉氏［横田・森田1978］、中国染付…小野正敏氏［小野1982］である。

A　土 師 質 土 器（54・60・73・77・84・94～96）

器種は皿と内耳鍋が確認できる。54・60・73・84・94・95の皿は13世紀後半～14世紀の所産である。77は15世紀後半～16世紀の京都系の皿で、内外面とも炭化物が付着する。灯明皿としての使用が考えられる。いずれも手づくね成形である。96は内耳付の鍋で、15世紀の所産と考える。

B　珠洲（52・53・55～59・61～66・68～72・74～76・78～83・85～92・102～121）

器種は甕・壺・片口鉢が確認できる。甕は体部破片が多く、時期を明確にしえないものがほとんどであるが、わずかにⅡ期（102）、Ⅴ期（103）の口縁部片が確認できる。体部破片では、漆で補修された破片2点（106）、研磨具に転用された破片1点（108）が確認できる。壺の体部破片も時期を明確にしえないものがほとんどで、特に壺T種と甕とでは識別すら難しい。ここでは時期が判明する破片を3点図示した。109はⅢ期の所産と考える。110・111は壺R種に分類でき、体部に櫛目波状文が施文される。Ⅲ～Ⅳ期の所産と考える。片口鉢はⅡ～Ⅵ期のものが確認できる。Ⅱ期の所産は2点図示した（85・121）。85の口縁部内端は上方につまみ上げられる形態である。卸目は細い。121の内面には流水状の卸目が確認できる。Ⅲ期の所産は5点図示した（64・69・71・88・112）。71・88の口縁部は直線的に立ち上がり、それ以外は内湾しながら立ち上がる。64の口縁端部はやや肥厚する。Ⅳ期の所産は13点図示した（52・53・55～57・61・62・65・74・80・86・92・113）。いずれも口縁部は直線的に立ち上がる。法量は、口径が23.4～33.2cm、器高が8.7～15.0cm、底径が8.7～14.8cmである。Ⅴ期の所産は2点図示した（89・114）。114の口縁は肥厚し、端部には櫛目波状文が施される。Ⅵ期の所産は1点図示した（115）。

口縁部内端面には櫛目波状文が施文される。120の内面は卸目が消えかかるほど使用されている。

C　越　　前（97～101）

器種は壺と擂鉢が確認できる。97・98は壺で、15世紀後半～16世紀前半の所産であろう。99～101の擂鉢は口縁部内面にやや不鮮明な沈線が巡らされる。16世紀前半の所産と考える。

D　瀬　戸　美　濃（93・122～130）

器種は碗・皿・擂鉢・合子・茶入が確認できる。93は古瀬戸中期様式Ⅲ～Ⅳ期の合子で、体部に波状文が確認できる。122～125は天目碗で、122が古瀬戸後期様式Ⅳ期、123が大窯第４段階、124が大窯第３～４段階の所産である。125の高台は輪高台である。126～128は皿で、126・127の見込は釉剥ぎされる。126は大窯第１～２段階、127は大窯第４段階である。128は大窯第４段階後半の志野絵皿である。129は古瀬戸後期様式の擂鉢ないし大平鉢、130は内外面に鉄釉が施釉される茶入である。

E　輸 入 陶 磁 器（67・131～142）

青磁は碗（131～134）・皿（135・136）・盤（137・138）が確認できる。131は口縁部が外反するD類で、14世紀の所産と考える。133も131と同様の器形になろう。132は蓮弁文が認められ、B－Ⅲ類に分類できる。15世紀中葉の所産である。134の高台は外側が斜めに削がれる。135は見込が釉剥ぎされる皿である。136は稜花皿で内面に劃花文が見られる。口縁の稜花が不規則で、劃花文の施文もやや稚拙である。15世紀後半の所産と考える。137は盤で口縁端部は直立し、内面には蓮弁状の文様が表現される。13～14世紀の所産であろうか。138も盤で高台内は釉剥ぎされる。139は青白磁の梅瓶で、体部下位に２条の沈線を巡らし、その上に文様が配される。12世紀の所産である。

白磁は皿（140）・水注（67）が確認できる。140はいわゆる「口禿げの白磁」で、白磁皿Ⅸ類に分類できる。13世紀中頃～14世紀初頭の所産と考える。67の胴口には漆が付着する。12世紀の所産である。中国染付は碗（141・142）が確認できる。141の口縁は外反し、B群XII類に分類できる。口縁部と体部下位の界線間に唐草文が認められる。14世紀末～15世紀中葉の所産である。142はE群ⅦB類に分類でき、見込に人物、高台内に「□□年造」の銘が認められる。16世紀中葉の所産と考える。

F　石器・石製品（143～157）

石器は磨石類が15点・台石が31点・砥石が19点・錘１点・石製品は硯が３点・五輪塔が１点出土した。磨石類は楕円形（146・150・151）や棒状（144）の自然礫を素材とし、磨痕や敲打痕、凹痕などが認められる石器である。分布は、8I～10JのSD51から４点出土し、4H～5Hで３点出土している。その他は1B～8Hまで分布する。146・151には炭化物が付着する。台石（145・147～149）は比較的扁平な自然礫を素材とし、敲打痕や炭化物の付着が認められるものとしたが、実際は敲打痕が認められるものは確認できなかった。分布は、9H、9IのSD51から７点出土している。その他は1E～10Jまで分布する。砥石（143・152）は4F～9Fまで分布するが、4H～5Iの遺構が集中している地点から８点出土する。錘（153）は敲打することで整形し、さらに中央の溝も設けている。漆が部分的に付着するが、本来全体に塗布されたものと考えられる。中央の溝に紐などを掛けて、おもりとして使用したものであろうか。おもりとして使用したのであれば、その重さ78.08gはおよそ20.8匁にあたる。時期は明確にはし

えないが、出土地点、その他の出土遺物などを考慮し、中世～近世の所産としておく。

硯は3点出土した（154～156）。154の外面形態は台形で側面は裏面から硯面に向かって開く。内面は入角で、裏面は平坦である。使用後まもなく海の部分が欠損したため、陸側に新たに海を作り使用しているが、その作出は稚拙である。形態から推して13世紀後半～14世紀の所産と考える［水野1985］。155は被熱するが、形態は154と同様と考えられる。156は上下と裏面を欠損するため外面形態は不明である。溝を2条設けることで硯面を作出する。157は五輪塔の空風輪で、空輪の大部分を欠損する。時期は明確にはしえないが、出土遺物から中世～近世の所産としておく。

G　木　製　品（158～190）

曲物の底板や側板・箸・柱根などが認められ、多くが井戸や溝から出土した。曲物の底板は6点図示した（158・166・169・171・177・183）。166の上下左右には釘穴が1か所ずつ確認できる。171には樹木に果実が実るような絵が墨書される。曲物側板は4点図示した（172・174・176・178）。174には線条痕が残る。176はその大きさから柄杓としての用途が考えられる。箸は4点図示した（165・167・170・175）。167の断面は長方形である。それ以外は比較的よく面取りされ、断面は円形に近い。160は小刀などの柄と考える。釘穴の一部には木釘が遺存する。161・173・179は箱物の部材と思われる。いずれも釘穴が残り、線条痕が認められる。184も箱物の部材と思われ、内面には赤漆、外面には黒漆が塗布される。180の上下には抉りが確認できる。182は樹皮を巻いた状態のもので、曲物の皮止めであろう。その他、指物の部材（162）、把手と思われる部材（159・168）、杭状の部材（181）などが確認できる。185～190は柱根である。188はほぞ穴が認められ、上屋の部材が転用されたと考える。

H　金　属　製　品（191～296）

小刀、銭貨などが出土している。191の内面は緩やかに湾曲している。種別は明確にしえないが、鍋の可能性がある。191が出土したSE210からは56も出土している。192は先端の一部を欠損するものの、ほぼ完形の小刀である。柄には目釘穴が残り、SE714覆土3層から出土した。SE714からは珠洲などが出土している。同様の小刀は、上越市教委調査でも井戸から出土した。

銭貨は全て合わせ114枚出土した。内訳は緡銭が97枚、照寧元宝3枚（193・199）、皇宋通宝1枚（194）、景徳元宝1枚（195）、乾元重宝1枚（196）、太平通宝1枚（197）、祥符元宝1枚（198）、嘉定通宝1枚（200）、淳祐元宝1枚（201）、寛永通宝3枚（328）、不明4枚である。なお寛永通宝は近世の項で扱うこととし、193～201の詳細は観察表を参照していただきたい。緡銭はSK201覆土2層から97枚出土した。藁紐は既に腐ってなくなっていた。出土状況の北側から順に202～296に図示した。243は42番目と43番目が付着しており、種類は判明せず、裏面のみ掲載した。さらに59番目（政和通宝）は砕片となっていたため掲載していないが、本来258と259の間に入る。初鋳年は開元通宝の621年ないし960年が最も古く、嘉泰通宝の1208年が最新となる。北宋銭の割合が高い。

4　近世の遺物（図版38・65・66）

本項では越中瀬戸、肥前系陶磁器、京・信楽系、金属製品などを扱う。なお、肥前系陶磁器の時期区分、器種その他については主に大橋康二氏の論考［大橋1993］に準拠する。

A　越　中　瀬　戸（297～307）

器種は皿・擂鉢・壺が確認できる。297～299は17世紀前半頃所産の皿で、298は口縁部が外反し、299は底部から直線的に立ち上がる器形となる。300～303は見込に菊の印花が認められる皿で、300・301・303は釉止めの段が設けられ、高台の断面は三角形となる。17世紀前葉の所産と考える。302も同様の年代であろう。擂鉢（304）は16世紀末～17世紀初頭の所産となる。壺は口縁部が直立する器形（305）と、口縁部と体部間で屈曲し口縁端部が肥厚する器形（306）が確認できる。305は17世紀後半～18世紀前半の所産、306は17世紀末～18世紀前半の所産と考える。307の内底面には重ね焼きの痕跡が残る。器種は壺としたが、匣鉢の可能性もある。

B　肥 前 系 陶 器（308～315）

器種は碗・皿・盃・擂鉢が確認できる。308はⅣ期の碗で、刷毛目唐津である。見込には蛇ノ目釉剥ぎが認められる。309も碗で、高台内に墨書（「一」か）が確認できる。310はⅡ期の溝縁皿、311・312は見込に胎土目が残る皿で、Ⅰ－2期の所産である。313はⅠ－2期所産の盃で、被熱する。314・315は擂鉢で、それぞれⅡ期、Ⅲ期の所産と考える。315の口縁部は玉縁状を呈する。

C　肥 前 系 磁 器（316～323）

器種は碗・皿・紅皿・盃・火入が確認できる。316はⅣ期の碗で、見込には五弁花（手書き）が確認できる。高台内の銘款は方形枠内に渦福を配したものであろうか。318・319は皿で、それぞれⅡ期、波佐見Ⅴ－1期［中野2000］の所産である。319の見込には五弁花（コンニャク印判）、高台内には渦福の銘款が認められる。320は蓋で、19世紀の所産であろうか。321はⅤ期（19世紀中頃）の紅皿で、貝殻状に成形される。322はⅡ期の盃、323は17世紀末～18世紀頃の火入で、波佐見青磁の可能性がある。

D　その他の陶磁器（324～327）

324は18世紀第2四半期～19世紀の京・信楽系の碗、325も18世紀中葉の色絵の碗である。325も京・信楽系であろう。326の器種は香炉であろうか。時期などは不明である。327は碗で、Ⅰ～Ⅱ期頃の唐津であろうか。高台内に墨書が確認できる。

E　金　属　製　品（328）

銭貨が3枚出土している。全て寛永通宝で、1枚のみ掲載した。328はいわゆる文銭である。残りの2枚は摩滅したり、腐食したりしている。それぞれ一次調査1トレンチ跡、6E、6Fから出土した。

5　その他の遺物（図版38・66）

329は定角式の磨製石斧で、長さ4.4cm、幅2.7cm、厚さ0.7cm、重さ14.0gである。石材は蛇紋岩で、表面がやや風化している。遺跡の東側では縄文時代の遺物包含層が確認できる（一次調査33～35トレンチ他）ことから、329も縄文時代の所産であると考える。

第Ⅵ章　木製品の樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

1　は　じ　め　に

下割遺跡は、飯田川左岸の沖積地に位置する。今回の発掘調査により、古代・中世・近世の遺物包含層が確認されている。そのうち中世の遺物包含層では、溝、屋敷跡などが検出されている。これらの遺構からは、土師器、珠洲焼、銭貨などと共に、木製品や柱材なども出土している。

今回は、出土した木製品などの樹種同定を行い、木材利用に関する資料を得る。

2　試　　料

試料は、出土した柱材や木製品で、予備試料も含めて27点あった。このうち、報告番号182は、肉眼で樹皮と判断できたため、結果表に記入した上で分析対象からは外した。したがって、合計点数は26点である。これらの木製品の時代は、中世と考えられる。

各試料から5mm角程度のブロックを採取して試料としたが、一部の木製品ではブロックの採取が困難であったため、各製品から直接切片を採取した。

3　方　　法

ブロック試料は、剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製する。作製した切片および製品から直接採取した切片を試料別にガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察し、木材組織の特徴から種類を同定する。

4　結　　果

樹種同定の結果、木製品などは、針葉樹2種類（スギ・ヒノキ）と広葉樹3種類（クリ・エノキ属・モクレン属）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*（Sieb. et Zucc.）Endlcher）　　ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、

晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1～4列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・エノキ属（*Celtis*）　　ニレ科

環孔材で孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～15細胞幅、1～50細胞高で鞘細胞が認められる。

・モクレン属（*Magnolia*）　　モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独および2～4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、1～2細胞幅、1～40細胞高。

5　考　　察

木材は、柱根、曲物、箸、指物などであるが、用途不明の試料も10点ある。

全体的には、針葉樹のスギの利用が目立ち、広葉樹材は柱根や報告番号184に僅かに認められるのみである。スギが多い結果は、蔵ノ坪遺跡や下沖北遺跡などの新潟県内の沖積地に位置する遺跡でよく見られる傾向と一致する。この背景には、スギが湿地を好むことから、周辺の沖積地に生育しており、木材の入手が容易であった可能性がある。しかし、古植生に関する調査例が少ないため、木材利用と植生の関係については不明である。

柱根は、スギ、クリ、モクレン属の3種類が認められた。このうち、クリについては、強度や耐朽性に優れた材質を有しており、柱材として適材といえる。実際に、県内の調査でも多くの報告例がある［越路町教育委員会・パリノ・サーヴェイ株式会社1992、パリノ・サーヴェイ株式会社1997・2000・2002］。また、スギは、耐水性が比較的高い材質を有し、建築材としてよく利用される種類である。これらの2種類については、材質を考慮した木材利用が推定される。一方、この2種類と比較すると、モクレン属はやや軽軟で保存性も高くないなど、材質の傾向が異なる。そのため、モクレン属の柱材については、他の柱材とは使用目的などが異なる可能性がある。今後、出土状況なども含めて検討したい。

曲物は、報告番号171が板目板で、他は全て柾目板であり、樹種は全てスギであった。スギ材は割裂性も高いことから、薄い板材の加工が容易であり、それらの材質が考慮されている可能性がある。

報告番号176は針葉樹のヒノキが認められた。ヒノキは、木理が通直で割裂性が高く、スギと共に薄い板への加工が容易である。また、スギ材以上に耐水性や防虫性にも優れた材質を有する。ヒノキについては、浦廻遺跡でも柄杓に確認された例が報告されている。一方、報告番号184は、板状を呈する部材で、樹種はモクレン属であった。モクレン属は、漆器木地として利用される種類であるが、今回の漆器については用途の詳細が不明である。

中世の木製品については、樹種同定を行った例が少ないため、現時点では木材利用の実態などについては不明な点が多い。今後さらに資料を蓄積し、木材利用の地域性などについても検討したい。

5 考　　察

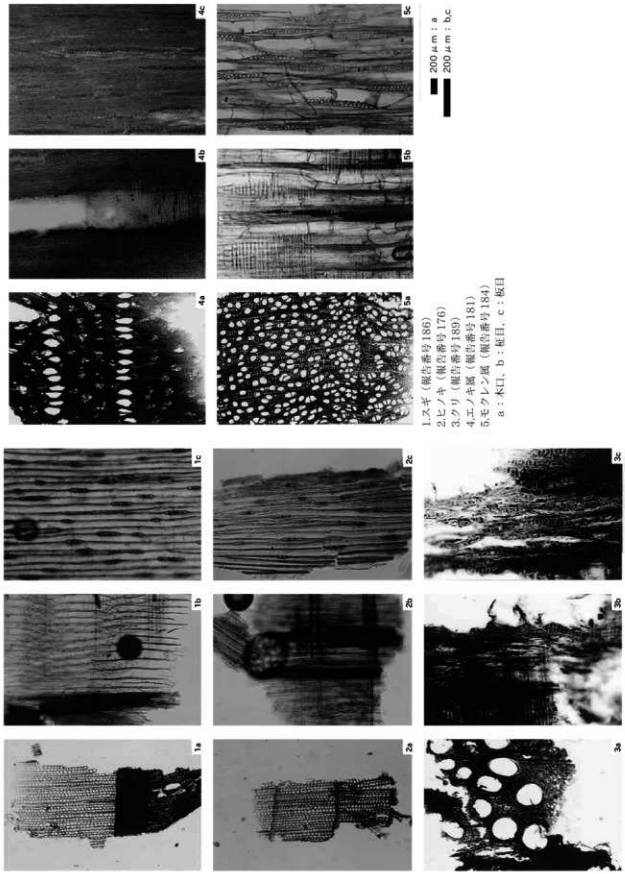
引用文献

越路町教育委員会・パリノ・サーヴェイ株式会社　1992　　越路町文化財報告書第19輯　岩田遺跡出土遺物自然科学分析報告書．33p.

パリノ・サーヴェイ株式会社　1997　　岩田遺跡第２次調査における自然科学分析調査報告．「越路町文化財報告書第21輯　岩田遺跡　第２次発掘調査報告書」，p.18－25，越路町教育委員会．

パリノ・サーヴェイ株式会社　2000　　自然科学分析．「吉田町文化財調査報告書第５集　新潟県西蒲原郡吉田町江添Ｃ遺跡　－吉田町米納津地内国営排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」，p.206－213，吉田町教育委員会・山武考古学研究所．

パリノ・サーヴェイ株式会社　2002　　蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種．「新潟県埋蔵文化財調査報告書　第115集　一般国道７号　中条バイパス関係発掘調査報告書　蔵ノ坪遺跡」，p.45－59，　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団．



1.スギ（報告番号186）
2.ヒノキ（報告番号176）
3.クリ（報告番号189）
4.エゾノキ属（報告番号181）
5.モクレン属（報告番号184）
a：木口，b：柾目，c：板目

第7図　検出樹種の顕微鏡写真

第Ⅶ章　ま　と　め

1　土器・陶磁器

ここでは、平成14年度の調査で出土した土器・陶磁器を概観してまとめとしたい。まず、第３表に土器・陶磁器の組成を示す。時期ごとの組成比は、古代が食膳具（坏・坏蓋・皿）51.1％、煮炊具（土師器甕）16.7％、貯蔵具（甕・瓶類）14.0％、中世が食膳具（碗・土師皿を除く皿・盤）19.6％、煮炊具（内耳鍋）0.3％、調理具（片口鉢・擂鉢）42.4％、貯蔵具（甕・壺）5.7％、近世が食膳具（碗・皿）72.0％、調理具（擂鉢）1.9％、貯蔵具（壺）15.4％となる。中世では貯蔵具が低調であるが、これは珠洲の甕・壺の口縁部片が少ないことに起因する。珠洲の甕・壺の体部片数は多いことから、実際の貯蔵具の比率は相対的に高くなる。煮炊具の比率は、中世以降の鉄製煮沸具の普及［坂井1997b］を反映するものと理解できる。近世については食膳具主体の組成で、調理具（擂鉢）の比率が低い。以下、時期ごとにまとめておく。

古代の土器に関しては、対象を須恵器に限定する。まず坏については有台坏、無台坏とも確認できるが、有台坏の割合が高い。今池Ⅰ～Ⅱ期（８世紀前半）に比定した有台坏は、口径13.0～14.0cm、器高4.0cm前後を測る。39はそれよりやや小型となる。Ⅳ期（９世紀前葉）に比定した有台坏では、身が深くやや大型の坏（41）も確認できる。38は口径に対して器高がやや高い。Ⅲ～Ⅳ期（８世紀後半～９世紀前葉）の無台坏では大ぶりなもの（22）も確認できる。Ⅳ期（９世紀前葉）のものは器壁が薄くやや小ぶりなもの（32・43）である。坏蓋は、口径が判明するものは14.0～15.0cmと16.0～17.0cmにまとまろうか。天井部はケズリが施されるものが多く、つまみは33以外扁平なものが多い。このほかⅦ期（９世紀末～

時期	用途	組成比	種別	器種	口縁部残存率	底部残存率
古代	食膳具	51.1％	須恵器	坏	6.30	40.66
				坏蓋	3.93	
			灰釉陶器	皿	0.20	1.00
	煮炊具	16.7％	土師器	甕	3.41	10.41
	貯蔵具	14.0％		甕	1.26	0.66
			須恵器	広口瓶	1.00	
				横瓶	0.60	
	その他	18.1％	土師器	不明	3.70	3.01
中世	食膳具	19.6％	瀬戸美濃	碗	0.83	0.74
			青磁	碗	0.73	1.30
			中国染付	碗	0.13	
			瀬戸美濃	皿	0.51	1.57
				志野皿		0.45
			青磁	皿	0.62	1.45
			白磁	皿	0.34	1.10
			青磁	盤	0.05	0.23
	煮炊具	0.3％	土師質土器	内耳鍋	0.05	
	調理具	42.4％	珠洲	片口鉢	6.47	8.05
			越前	擂鉢	0.38	
			瀬戸美濃	擂鉢	0.10	
	貯蔵具	5.7％	珠洲	甕	0.54	0.18
				壺	0.18	
			越前	壺	0.22	
中世	その他	32.1％	土師質土器	皿	3.96	9.95
			瀬戸美濃	合子	1.00	1.00
				茶入	0.30	
				不明		1.00
			青白磁	梅瓶		0.24
近世	食膳具	72.0％	肥前系陶器	碗	1.99	6.10
			肥前系磁器	碗	1.96	7.30
			京・信楽系	碗	0.29	1.27
			越中瀬戸	皿	2.44	8.92
			肥前系陶器	皿	2.66	9.36
			肥前系磁器	皿	1.71	7.31
	調理具	1.9％	越中瀬戸	擂鉢	0.14	
			肥前系陶器	擂鉢	0.15	
	貯蔵具	15.4％	越中瀬戸	壺	2.37	2.96
	その他	10.7％	肥前系陶器	蓋	0.62	0.42
			肥前系磁器	紅皿	0.37	
				蓋	0.17	0.35
				徳利		1.00
				火入	0.26	
			京・信楽系	不明	0.12	
			瓦器	火入	0.10	
不明	食膳具	65.3％	不明	碗・皿類	1.90	4.47
	貯蔵具	34.7％	不明	甕・壺類	1.01	

第３表　土器・陶磁器の組成

10世紀初頭）の広口瓶（48）やⅥ期（９世紀第３四半期）の横瓶（51）が出土している。

平成14年度の調査では、８世紀前葉～10世紀初頭の須恵器が出土しているが、灰釉陶器（36）の年代も考慮すると、おおむね８～10世紀の遺物が確認できる。そのうち９世紀後半～10世紀は遺物が確認しにくく、当期の土師器坏などは出土していない。一方上越市教委調査では、８～10世紀の遺物が出土しており、10世紀代の土師器も比較的出土している。遺構は溝や井戸、ピット群があり、掘立柱建物の存在が予想されている。この調査成果も加味すれば、下割遺跡は８～10世紀の集落遺跡の可能性がある。

中世については、おおむね14世紀までを中世前期、15～16世紀頃を中世後期としてその土器・陶磁器を概観する。中世前期では土師質土器、珠洲、瀬戸美濃がある。数量的には珠洲が多く、土師質土器がこれに次ぐ。土師質土器の皿は手づくね成形で、Ａ類［品田1997］に相当する。口径は8.2～10.2cm、器高は1.7～3.0cm、底径は5.3～7.4cmを測る。１・73は身がやや深い。珠洲は甕、壺、片口鉢の３器種が確認できる。甕はⅡ期のもの（102）が、壺はⅢ～Ⅳ期のもの（109～111）が少量ながら確認できる。片口鉢はⅡ～Ⅳ期のものが確認でき、そのうちⅣ期のものが主体となる。なお甕、壺については、時期を明確にしえない体部片が多い。これらの珠洲は、5H周辺の柱穴や井戸が集中する地点に比較的多く分布し（第Ⅲ章3）、特に井戸、溝などからはⅢ～Ⅳ期の片口鉢の出土が多い。そのため遺構の主要な時期を13世紀後半～14世紀に比定する。瀬戸美濃は5G・5Hに位置するP500から、93が出土した。

中世後期では土師質土器、珠洲、越前、瀬戸美濃が確認でき、中世前期とほぼ同じであるが、数量的には瀬戸美濃が多い。ただし、全体の土器・陶磁器の量は中世前期の方が多い。土師質土器は京都系の皿が確認できる（77）。珠洲については、甕はⅤ期のもの（103）、片口鉢はⅤ～Ⅵ期のもの（89・114・115）が確認できる。中世後期の珠洲の壺は確認しえなかったが、体部破片の中には当期のものがあるものと思われる。越前は15世紀後半～16世紀前半の壺、16世紀前半の擂鉢である。瀬戸美濃は大窯第３～４段階の天目碗、大窯第１～２段階・第４段階の皿、古瀬戸後期様式の擂鉢が確認できる。

中世前期の輸入陶磁器に関しては、白磁は12世紀の水注（67）と13世紀中頃～14世紀初頭の皿（140）である。特に67はSE736から出土しており、伝世品の可能性もある。青磁は口縁部が外反する碗（131など）が主体で、14世紀の所産である。中世後期では、青磁は蓮弁文が施文される碗（132）、稜花皿（136）が確認できる。中国染付は唐草文が施文される端反碗（141）、いわゆる饅頭心の碗（142）で、それぞれ14世紀末～15世紀中頃、16世紀中頃に比定する。全体的に輸入陶磁器の出土量は少ない。

中世前期の下割遺跡では、貯蔵具・調理具は珠洲でまかなわれ、国産品の食膳具は確認できないことから、輸入陶磁器でまかなわれた可能性がある［坂井1997b］。中世後期に至ると、貯蔵具・調理具は珠洲・越前が主体となり、食膳具は瀬戸美濃・輸入陶磁器でまかなわれたものと思われる。ただし食膳具に関しては、中世後期瀬戸美濃の碗は天目碗が中心であり注意を要する。また漆器の普及にも注意を要するが、その様相は明確にしえない。定量出土した珠洲、瀬戸美濃、輸入陶磁器の分布は、珠洲は掘立柱建物が位置する5H・5I周辺に、瀬戸美濃と輸入陶磁器はその周りに分布する傾向にある。

近世の陶磁器は越中瀬戸、肥前系陶磁器などが確認できる。越中瀬戸は16世紀末～18世紀中葉、肥前系陶器は17世紀～18世紀末、肥前系磁器は17世紀～19世紀中葉の所産である。数量的にも三者ともほぼ同じであるが、肥前系陶器は17世紀前半（Ⅰ～Ⅱ期）に属するものが比較的多く、肥前系磁器は17世紀末～18世紀（Ⅳ期）に属するものが多い。越中瀬戸もおおむね17世紀前半に属するものが多い。一方17世紀後半（Ⅲ期）に属するものが極端に少なく、注意をしたい。

17世紀前半では、越中瀬戸は皿、擂鉢、壺が確認でき、そのうち皿と壺が主体となる。肥前系陶器で

は碗、皿、盃、擂鉢が確認でき、碗、皿が主体を占める。換言すると、碗は肥前系陶器が主体に、壺は越中瀬戸が主体となる傾向にある。皿と擂鉢は両者で確認できる。肥前系磁器は碗、皿、紅皿、盃、火入などが確認でき、碗、皿が主体を占める。なお調理具、貯蔵具は確認できない。

17世紀前半では、越中瀬戸、肥前系陶器が一部の器種を共有しながら主体を占める。17世紀末～18世紀では食膳具を中心とした肥前系磁器が主体となる。

2　遺構とその年代

掘立柱建物はSB001が9G・9Hに、SB014が7J・8J・8K位置する以外は、5H・5I周辺に偏在する。柱穴もSD51を挟んで、東側の5H周辺に多く、西側に少ない。掘立柱建物は現状で14棟確認しているが、抽出しえなかったものを考慮すると、その数は増加する。柱穴の分布や切り合いから何度かの建て替えが想定されるが、明確にできなった。ただしP347の柱（188）は上屋部材を転用した柱であり、部材は使用可能なかぎり転用されたと想定すると、柱根の残るもの（SB002～004・006～008・012）は柱根の残存しないもの（SB001・005・009～011・013・014）より相対的に新しく位置づけられる。柱根の残る掘立柱建物は規模が大きく、柱穴の配列も規則的なものが多い。

建物の主軸に注目すると、北東－南西軸の建物（SB002・006・008・010・012・014）と北西－南東軸の建物（SB001・003・004・005・007・009・011・013）が確認でき、溝（SD51・52）の方向とも符合する。また桁行２間×梁行１間（SB005・007・009・011）、桁行３間×梁行１間（SB001・002・004・006・008・012）を基本とするが、SB013は桁行１間×梁行２間となる。SB003に関しては桁行は３間で、北西側の梁行は３間、南東側の梁行は１間となる。面積は$5.9m^2$～$56.4m^2$まで確認できるが、面積だけからは明確な分別はできない。ただし、桁行２間×梁行１間で小型の建物（SB005・011）と桁行３間×梁行１間の大型の建物（SB001・002・004・006・008・012）とは分別できよう。現状では、両者の差異は何らかの機能差に基づくもの、とだけ理解しておく。

井戸はSD51の東側と西側に分布する。東側に分布する井戸は掘立柱建物群の周辺に位置する傾向にあり、西側に分布する井戸はやや散在する傾向があろうか。大きさは、径が1mに満たないものから2mを超えるものまで認められ、比較的大型の井戸はSD51より東側に位置する。平面形はおおむね円形～楕円形を呈する。井戸出土遺物は珠洲と木製品が主体となる。覆土に関しては、炭化物を多量に含む層が確認できる井戸（SE190・195・208・210・385・455）、礫（一部被熱）を含む層が確認できる井戸（SE422）、籾殻を含む層が確認できる井戸（SE195・210・706・725・741）があり、人為的な埋め戻しが想定される。炭化物を多量に含む層はSE455が覆土下位に位置する以外、覆土中位に認められ、炭化物片は微細である。特にSE190・385の炭化物含有層は、炭化物をあまり含まない中間層をはさみ、２層確認できる。また、SE210では炭化物を多量に含む覆土11層上面から木製品（167～169）が、SE714からは小刀（192）が覆土３層から出土した。埋め戻しに際しては、祭祀が行われた可能性が考えられるが、現状では明確にできない。

道路状遺構は２か所で確認できた。SR600は２条の溝が平行して構築され、SD52やピット（柱穴）に切られることから、中世以前の構築で、掘立柱建物には伴わないと考えられる。SR18も側溝を備えており、そのうちSD16はSD51とおおむね平行し、SD52の6C～3F部分とは直行する位置にある。SD16からは少量の須恵器や珠洲などしか出土していないが、SR18は他遺構との位置関係から中世の構築とし

たい。側溝間の路床部分には、ピットが連続して設けられ、波板状凹凸面に類するものと考える。SR18の東側には、SD17に平行してSD21が位置する。SD21から遺物は出土していないが、SD21の埋没後SD17が掘削されることから、SR18ないし側溝は構築し直された可能性がある。

明治29（1896）年の『中頸城郡諏訪村大字米岡更正地図』によると、SD52付近、SD251付近とその延長線上は道路として記載される。同更正図では、遺跡の東側に位置する幅約4m砂利敷きの農道は、遺跡付近でやや西に折れ、現在の位置より西側を通り、米岡神社の西側を抜け、四辻町に至るルートをとる（元屋敷米岡線の旧道に相当）。このルートはSD20・52間及びSR18と位置的に符合する。明確に遺構としては確認できないが、SD151・52間やSD20・52間の遺構が分布しない部分も通行に使われたものと想定できよう。またSD51は川と記載されていることから、用水としての利用が考えられ、中世の区割が比較的近年まで残っていたことがわかる。

以上のことから、道路としたものには形態差が確認できる。すなわち、SR600のように2条の同規模の溝が平行して直線的に設置されるもの、SR18のように規模が異なる2条の溝が平行して設置され、路床部分に連続してピットが残るもの、既存の遺構によって区分された空間を交通に利用したと想定されるもの（SD151・52間、ＳＤ52・20間）である。SR600のように幅員が規定され、直線的な道路は古代的な印象を与える。しかし、近年中世道路が調査されるようになるにつれ、古代道路と中世道路の類似性や古代道路を継承して中世道路が設置される点も指摘されている［木下2001］。SR18とSR600は、遺構の切り合いや配置からSR600の方が相対的に古いと判断したが、道路の形態差は必ずしも時期差のみを反映するとは言えないと考える。そこには既存道路の継承はもちろん、地形や地質に合わせた構築法が想定できる。

溝で区画された中でも、2B～3C周辺や6D～6F～7Gにかけては遺構の空白地が存在する。この遺構空白地の性格は明確にはできなかったが、注意しておきたい。

遺構の年代に関しては、掘立柱建物の柱穴からは時期が明確にわかる遺物は少なく、掘立の年代を明確にはしえなかったが、柱穴からは断片的に、Ⅲ～Ⅴ期の珠洲（88・89・92）が少量確認できる。なおSE226出土の57は、P121出土の破片と接合した。一方、掘立柱建物にともなうと判断される井戸や掘立の主軸と符号する溝からは珠洲が多く出土した。それらは時期が判明する個体が少なかったため、時期のわかる個体を中心に掲載した。その時期はⅢ期とⅣ期が主体となり、溝や井戸などから出土する土師皿（54・60・73・84）の年代とも齟齬はない。またSD51・52からは須恵器（21～33）や珠洲（72～78）が出土しているが、特にSD51では、出土する層位は須恵器が上層で、珠洲は上層とともに下層からも出土する傾向にある。そのため、これらの須恵器（21～33）は混入と判断し、SD51・52の年代には珠洲の年代をあてる。その他硯（154）や瀬戸美濃（93）がピットから出土している。154は13世紀後半～14世紀の所産、93は14世紀前葉～中葉の所産で、遺構出土の珠洲の主要な年代（Ⅲ～Ⅳ期）とも符合する。越前（97～101）や93以外の瀬戸美濃（122～130）、輸入陶磁器（131～142）は遺構には伴わなかった。以上のことから、現時点では、遺構の年代を13世紀後半～14世紀に比定する。

平成14年度の調査で中世の屋敷地が確認できた（図版1）。SD51・251で区画された8J周辺、SD51・282で区画された9G・9E周辺でも掘立柱建物や井戸が検出されることから、掘立柱建物・井戸・溝から成る屋敷地がいくつか集まり集落を構成するものと考えられる。そして道路状遺構が検出されていることから、屋敷間や集落間は道路でつながれ、人や物資が往来したことが考えられる。

要　約

1　下割遺跡は、新潟県上越市大字米岡字下割1,205番地ほかに所在する。調査区は飯田川左岸の自然堤防上に立地し、現況は水田であった。標高は13.5～14.0ｍを測る。

2　発掘調査は上越三和道路の建設に伴い、平成14（2002）年4月11から10月11日にかけて実施した。調査面積は6500m^{2}である。

3　遺構は掘立柱建物14軒、井戸24基、溝26条、土坑53基、ピット409基、道路状遺構2基が検出された。遺構の時期は中世、13世紀後半～14世紀が中心になると考えられる。

4　中世の遺構の配置は、溝で区画されたなかに、掘立柱建物や井戸が構築される。井戸は掘立柱建物の周辺に位置する傾向にある。掘立柱建物・井戸・溝で屋敷が構成され、いくつかの屋敷が集まり集落が構成されると考える。また調査区の東側では道路状遺構が検出され、溝と溝の間には通行に使用されたことが想定できる場所もあることから、屋敷間や集落間は道でつながれていたと考えられる。

5　遺物は古代・中世・近世の遺物が確認できる。種別は土器・陶磁器、石器・石製品、木製品、金属製品がある。このほか縄文時代の磨製石斧が出土した。

6　古代の遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器である。土師器は甕の破片が確認できる。須恵器は8世紀～10世紀の坏や坏蓋、横瓶などが出土した。灰釉陶器は10世紀頃の皿がわずかに確認できる。

7　中世の遺物は土師質土器、珠洲、越前、瀬戸美濃、輸入陶磁器、石器・石製品、木製品、金属製品である。中世の土器・陶磁器では珠洲の出土量が多いが、中世の遺跡にしては土師質土器の皿が少なく、特筆される。石器・石製品では磨石類や砥石、硯などが確認できる。木製品では箸や曲物などが確認できるが、多くがその種別を明確にできない。

8　近世の遺物は越中瀬戸、肥前系陶磁器、京・信楽系などである。越中瀬戸と肥前系陶器は17世紀前半、肥前系磁器は17世紀末～18世紀が主体となる。このほか寛永通宝が出土した。

引用文献

荒川隆史・加藤学ほか 1999　『新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第93集　和泉A遺跡』　新潟県教育委員会　(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

池田嘉一　1967　『中江用水史』　中江土地改良区

上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類について」　『貿易陶磁研究』NO.2　日本貿易陶磁研究会

大居敬子　2002　『新潟県上越市中江北部第1地区ほ場整備事業地区遺跡発掘調査報告書（下別遺跡）』　上越市教育委員会

大橋康二　1993　『考古学ライブラリー55　肥前陶磁』　ニュー・サイエンス社

小野正敏　1982　「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」　『貿易陶磁研究』NO.2　日本貿易陶磁研究会

小島幸雄・秦　繁治・水沢省吾　1983　「未野古窯跡群」　『新潟県文化財調査年報第22　保倉川流域』　新潟県教育委員会

木下　良　2001　「古代道路研究の現状」　『古代交通研究』第10号　古代交通研究会

坂井秀弥　1997a　「中世集落の展開と城館の動向」　北陸中世土器研究会編『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』　桂書房

坂井秀弥　1997b　「中・近世の越後国」　北陸中世土器研究会編『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』　桂書房

坂井秀弥ほか　1984　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集　今池遺跡　下新町遺跡　子安遺跡』　新潟県教育委員会

笹澤正史ほか 1999　『新潟県上越市上千原地区ほ場整備関連発掘調査報告書　津倉田遺跡』　上越市教育委員会

品田高志　1997　「越後国における土師器の変遷と諸相」　北陸中世土器研究会編『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』　桂書房

高田平野団体研究グループ　1980　「高田平野の第四系とその形成史・そのⅩⅩⅣ」　『研究紀要』第25号　新潟大学教育学部高田分校

高橋一樹　1999　「越後高田保ノート」　『上越市史研究』第4号　上越市史専門委員会

中野雄二　2000　「波佐見」　『九州陶磁の編年』　九州近世陶磁学会

藤澤良祐　1995　「古瀬戸」　中世土器研究会編『概説中世の土器・陶磁器』　真陽社

藤澤良祐　2002　「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」　『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯　財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

水野和雄　1985　「日本石硯考－出土品を中心として－」　『考古学雑誌』第70巻第4号　日本考古学会

横田賢次郎・森田　勉　1978　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について－型式分類と編年を中心として－」　『九州歴史資料館研究論集』4　九州歴史資料館

吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』　吉川弘文館

土器・陶磁器（英：石英、黒：黒色粒子、長：長石、雲：雲母、砂：砂粒、チ：チャート、角：角閃石、骨：海綿骨針）

報告No.	種類	器種	産地	時期	出土地点			法量（cm）			色調		胎土	炭化物		備考
					グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	内側	外側	混入物	内側	外側	
1	土師質	皿		13C後半～14C	2Tr			8.2	2.3	6.0	灰白色	灰白色	英	ベルト状	ベルト状	
2	珠洲	甕			3Tr						灰色	灰色	黒・骨	なし	なし	
3	珠洲	片口鉢			3Tr						灰色	灰色	英・黒・骨	なし	なし	
4	珠洲	甕・壺			4Tr						灰色	灰色	英・長	なし	部分的	
5	陶器	皿	越中瀬戸	17C前半	4Tr			12.2	2.5	6.2	に赤い黄橙色	に赤い黄橙色		全体的	全体的	複熱
6	須恵器	坏		今池IV期	6Tr					7.6	灰色	灰色	英・黒	なし	なし	底部ヘラ切り
7	須恵器	甕			6Tr	SD52					灰色	灰色	英	なし	なし	
8	陶器	皿	唐津	大樋II～III期	6Tr						オリーブ灰色	オリーブ灰色		なし	なし	
9	陶器	瓶類	唐津	大樋II～III期	6Tr						暗赤灰色	暗赤灰色		なし	なし	
10	珠洲	片口鉢		珠洲III期	7Tr						灰色	灰色	英・長・黒・骨	なし	なし	
11	須恵器	坏			8Tr					6.6	灰色	灰色	英	なし	なし	底部糸切り
12	珠洲	甕・壺			8Tr						灰色	灰色	英・長・黒	なし	なし	
13	珠洲	片口鉢			8Tr						灰色	灰色	骨	なし	なし	
14	陶器	皿	越中瀬戸	17C前半	8Tr			11.8			に赤い黄橙色	に赤い黄橙色	英	なし	なし	
15	須恵器	坏		今池I～II期	13Tr					9.8	灰色	灰色	英	なし	なし	底部ヘラ切り
16	須恵器	坏		今池IV期	8J6～11	SE280	2			6.6	灰色	灰色	英・黒	なし	なし	底部ヘラ切り
17	須恵器	坏		今池IV期	5G25,5H5	SE422	1			5.2	緑灰色	緑灰色	英・黒	なし	なし	底部ヘラ切り
18	須恵器	坏		今池III～IV期	2D6	SD16	1			7.4	灰色	灰色	英	なし	なし	底部ヘラ切り
19	須恵器	甕・壺			2G14	SD19	1				灰色	灰色	英・黒	なし	なし	
20	須恵器	坏		今池I～II期	2G21	SD20	2			7.8	青灰色	灰色	英・黒	なし	なし	底部ヘラ切り
21	須恵器	坏		今池I～II期	9I2	SD51	1	13.2	4.3	8.9	灰色	灰色	英	部分的	部分的	底部ヘラ切り
22	須恵器	坏		今池III～IV期	8I10	SD51	1			9.0	灰色	灰色	英・黒	なし	なし	底部ヘラ切り
23	須恵器	坏		今池I期頃	7D1	SD51	1			5.6	赤褐色	赤褐色	英	なし	なし	底部ヘラ切り
24	須恵器	坏蓋		今池III～IV期	8F21	SD51	1	14.0			灰色	灰色	英	なし	なし	天井部自然釉 内面縦刻
25	須恵器	坏		今池I～II期	7D17	SD51	2	13.4	4.0	7.2	灰白色	灰白色	英	なし	なし	底部ヘラ切り
26	須恵器	坏		今池IV期	7D11	SD51	3			7.2	青灰色	青灰色	英	なし	なし	底部糸切り
27	須恵器	坏		今池IV期	9I3	SD51	1			7.8	灰色	灰色	英・黒	なし	なし	底部ヘラ切り？ 底面縦刻
28	須恵器	甕			7E24	SD51	3				灰色	灰色	英	なし	なし	外面自然釉
29	須恵器	坏		今池I～II期	4E9	SD52	1			7.6	青灰色	灰色	英・長	なし	なし	底部ヘラ切り
30	須恵器	坏		今池I～II期	5D25	SD52	1			9.0	灰色	灰色	英・黒	なし	なし	底部ヘラ切り
31	須恵器	坏蓋		今池III～IV期	5E1	SD52	1				青灰色	青灰色	英	なし	なし	天井部ケズリ 内面縦刻
32	須恵器	坏		今池IV期	4E8	SD52	2	10.6	3.1	6.8	青灰色	青灰色		なし	なし	底部糸切り
33	須恵器	坏蓋		今池III～IV期	4E17	SD52	4				に赤い赤褐色	に赤い赤褐色	英	ベルト状	なし	天井部ケズリ
34	須恵器	甕			8H	SD251	2				灰色	灰色	英・雲	なし	なし	胡麻鉢に転用
35	須恵器	坏蓋		今池II～III期	7I23	SD252	1	16.5			灰色	灰色	英	部分的	部分的	天井部ケズリ
36	灰釉	皿			10C	3D18	SX22	2		6.0	灰白色	灰白色	英・黒	なし	なし	
37	土師器	甕			9C前葉	2C11		III2	23.4		明黄褐色	明黄褐色	英・砂	なし	なし	
38	須恵器	坏		今池IV期	8D12			III2	10.8	4.0	6.8	青灰色	青灰色	英・黒	なし	なし	底部糸切り
39	須恵器	坏		今池I～II期	4E25			III2	12.6	3.8	7.6	青灰色	青灰色	英・黒	なし	なし	底部ヘラ切り
40	須恵器	坏		今池I～II期	2C6			III2	14.0	4.0	8.6	灰色	灰色	英・黒	なし	なし	底部ヘラ切り
41	須恵器	坏		今池IV期	暗渠西側					10.2	灰色	灰色	英・黒	なし	なし	底部ヘラ切り
42	須恵器	坏			1F10		III2				青灰色	青灰色	英・黒	なし	なし	底部糸切り 底面縦刻
43	須恵器	坏		今池IV期	9H		III2			7.0	灰色	灰色	英	なし	なし	底部糸切り
44	須恵器	坏		今池III～IV期	3D20		III2			8.2	灰白色	灰白色	英	なし	なし	底部ヘラ切り
45	須恵器	坏蓋		今池III～IV期	7E7		III2				灰色	灰色	英・黒	なし	なし	全面的に自然釉 内面縦刻
46	須恵器	坏蓋		今池III～IV期	9H		III2				灰白色	灰白色	英・黒	なし	なし	
47	須恵器	坏蓋		今池III～IV期	8D22		III2	14.8			灰色	灰色	英	なし	なし	
48	須恵器	広口瓶		今池VI期	5F13		III2	20.8			緑灰色	緑灰色	英	なし	なし	小沿産
49	須恵器	長頸瓶			5F13		III2				灰色	灰色	英・黒	なし	なし	内面縦刻　外面自然釉
50	須恵器	甕			9C～10C	10J		III2	23.2		灰色	灰色	英・黒	なし	なし	
51	須恵器	横瓶		今池VI期	10G			III2	11.4	23.5	灰色	灰色	英	なし	なし	
52	珠洲	片口鉢		珠洲IV期	4H12,17	SE139	2	27.0	12.4	11.4	青灰色	青灰色	骨	なし	なし	
53	珠洲	片口鉢		珠洲IV期	4H12,17	SE139	2				灰色	灰色	英・雲・チ・骨	部分的	部分的	
54	土師質	皿		13C後半～14C	5I25	SE195		8.4	1.8	5.3	に赤い橙色	に赤い橙色	英・雲	なし	なし	手づくね
55	珠洲	片口鉢		珠洲IV期	4H9	SE208	3	24.4			灰色	灰色	英・骨	部分的	部分的	
56	珠洲	片口鉢		珠洲IV期	4F	SE210	1				青灰色	青灰色	英・黒・骨	なし	なし	
57	珠洲	片口鉢		珠洲IV期	4H4	SE226	1				灰色	灰色	英・チ・骨	部分的	部分的	
58	珠洲	片口鉢			4H4	SE226	1			13.0	灰色	灰色	英・骨	部分的	部分的	
59	珠洲	片口鉢			4H15	SE229	2			12.2	灰色	灰色	英・骨	ベルト状	ベルト状	
60	土師質	皿		13C後半～14C	8J6,11	SE280	1	10.2	2.1	7.0	に赤い橙色	に赤い橙色	英・黒・雲	なし	なし	手づくね
61	珠洲	片口鉢		珠洲IV期	5H2	SE385					灰白色	灰白色	英	なし	なし	
62	珠洲	片口鉢		珠洲IV期	5G25,5H5	SE422	1	31.4	15.0	14.8	青灰色	灰色	英・骨	なし	ベルト状	
63	珠洲	甕・壺			5G25,5H5	SE422	2				青灰色	青灰色	骨	なし	なし	

報告No.	種類	器種	産地	時期	出土地点			法量（cm）			色調		胎土	炭化物		備考
					グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	内側	外側	混入物	内側	外側	
64	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅲ期	5G25, 5H5	SE422	1				灰色	灰色	英・骨	なし	なし	
65	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅳ期	7I6	SE538	3	33.2	13.4	13.0	灰白色	灰白色	英・長・黒・骨	なし	部分的	内外面風化
66	珠洲	片口鉢			7I6	SE538	3				灰色	灰色	英・黒・長・骨	なし	なし	
67	口縁	水注		12C	9F	SE736	3				灰白色	灰白色		なし	なし	別れ口赤つぎ
68	珠洲	壺			11G	SE741	4				青灰色	青灰色	英・黒・骨	なし	なし	
69	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅲ期	2E20	SD16	1				灰色	灰色	英・骨	なし	なし	
70	珠洲	片口鉢			3E17	SD25	1				青灰色	青灰色	英・長・黒・骨	なし	部分的	
71	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅲ期	6I3	SD25	5				青灰色	青灰色	英・長・骨	なし	なし	
72	珠洲	壺・甕			9J15	SD51	1				青灰色	青灰色	骨	なし	なし	
73	土師質	皿		13C後半～14C	8I	SD51	3	8.6	3.0	6.6	にぶい橙色	にぶい橙色	英・黒・雲	なし	なし	手づくね
74	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅳ期	6C15	SD51	1	23.4	8.7	11.0	灰色	灰色	英・骨	部分的	ベルト状	
75	珠洲	片口鉢			3F13	SD52	1				灰色	灰色	骨	なし	なし	
76	珠洲	片口鉢			6C22	SD52	3			13.0	灰色	灰色	英・黒・骨	部分的	部分的	
77	土師質	皿		15C後半～16C	3H6	SD52	4	9.4	1.8	4.2	灰白色	灰白色		ベルト状	ベルト状	手づくね　灯明皿
78	珠洲	壺・甕			7F10	SD52	3				灰色	灰色	英・黒・骨	なし	なし	
79	珠洲	壺				SD251	1				青灰色	青灰色	英・黒・骨	なし	なし	
80	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅳ期	8H24	SD252	1				青灰色	青灰色	英・黒・骨	なし	なし	
81	珠洲	片口鉢			8J	SD278	1				灰色	灰色	英・黒・チ・骨	なし	なし	
82	珠洲	片口鉢			4H4	SX72	1			13.2	灰色	灰色	英・骨	なし	なし	
83	珠洲	壺			9H3	SX274	3				青灰色	青灰色	英・骨	部分的	なし	
84	土師質	皿		13C後半～14C	4H	SK205		9.4	1.7	7.0	にぶい橙色	にぶい橙色	英・雲	なし	なし	手づくね
85	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅲ期	4H4	SK206	1				灰色	灰色	英・砂・骨	部分的	部分的	
86	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅳ期	4H4	SK206	1				灰色	灰色	英・骨	なし	なし	
87	珠洲	壺			4H	SK209	3				青灰色	青灰色	英・黒・骨	なし	なし	
88	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅲ期	4H4	P225	1				灰色	灰色	英・チ・黒・骨	なし	なし	
89	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅴ期	5H5	P238	3				青灰色	青灰色	英・黒・骨	ベルト状	なし	
90	珠洲	片口鉢			5H5	P238	3			10.0	灰色	灰色	英・骨	なし	ベルト状	
91	珠洲	片口鉢			5H24	P342	1				灰色	灰色	英・チ・砂・角・骨	なし	なし	
92	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅳ期	5H8	P367	1				灰色	灰色	英・長・雲・骨	なし	なし	
93	陶器	合子	瀬戸美濃	古瀬戸中期様式Ⅲ～Ⅳ期	5H1	P500	1	2.3	2.9	2.8	灰白色	灰白色		なし	なし	底部糸切り 胴大4.6cm
94	土師質	皿		13C後半～14C	6E12		Ⅲ2	9.9	1.7	7.4	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	雲・黒	なし	なし	手づくね
95	土師質	皿		13C後半～14C	5D22		Ⅲ2	8.6	1.8	6.0	灰色	灰色	長	全体的	全体的	手づくね
96	土師質	内耳鍋		15C	2G7		Ⅲ2				灰黄褐色	灰黄褐色	英	ベルト状	ベルト状	
97	陶器	壺	越前	15C後半～16C前半	10E		Ⅲ2				灰色	灰色	英	なし	なし	
98	陶器	壺	越前	15C後半～16C前半	2D		Ⅲ2				灰色	灰色	英・黒	なし	なし	
99	陶器	擂鉢	越前	16C前半	5F		Ⅲ2				にぶい橙色	にぶい橙色	英	なし	なし	
100	陶器	擂鉢	越前	16C前半	10G		Ⅲ2				にぶい橙色	にぶい橙色	英・黒	部分的	部分的	
101	陶器	擂鉢	越前	16C前半	4F1		Ⅲ2				灰白色	灰白色	英・チ	なし	なし	焼成軟質
102	珠洲	壺		珠洲Ⅱ期	4I7		Ⅲ2				青灰色	青灰色	黒・骨	なし	なし	
103	珠洲	壺		珠洲Ⅴ期	5D22		Ⅲ2				灰色	灰色	英・黒・骨	なし	なし	
104	珠洲	壺			5G		Ⅲ2				青灰色	青灰色	英・黒・骨	なし	なし	
105	珠洲	壺			7I		Ⅲ2				灰色	灰色	英・黒・骨	なし	なし	
106	珠洲	壺		16C前半	6D7		Ⅲ2				灰色	灰色	長・骨	なし	なし	漆の補修痕
107	珠洲	壺			10G		Ⅲ2				灰色	灰色	英・黒・骨	なし	なし	
108	珠洲	壺			9H		Ⅲ2				灰色	灰色	英・黒・骨	なし	なし	研磨具に転用
109	珠洲	壺		珠洲Ⅲ期	8F		Ⅲ2				青灰色	青灰色	英・黒・骨	なし	なし	
110	珠洲	壺		珠洲Ⅲ～Ⅳ期	9I		Ⅲ2				灰色	灰色	英・骨	なし	なし	波状文
111	珠洲	壺		珠洲Ⅲ～Ⅳ期	9J		Ⅲ2				灰色	灰色	英・骨	部分的	なし	波状文
112	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅲ期	2G1,4H6 ,8H,4E14		Ⅲ2				灰色	青灰色	英・骨	なし	なし	
113	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅳ期	8J		Ⅲ2				灰色	灰色	英・長・黒・骨	なし	なし	
114	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅴ期	2B2		Ⅲ2				灰色	灰色	英・黒・骨	なし	なし	波状文
115	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅴ期	8G		Ⅲ2				青灰色	青灰色	英・黒・骨	なし	なし	波状文
116	珠洲	片口鉢			8G		Ⅲ2			13.9	灰色	灰色	英・黒・骨	なし	なし	
117	珠洲	片口鉢			4H6		Ⅲ2			11.8	青灰色	青灰色	英・黒・骨	なし	なし	
118	珠洲	片口鉢			5F		Ⅲ2			11.8	灰色	灰色	英・黒・骨	なし	なし	
119	珠洲	片口鉢			7I		Ⅲ2			11.8	灰色	灰色	英・骨	なし	なし	
120	珠洲	片口鉢			8H		Ⅲ2			11.8	灰色	灰色	英・長・黒・骨	なし	なし	
121	珠洲	片口鉢		珠洲Ⅱ期	4D21		Ⅲ2				青灰色	青灰色	英・雲・黒・骨	なし	なし	
122	陶器	天目碗	瀬戸美濃	古瀬戸後期様式Ⅳ期	5E3		Ⅲ2	14.0			淡黄色	淡黄色		なし	なし	
123	陶器	天目碗	瀬戸美濃	大窯4	6E4		Ⅲ2	11.2			灰白色	灰白色	黒	なし	なし	
124	陶器	天目碗	瀬戸美濃	大窯3～4	4G		Ⅲ2	12.0			灰白色	灰白色	黒	なし	なし	
125	陶器	天目碗	瀬戸美濃		7G20		Ⅲ2			4.6	灰白色	灰白色	黒	なし	なし	
126	陶器	皿	瀬戸美濃	大窯1～2	11G		Ⅲ2			5.6	灰色	灰色		なし	なし	外底面に重ね焼き痕あり

報告No.	種類	器種	産地	時期	出土地点			法量（cm）			色調		胎土	炭化物		備考
					グリッド	遺構	層位	口径	器高	底径	内側	外側	混入物	内側	外側	
127	陶器	皿	瀬戸美濃	大窯4	4F		Ⅲ2	10.0	2.1	3.0	灰白色	灰白色	英	なし	なし	
128	陶器	志野皿	瀬戸美濃	大窯4	4E9		Ⅲ2			3.8	灰白色	灰白色		なし	なし	
129	陶器	擂鉢	瀬戸美濃	古瀬戸後期様式	5C17		Ⅲ2				灰色	灰色	黒	なし	なし	
130	陶器	茶入	瀬戸美濃		7E23		Ⅲ2	5.0			灰白色	灰白色		なし	なし	
131	青磁	碗		14C	8G		Ⅲ2	14.0			灰色	灰色		なし	なし	
132	青磁	碗		15C中葉	7J		Ⅲ2				灰色	灰色		なし	なし	
133	青磁	碗		14C	5D2		Ⅲ2			4.8	灰色	灰色		なし	なし	
134	青磁	碗			8I		Ⅲ2			5.0	灰色	灰色		なし	なし	
135	青磁	皿			8G		Ⅲ2			4.0	灰色	灰色		なし	なし	焼れ口部に炭化物
136	青磁	皿		15C後半	4F2		Ⅲ2	12.0	3.5	6.0	灰色	灰色		なし	なし	被熱
137	青磁	盤		13C～14C	5E24		Ⅲ2				灰色	灰色		なし	なし	
138	青磁	盤		13C～14C	10G		Ⅲ2			15.0	灰色	灰色		なし	なし	
139	青白磁	梅瓶		12C	10F		Ⅲ2			10.0	灰白色	灰白色		なし	なし	
140	白磁	皿		13C中～14C初頭	5E3		Ⅲ2	11.0			灰白色	灰白色		なし	なし	
141	中国染付	碗		14C末～15C中葉	10G		Ⅲ2	11.3			灰白色	灰白色		なし	なし	
142	中国染付	碗		16C中葉	7F		Ⅲ2				灰白色	灰白色		なし	なし	□□年造
297	陶器	皿	越中瀬戸	17C前半	5H		Ⅲ2			4.6	にぶい橙色	にぶい橙色	英	なし	なし	
298	陶器	皿	越中瀬戸	17C前半	1D		Ⅲ2	10.2	2.1	5.2	灰色	灰色		なし	なし	削出高台 漆つぎ
299	陶器	皿	越中瀬戸	17C前半	4I		Ⅲ2	11.0	2.6	4.8	にぶい橙色	にぶい橙色	英	なし	なし	削込高台
300	陶器	皿	越中瀬戸	17C前葉	10F		Ⅲ2	10.4	2.3	4.6	灰白色	灰白色	黒	なし	なし	菊花
301	陶器	皿	越中瀬戸	17C前葉	8E		Ⅲ2	10.0	2.1	3.6	灰白色	灰白色	黒	なし	なし	菊花
302	陶器	皿	越中瀬戸	17C前葉	5C17		Ⅲ2			4.3	灰褐色	灰褐色	英	なし	なし	菊花
303	陶器	皿	越中瀬戸	17C前葉	3C4		Ⅲ2			4.2	淡黄色	淡黄色	黒	なし	なし	菊花
304	陶器	擂鉢	越中瀬戸	16C末～17C初頭	9G		Ⅲ2	25.0			暗赤褐色	暗赤褐色		なし	なし	
305	陶器	壺	越中瀬戸	17C後半～18C前半	9H		Ⅲ2	11.0			暗赤褐色	黒褐色	英	なし	なし	
306	陶器	壺	越中瀬戸	17C末～18C前半	3C17		Ⅲ2	11.0			暗赤褐色	暗赤褐色	英	なし	なし	
307	陶器	壺	越中瀬戸		5I		Ⅲ2			12.6	暗赤褐色	暗赤褐色	英	なし	なし	
308	陶器	碗	唐津	大橋Ⅳ期	1B7		不明	11.8	3.9	4.2	褐色	赤褐色		なし	なし	削出高台 碗目痕跡
309	陶器	碗	唐津		9G		Ⅲ2			4.3	赤褐色	赤褐色	英	なし	なし	底面陽書「一」
310	陶器	皿	唐津	大橋Ⅱ期	2B		Ⅲ2	15.5			オリーブ黄色	オリーブ黄色		なし	なし	
311	陶器	皿	唐津	大橋Ⅰ－2期	6D6		Ⅲ2			4.0	赤褐色	赤褐色	英	なし	なし	胎土目痕あり
312	陶器	皿	唐津	大橋Ⅰ－2期	5E7		Ⅲ2			3.6	赤褐色	赤褐色		なし	なし	胎土目痕あり
313	陶器	壺	唐津	大橋Ⅰ－2期	5C7		Ⅲ2	7.0	3.6	1.8	淡黄色	淡黄色	黒	なし	なし	被熱
314	陶器	擂鉢	唐津	大橋Ⅱ期	4E16		Ⅲ2				褐色	褐色		なし	なし	
315	陶器	擂鉢	唐津	大橋Ⅱ期	5E4		Ⅲ2				暗褐色	暗褐色		なし	なし	
316	磁器	碗	伊万里	大橋Ⅳ期	6E		Ⅰ			4.4	オリーブ黄色	オリーブ黄色		なし	なし	手描きの五弁花 銘款画福？
317	磁器	碗	伊万里		3B19		Ⅲ2			11.6	灰白色	灰白色	英	なし	なし	
318	磁器	皿	伊万里	大橋Ⅱ期	4E9		Ⅲ2			4.3	灰白色	灰白色		なし	なし	初期伊万里 染付 漆つぎ
319	磁器	皿	波佐見	大橋Ⅰ－1期	7E9		Ⅲ2	13.2	2.9	8.0	灰白色	灰白色	英	なし	なし	コンニャク印判の五弁花 銘款画福 漆つぎ
320	磁器	蓋	伊万里	19C	9I		Ⅰ	4.8	3.1	19.4	灰白色	灰白色		なし	なし	「寿」字
321	磁器	紅皿	伊万里	大橋Ⅴ期	8J		Ⅲ2	4.2	1.3	1.1	白色	白色		なし	なし	
322	磁器	壺	伊万里	大橋Ⅱ期			Ⅲ2	6.6	3.9	3.0	明緑灰色	明緑灰色	英	なし	なし	「寿」字
323	磁器	火入	伊万里	17C末～18C	6D		Ⅰ	10.5			灰白色	灰白色		なし	なし	
324	陶器	碗	京信系	18C前半～19C	5E6		Ⅲ2	11.0			灰白色	灰白色	黒	なし	なし	
325	陶器	碗	京信系	18C中葉	5H		Ⅲ2	9.0			淡黄色	淡黄色	黒	なし	なし	
326	陶器	香炉	不明		9H		Ⅲ2	11.5			灰白色	灰白色		なし	なし	
327	陶器	碗	唐津？	大橋Ⅰ～Ⅱ期？	6F		Ⅲ2			4.0	灰白色	灰白色	英	なし	なし	被熱　底面墨書

石器・石製品

報告No.	器種	出土地点			法量（cm・g）				石材	遺存状況	使用痕	炭化物	備考
		グリッド	遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重量					
143	磨石	4F19-25	SE210	覆土1層	5.6	3.9	2.2	70	凝灰岩	下半欠	磨	表面下半に付着	
144	磨石類	5I	SE455	覆土3層	7.8	5.7	4.4	294	砂岩	上半欠	磨＋敲	なし	
145	台石	10G15	SE741	覆土4層	9.6	18.5	6.5	1522	安山岩	下半欠		全面に付着	
146	磨石類	9H21	SD51	覆土1層	10.6	8.0	5.5	728	安山岩	右上部に潰れ	磨＋敲＋凹	表面中央に付着	被熱
147	台石	9H21	SD51	覆土1層	8.2	15.3	3.4	652	安山岩	下半欠		なし	
148	台石	1E9	SD17	覆土1層	6.3	7.3	4.4	344	安山岩	3面欠		表面に付着	
149	台石	2G21	SD20	覆土1層	5.9	11.1	5.2	420	安山岩	下半欠		表面に付着	被熱
150	磨石類	4H12,17	SK139	覆土2層	7.4	7.8	2.9	240	砂岩	下半欠	磨＋敲（＋溝）	なし	
151	磨石類	3G3		Ⅲ2層	10.7	4.5	5.6	328	安山岩	2面欠	磨	表面に付着	被熱
152	砥石	7E11		Ⅲ層	5.4	2.3	1.2	22	粘板岩	下半欠	磨	なし	
153	錘	5H24		Ⅲ2層	高さ4.1	径3.7		78	安山岩	完形		なし	外周に溝あり　表面は漆塗り
154	硯	4H19,20	P560	覆土1層	8.1	5.4	1.3	130	鳴滝産	上端欠	陸部に墨痕あり	なし	裏面・側面に製作痕
155	硯	5H12		Ⅲ2層	9.2	5.1	0.8	52	鳴滝産	上右端欠		なし	被熱
156	硯	3H		Ⅲ層	6.4	3.0	0.5	14	粘板岩	上下端欠		なし	
157	五輪塔	2E24	SR18上	Ⅲ2層	長径16.7	短径13.8	12.4	2685	安山岩	空輪欠		なし	
329	剣製石斧	5E1		Ⅲ層	4.4	2.7	0.7	14	蛇紋岩	完形		なし	縄文時代

木製品

報告No.	器種	部位	出土地点			法量（cm）				遺存状況	木取り	樹種	備考
			グリッド	遺構	層位	長さ	幅	厚さ	径				
158	曲物	底板	4H2	SE78				0.8	11.9	完形	柾目	スギ	
159	那材	把手？	4H2	SE78		22.4	2.5	0.7		完形	板目	スギ	
160	那材	柄	4H12	SE139	覆土2層	15.7	3.6	1.2		ほぼ完形	板目	スギ	木釘穴4カ所
161	箱物？		5H15	SE190	覆土7層	9.9	8.3	0.8			柾目	ヒノキ属	木釘穴2カ所　線条痕あり
162	曲物		5I25	SE195	覆土最層	9.0	2.0	1.7		完形	柾目	ホソ状の突起あり	
163	不明		5I25	SE195	覆土最層	20.9	2.4	0.5		ほぼ完形	板目	スギ	ホゾ穴1カ所　木釘穴3カ所
164	不明		5I25	SE195		8.5	4.3	0.4			板目	スギ	
165	箸		5I25	SE195		16.5			0.6	両端欠	柾目	スギ	
166	曲物	底板	4H18,23	SK205	覆土2層			0.5	14.6		板目	スギ	木釘穴4カ所
167	箸		4F19,25	SE210	覆土2層	28.3	0.7	0.6		ほぼ完形	板目	スギ	
168	那材	把手？	4F19,25	SE210	覆土11層	28.3	3.0	1.1		左部欠？	柾目	ヒノキ	
169	曲物	底板	4F19,25	SE210	覆土11層			0.7	18.0	1/2欠	板目	スギ	径5mの穴2カ所
170	箸		4H15	SE229	覆土2層	16.2			0.7	上部欠損	板目	スギ	
171	曲物	底板	4H15	SE229	覆土5層			0.4	6.6	2/3欠	板目	スギ	墨書あり
172	曲物	側板	10H3	SE277	覆土5層	14.2	4.2	皮止め部0.6、それ以外0.2			柾目	スギ	皮止め1カ所　木釘穴？1カ所
173	箱物？		4H15	SE229	覆土5層	28.7	8.5	0.7			柾目	スギ	木釘穴3カ所　線条痕あり
174	曲物	側板	6I15	SE455	覆土3層	25.2	5.6	0.3			柾目	スギ	皮止の3カ所　線条痕あり
175	箸	箸	6I15	SE455	覆土3層	18.2			0.6	上端欠	板目	スギ	
176	曲物	側板	7I6	P538	覆土3層	11.8	10.6	0.2	長11.5,短9.7		柾目	ヒノキ	皮止の3カ所　柄杓か？
177	曲物	底板	7I6	P538	覆土3層			0.8	8.2	完形	板目	スギ	
178	曲物	側板	10I21, 10J1	SE714	覆土2層	14.7	8.8	皮止め部0.7、それ以外0.2			柾目	スギ	木釘穴2カ所
179	箱物？		8F24	SE725	覆土3層	26.9	8.8	0.8		ほぼ完形	柾目	スギ	木釘穴4カ所　線条痕あり
180	不明		8F24	SE725	覆土3層	41.3	4.5	1.6		ほぼ完形	板目	スギ	上下抉り入り
181	杭？		V16	SD51		10.5			5.8		丸材	エノキ属	
182	曲物	皮止め	8F22	SD51	古墳期	高さ4.1	(3.3)	0.1	左2.6,右0.7	完形？		樹皮	巻かれた状態のまま出土
183	曲物	底板	7J		Ⅲ2層			0.9	10.5	1/2欠	板目	スギ	中央に1cm弱の穴
184	箱物？		7J2		Ⅲ2層	4.7	3.2	0.6			板目	モクレン属	表面黒漆　裏面赤漆
185	柱根		4H10	P225		55.4	12.0	13.6			割材	モクレン属	
186	柱根		5H22	P305		59.5	15.8	16.4			割材	スギ	
187	柱根		5H25	P390		77.0	(17.4)	(15.4)	12.4 (b)		丸材	クリ	
188	柱根		5H20	P347		79.6	18.8	16.0			割材	スギ	ほぞ穴2カ所　ほぞ組み手1カ所
189	柱根		5H14	P348		76.8	31.8	29.8	22.8 (a), 30.6 (b)		丸材	クリ	
190	柱根		5H24	P456		72.8	26.6	17.0			割材？	クリ	

金属製品

報告No.	種別	出土地点			現存長(mm)	対長(mm)	現存幅(mm)	現存厚(mm)	重量(g)	材質	備考
		グリッド	遺構	層位							
191	鏡?	4F	SE210	覆±12層	65.2		40.9	14.3	80.0	鉄	
192	小刀	10J	SE714	覆±3層	306.5	211.5	27.3	6.2	108.3	鉄	

銭貨

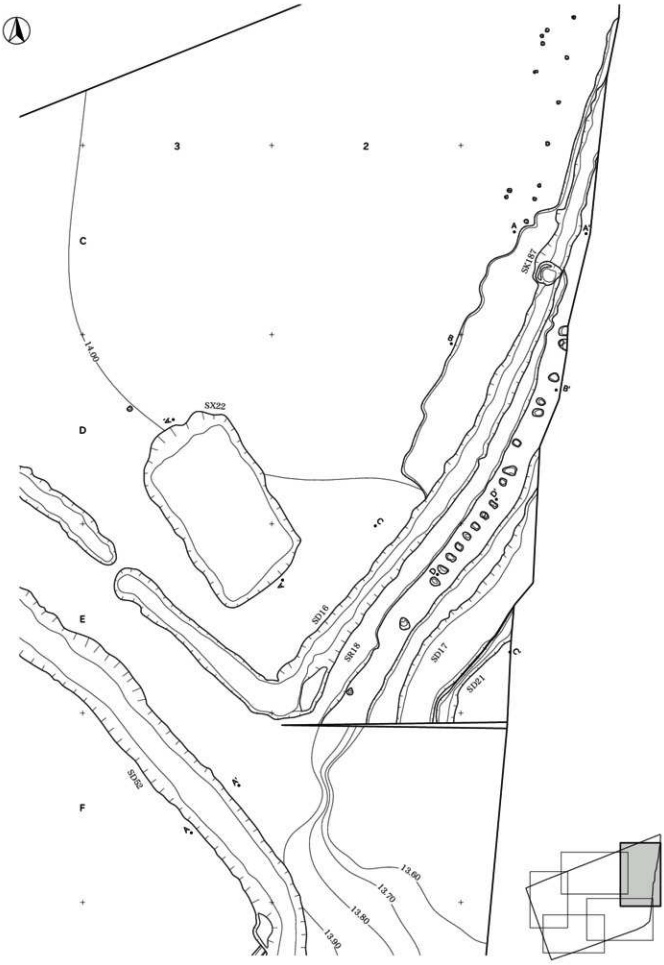
報告No.	銭貨名	出土地点			外径縦(mm)	外径横(mm)	内径縦(mm)	内径横(mm)	銭厚(mm)	重量(g)	初鋳年	国名	備考
		グリッド	遺構	層位									
193	熙寧元寶	5D9	SD52	覆±3層	24.20	24.10	20.45	20.60	1.15	1.90	1068	北宋	
194	皇宋通寶	4E14	SD52	覆±1層	—	25.05	—	20.00	1.35	2.56	1038	北宋	
195	景德元寶	8I	SD252	覆±1層	24.10	24.25	19.60	19.60	1.25	2.38	1004	北宋	
196	乾元重寶	10G		Ⅲ2層	24.25	24.00	19.10	19.10	1.20	3.01	758	唐	
197	太平通寶	5I11		Ⅲ2層	24.30	24.25	18.60	19.00	1.20	3.06	976	北宋	
198	祥符元寶	5H		Ⅲ2層	23.70	23.90	19.20	19.20	0.80	1.80	1008	北宋	
199	熙寧元寶	7D4		Ⅲ2層	23.95	24.15	19.20	18.90	1.10	2.86	1068	北宋	
200	嘉定通寶	9I		Ⅲ2層	23.00	22.85	19.30	18.00	0.85	2.08	1208	南宋	
201	淳祐元寶	1E15		Ⅲ2層	23.30	23.15	19.60	20.00	0.90	1.75	1241	南宋	
202	元祐通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.80	24.65	20.80	20.90	1.10	2.20	1086	北宋	柵銭1
203	熙寧元寶	4I14	SK201	覆±2層	23.20	23.45	19.85	19.80	1.35	3.26	1068	北宋	柵銭2
204	聖宋元寶	4I14	SK201	覆±2層	24.60	24.55	19.25	19.85	1.05	2.74	1101	北宋	柵銭3
205	元祐通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.45	23.35	21.10	20.35	1.25	3.23	1086	北宋	柵銭4
206	元豊通寶	4I14	SK201	覆±2層	23.95	24.15	18.70	18.70	1.20	3.19	1078	北宋	柵銭5
207	紹聖元寶	4I14	SK201	覆±2層	23.55	23.85	19.05	18.75	1.20	3.04	1094	北宋	柵銭6
208	元祐通寶	4I14	SK201	覆±2層	25.00	25.10	18.60	18.80	1.25	4.24	1086	北宋	柵銭7
209	大觀通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.30	23.75	21.00	21.30	1.30	2.80	1107	北宋	柵銭8
210	宣和通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.35	24.30	21.50	20.95	1.20	2.94	1119	北宋	柵銭9
211	元祐通寶	4I14	SK201	覆±2層	23.70	24.00	19.55	19.40	1.25	3.28	1086	北宋	柵銭10
212	嘉泰通寶	4I14	SK201	覆±2層	23.70	23.60	20.20	20.60	1.20	3.20	1201	南宋	柵銭11
213	皇宋通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.55	24.30	17.40	17.75	1.10	3.69	1038	北宋	柵銭12
214	開元通寶	4I14	SK201	覆±2層	23.85	23.90	19.60	19.65	1.25	3.58	621・960	唐・南唐	柵銭13
215	元豊通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.60	24.75	19.20	19.95	1.10	3.39	1078	北宋	柵銭14
216	天禧通寶	4I14	SK201	覆±2層	25.65	25.55	20.80	20.10	1.20	3.76	1023	北宋	柵銭15
217	熙寧元寶	4I14	SK201	覆±2層	24.65	25.00	20.95	21.40	1.10	3.24	1068	北宋	柵銭16
218	開元通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.40	24.30	19.95	19.80	1.15	3.06	621・960	唐・南唐	柵銭17
219	天禧通寶	4I14	SK201	覆±2層	25.65	25.55	20.70	20.50	0.95	2.69	1023	北宋	柵銭18
220	治平元寶	4I14	SK201	覆±2層	24.45	24.60	19.65	19.55	1.30	3.54	1064	北宋	柵銭19
221	宣和通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.20	24.35	20.90	20.95	1.25	2.54	1119	北宋	柵銭20
222	不明	4I14	SK201	覆±2層	25.60	25.50	19.00	19.00	0.85	2.58	—	—	柵銭21 □□元寶
223	祥符通寶	4I14	SK201	覆±2層	25.35	25.30	20.00	19.40	1.20	3.67	1008	北宋	柵銭22
224	嘉祐通寶	4I14	SK201	覆±2層	22.95	23.00	20.15	20.00	1.05	2.53	1056	北宋	柵銭23
225	元豊通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.65	24.70	18.70	18.70	1.15	3.34	1078	北宋	柵銭24
226	祥符元寶	4I14	SK201	覆±2層	24.70	24.55	19.00	18.85	1.10	2.91	1008	北宋	柵銭25
227	開元通寶	4I14	SK201	覆±2層	23.40	23.90	20.00	20.65	1.30	3.19	621・960	唐・南唐	柵銭26
228	開元通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.90	24.55	21.90	21.40	1.25	3.10	621・960	唐・南唐	柵銭27
229	元符通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.40	24.30	20.00	20.00	1.20	3.03	1098	北宋	柵銭28
230	大觀通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.05	24.15	22.00	21.90	1.10	2.24	1107	北宋	柵銭29
231	元豊通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.10	24.15	19.30	19.00	1.20	3.33	1078	北宋	柵銭30
232	太平通寶	4I14	SK201	覆±2層	23.85	23.95	18.45	19.35	1.15	2.98	976	北宋	柵銭31
233	治平元寶	4I14	SK201	覆±2層	24.40	24.00	19.20	19.20	1.10	2.78	1064	北宋	柵銭32
234	天聖元寶	4I14	SK201	覆±2層	24.25	24.10	20.30	21.10	0.95	2.70	1023	北宋	柵銭33
235	元祐通寶	4I14	SK201	覆±2層	25.10	24.80	19.55	19.60	1.15	3.57	1086	北宋	柵銭34
236	天聖元寶	4I14	SK201	覆±2層	24.90	24.90	21.20	21.20	1.15	3.33	1023	北宋	柵銭35
237	紹聖元寶	4I14	SK201	覆±2層	23.90	24.00	18.75	19.35	1.35	3.40	1094	北宋	柵銭36
238	至和元寶	4I14	SK201	覆±2層	25.50	24.00	18.70	18.70	1.25	3.22	1054	北宋	柵銭37
239	元豊通寶	4I14	SK201	覆±2層	25.00	25.00	20.00	20.00	1.05	2.92	1078	北宋	柵銭38
240	元豊通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.05	24.15	19.50	19.50	1.25	3.48	1078	北宋	柵銭39
241	祥符元寶	4I14	SK201	覆±2層	25.30	25.35	19.35	19.10	1.00	2.96	1008	北宋	柵銭40
242	熙寧元寶	4I14	SK201	覆±2層	23.85	23.80	19.75	19.95	1.20	3.42	1068	北宋	柵銭41
243	不明	4I14	SK201	覆±2層	24.10	24.05	—	—	2.50	6.52	—	—	柵銭42と柵銭43が付着 □□元寶
244	開元通寶	4I14	SK201	覆±2層	23.60	24.45	20.80	21.70	1.05	2.75	621・960	唐・南唐	柵銭44
245	天禧通寶	4I14	SK201	覆±2層	25.90	25.90	20.25	20.25	1.30	3.89	1023	北宋	柵銭45
246	紹聖元寶	4I14	SK201	覆±2層	24.00	23.55	19.35	18.55	1.20	2.82	1094	北宋	柵銭46
247	天聖元寶	4I14	SK201	覆±2層	24.95	24.95	21.60	21.60	1.40	3.57	1023	北宋	柵銭47
248	天聖元寶	4I14	SK201	覆±2層	25.00	25.00	21.75	20.55	1.20	3.18	1023	北宋	柵銭48
249	至道元寶	4I14	SK201	覆±2層	23.75	23.80	19.55	19.70	1.20	2.94	960	北宋	柵銭49
250	元祐通寶	4I14	SK201	覆±2層	24.50	24.40	20.75	20.75	1.40	3.42	1086	北宋	柵銭50
251	元豊通寶	4I14	SK201	覆±2層	23.80	24.00	19.35	19.35	1.25	2.92	1078	北宋	柵銭51
252	嘉祐元寶	4I14	SK201	覆±2層	24.80	24.75	20.70	20.55	1.05	2.78	1056	北宋	柵銭52
253	祥符元寶	4I14	SK201	覆±2層	25.55	25.35	18.00	18.15	1.00	3.16	1008	北宋	柵銭53
254	開元通寶	4I14	SK201	覆±2層	23.45	23.30	18.35	17.95	1.10	2.42	621・960	唐・南唐	柵銭54

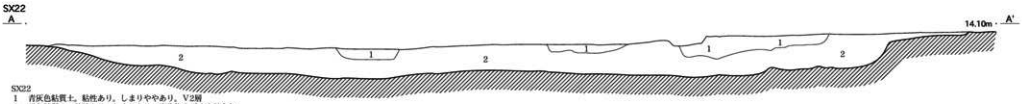
報告No.	銭貨名	出土地点			外径縦(mm)	外径横(mm)	内径縦(mm)	内径横(mm)	銭厚(mm)	重量(g)	初鋳年	国名	備考
		グリッド	遺構	層位									
255	天福通寶	4H14	SK201	覆土2層	25.50	25.40	20.85	20.50	1.10	3.36	1023	北宋	神我55
256	熙寧元寶	4H14	SK201	覆土2層	23.70	23.50	20.00	20.25	1.35	3.82	1068	北宋	神我56
257	開元通寶	4H14	SK201	覆土2層	23.45	23.55	20.45	20.45	1.20	2.42	621・960	唐・南唐	神我57
258	元豊通寶	4H14	SK201	覆土2層	24.40	24.10	19.40	19.00	1.30	3.72	1078	北宋	神我58
259	熙寧元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.00	23.70	20.15	21.05	1.45	2.68	1068	北宋	神我60
260	祥符元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.60	24.70	18.05	18.05	1.15	2.66	1008	北宋	神我61
261	開元通寶	4H14	SK201	覆土2層	24.50	24.60	21.00	20.85	1.20	2.96	621・960	唐・南唐	神我62
262	至道元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.80	24.85	19.20	19.20	1.20	2.90	995	北宋	神我63
263	開元通寶	4H14	SK201	覆土2層	24.40	24.40	21.00	20.65	1.00	2.65	621・960	唐・南唐	神我64
264	祥符元寶	4H14	SK201	覆土2層	25.10	25.00	19.30	19.20	1.25	3.25	1008	北宋	神我65
265	大型元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.85	25.05	21.40	21.40	1.30	2.90	1023	北宋	神我66
266	元祐通寶	4H14	SK201	覆土2層	24.40	24.35	20.55	20.55	1.20	3.57	1086	北宋	神我67
267	政和通寶	4H14	SK201	覆土2層	25.15	24.95	20.75	20.90	1.20	2.91	1111	北宋	神我68
268	政和通寶	4H14	SK201	覆土2層	23.80	24.05	22.00	22.00	1.10	2.81	1111	北宋	神我69
269	聖宋元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.45	24.35	20.25	20.00	1.30	3.55	1101	北宋	神我70
270	熙寧元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.00	24.00	20.10	20.10	1.15	2.81	1068	北宋	神我71
271	祥符元寶	4H14	SK201	覆土2層	25.25	25.20	18.00	18.20	1.20	3.45	1008	北宋	神我72
272	至和元寶	4H14	SK201	覆土2層	23.65	23.55	19.00	19.50	1.30	3.58	1054	北宋	神我73
273	熙寧元寶	4H14	SK201	覆土2層	23.95	23.95	18.90	19.00	2.00	5.33	1068	北宋	神我74
274	嘉祐通寶	4H14	SK201	覆土2層	24.15	24.00	19.85	19.45	1.00	2.54	1056	北宋	神我75
275	元豊通寶	4H14	SK201	覆土2層	25.30	25.20	21.70	20.95	1.35	3.31	1078	北宋	神我76
276	淳化元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.30	24.50	18.20	18.60	1.25	3.03	990	北宋	神我77
277	元符通寶	4H14	SK201	覆土2層	23.60	23.50	19.00	19.00	1.30	2.94	1098	北宋	神我78
278	祥符通寶	4H14	SK201	覆土2層	25.55	25.65	19.30	19.30	1.25	3.63	1008	北宋	神我79
279	紹聖元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.35	24.45	19.25	19.15	1.35	3.80	1094	北宋	神我80
280	景德元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.50	24.50	18.65	18.65	1.10	3.21	1004	北宋	神我81
281	景德元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.95	25.00	20.65	20.90	1.05	2.87	1004	北宋	神我82
282	元祐通寶	4H14	SK201	覆土2層	24.55	24.55	20.75	20.60	1.45	3.69	1086	北宋	神我83
283	大型元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.40	24.45	20.80	20.35	1.25	3.67	1023	北宋	神我84
284	大型元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.70	24.90	20.50	20.50	1.20	3.03	1023	北宋	神我85
285	開元通寶	4H14	SK201	覆土2層	23.60	23.45	19.70	19.80	1.25	3.61	621・960	唐・南唐	神我86
286	聖宋元寶	4H14	SK201	覆土2層	23.10	23.20	18.85	19.10	1.40	2.98	1101	北宋	神我87
287	熙寧元寶	4H14	SK201	覆土2層	23.95	24.05	19.80	20.45	1.35	3.61	1068	北宋	神我88
288	皇宋通寶	4H14	SK201	覆土2層	24.80	24.80	20.05	20.05	1.00	2.75	1038	北宋	神我89
289	至道元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.15	23.90	17.40	17.65	1.25	3.71	995	北宋	神我90
290	大型元寶	4H14	SK201	覆土2層	22.85	23.30	20.80	21.20	1.25	2.69	1023	北宋	神我91
291	大型元寶	4H14	SK201	覆土2層	25.25	25.20	21.30	20.95	1.20	3.24	1023	北宋	神我92
292	元豊通寶	4H14	SK201	覆土2層	24.85	25.00	20.40	20.35	1.15	3.20	1078	北宋	神我93
293	熙寧元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.45	24.05	21.00	20.75	1.30	3.42	1068	北宋	神我94
294	元祐通寶	4H14	SK201	覆土2層	24.90	24.85	20.40	21.40	1.15	2.59	1086	北宋	神我95
295	熙寧元寶	4H14	SK201	覆土2層	24.30	24.10	21.15	20.50	1.40	3.62	1068	北宋	神我96
296	皇宋通寶	4H14	SK201	覆土2層	23.15	23.70	—	—	0.60	1.09	1038	北宋	神我97
328	寛永通寶	6F		Ⅲ2層	25.20	25.20	20.50	20.00	1.35	3.42	1636	日本	裏「文」

図　　版

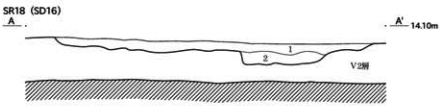
1　柱根は　　のスクリーントーンで示した。
2　土器・陶磁器の断面は須恵器は塗りつぶし、灰釉は点描、その他は白抜きとした。
3　加工痕は以下のスクリーントーンで示した。
　　・・・磨痕
　　・・・敲打痕。
4　付着物は　　のスクリーントーンで示した。
5　木製品の木目は、木取部位表示を目的としているため、年輪幅は実際を示していない。
6　遺物の写真図版の縮尺は、図面図版と同じである。

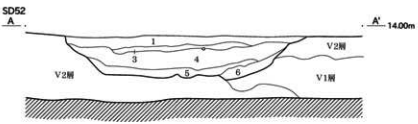
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
SD 1 BASEMENT
SD105
14.00
13.90
13.70
13.80
13.90
SD120
SD153
SD152
SD070
13.90
13.80
SD051
SD101
SD202
13.70
13.60
SD070
0
(1：500)
20m

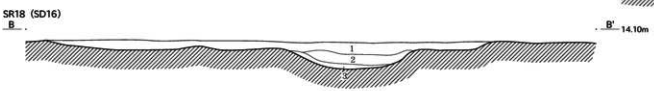

SX187
SX22
SD16
SD18
SD17
SD21
SD02
14.00
13.60
13.70
13.80
13.90
C
D
E
F
2
3
0
(1：200)
10m

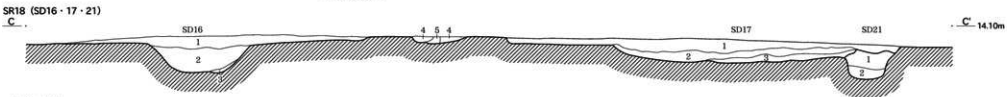


SX22
1　青灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。V2層
2　黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。







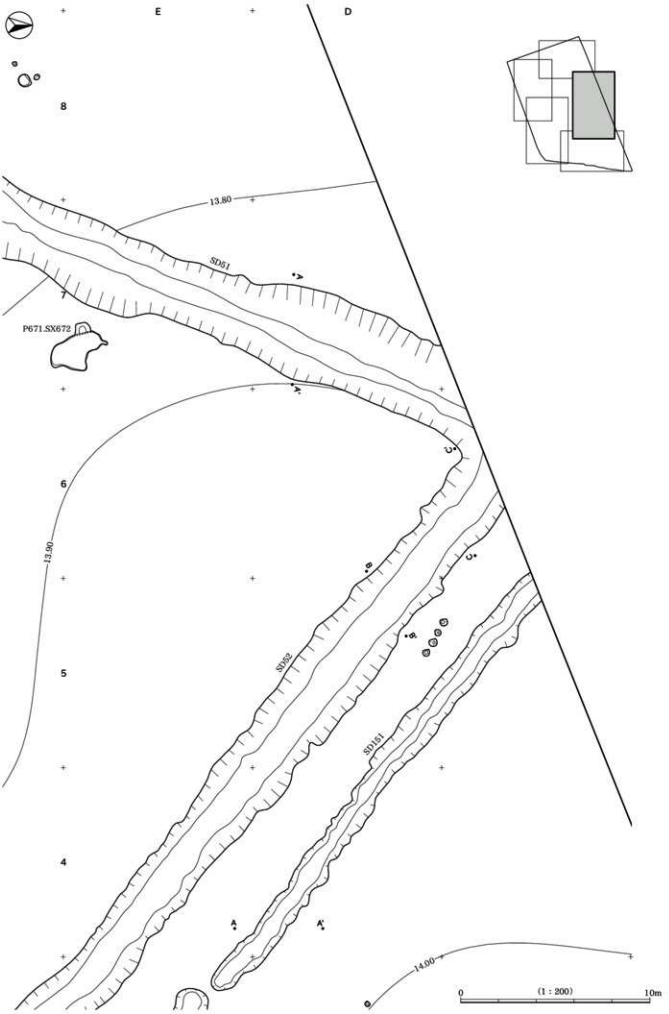


SD16・SD17
1　黒褐色粘質土。粘性あり。しまりあり。酸化鉄をまばらに含む。V2層を含む。Ⅲ2層に相当。
2　黒色土。粘性あり。しまりあり。炭化物をごく少量含む。
3　灰オリーブ色粘質土。粘性あり。しまりややあり。

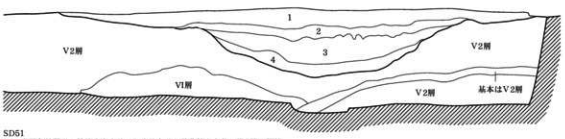
SD21
1　黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
炭化物をごく少量含む。
酸化鉄をまばらに含む。
2　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。
しまりややあり。

SR18
4　明緑灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
5　オリーブ黄色粘質土。粘性あり。しまりあり。

0　(1：40)　2m

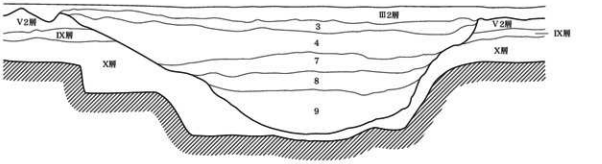

E
D
8
7
6
5
4
13.80
13.90
14.00
SD01
SD02
SD03
P671.SX672
0
(1：200)
10m

SD51

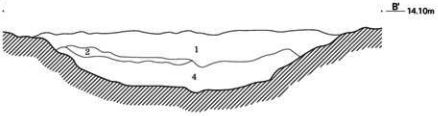


SD51
1　青灰色粘質土。粘性ややあり。しまりあり。酸化鉄を含む。Ⅲ2層に類似。
2　暗青灰色粘質土。粘性ややあり。しまりややあり。V2層をブロック状に含む。
3　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
4　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。灰白色粘質土をまばらに含む。

SD52

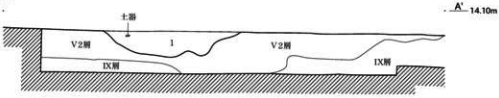


SD52



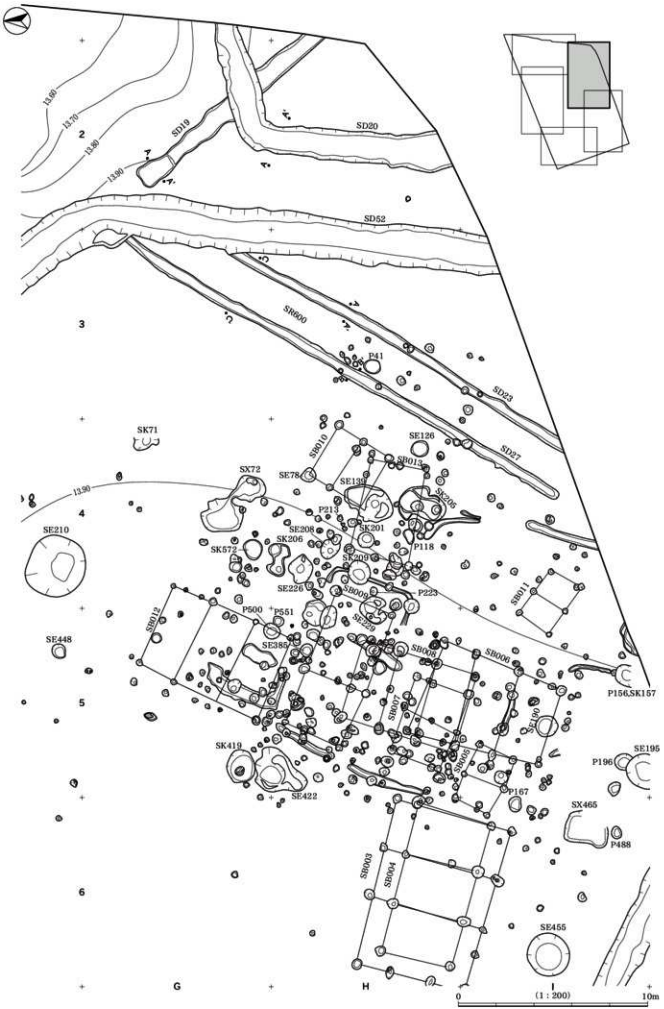
SD52
1　青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。径2mmの炭化物をごく少量含む。Ⅲ2層に類似。
2　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
3　灰オリーブ色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
4　暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。径2mmの炭化物を少量含む。
5　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
6　灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。灰オリーブ色粘質土をまばらに含む。
7　灰色粘質土。粘性ややあり。しまりあり。径1～2mmの炭化物を含む。
8　灰色粘質土。粘性ややあり。しまりあり。灰色粘質土をブロック状に含む。炭化した植物片を含む。
9　暗灰色粘質土。粘性ややあり。しまりなし。径2～3mmの炭化物・礫を含む。

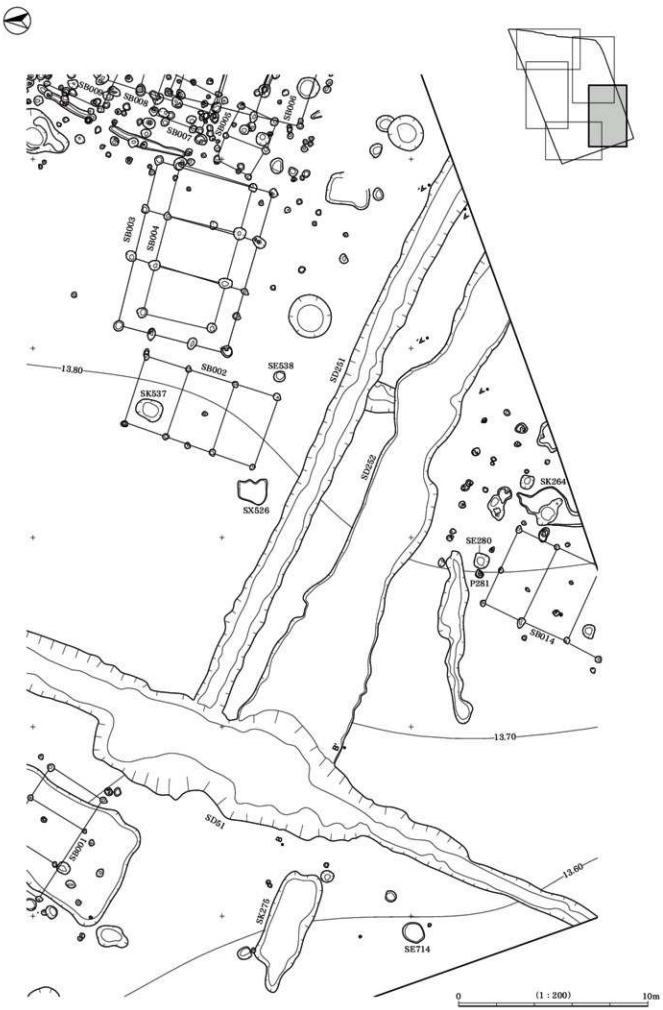
SD151



SD151
1　暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。径2～3mmの炭化物を少量含む。

0　(1：40)　2m

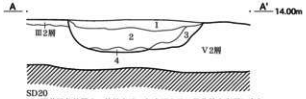

SD20
SD52
SD19
SD600
SD23
SD27
P41
SK71
SX72
SE78
SE130
SE139
SD010
SD013
SE206
P213
SE208
SK201
SK206
SK572
P118
SE210
SE226
SD006
P223
SD011
SD012
P500
P551
SE448
SE385
SD008
SD009
SD007
SE190
P156,SK157
SK419
SE422
SD005
SD001
P198
SE195
P167
SX465
P488
SD003
SD004
SE455
2
3
4
5
6
G
H
13.80
13.70
13.60
13.50
13.90
0
(1:200)
10m


SB006
SB009
SB008
SB007
SB005
SB003
SB004
SB002
SB001
SB014
SE538
SK537
SX526
SD251
SD252
SK264
SE280
P281
SD61
SK275
SE714
13.80
13.70
13.60
0
(1：200)
10m

SD19

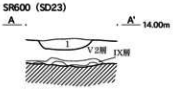
SD19
1 黒褐色粘質土。粘性あり。しまりあり。酸化鉄をまばらに含む。
2 黒褐色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
3 灰オリーブ色粘質土。粘性あり。しまりややあり。

SD20



SD20
1 灰黄褐色粘質土。粘性あり。しまりあり。酸化鉄を全面に含む。
2 黒褐色粘質土。粘性あり。しまりあり。
3 黄灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。
4 灰オリーブ色粘質土。粘性あり。しまりややあり。

SR600（SD23）



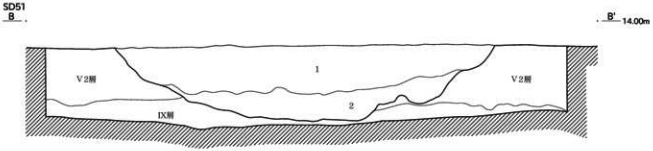
SD23
1 黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。

SR600（SD27）

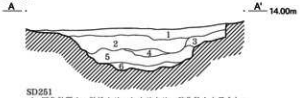
SD27
1 黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。

SR600（SD23・SD27）

SD51

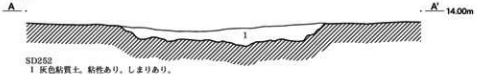


SD251

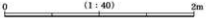


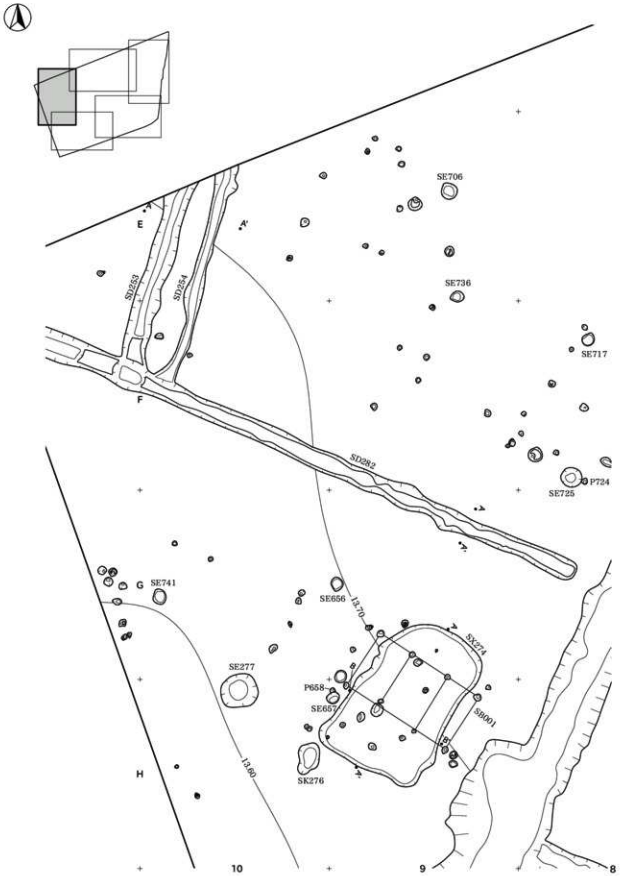
SD251
1 灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。酸化鉄を少量含む。
2 暗緑灰色粘質土。粘性ややあり。しまりなし。シルトを含む。
3 暗緑灰色粘質土。粘性ややあり。しまりなし。酸化鉄を多く含む。
4 暗オリーブ灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。炭化物を多く含む。全体に黒褐色粘質土を含む。
5 灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
6 青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。シルトを含む。

SD252

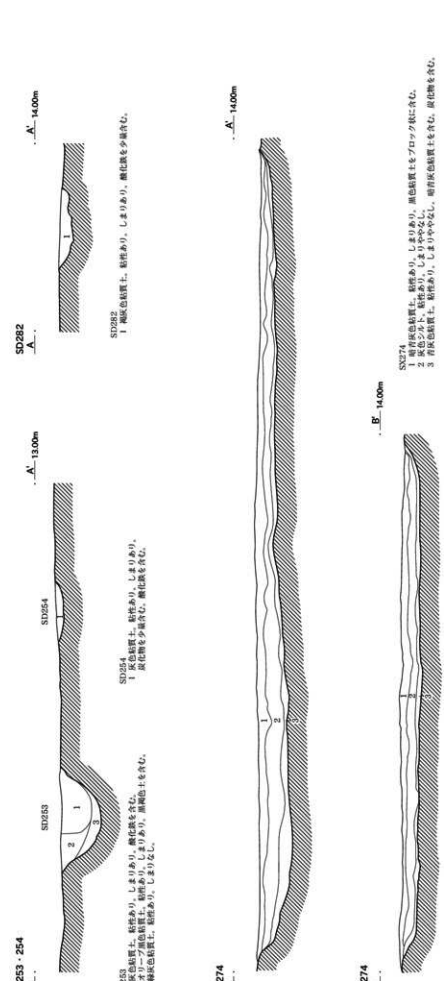


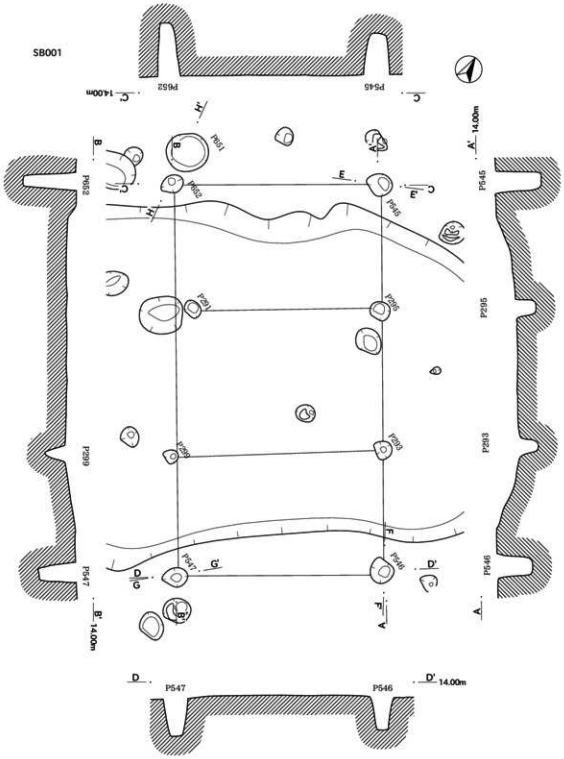
SD252
1 灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。

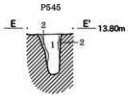



SE706
SE736
SE717
SD283
SD284
SD282
SE725
P724
E
F
G
H
SE741
SE656
SK274
SE277
P658
SE657
SB001
SK276
13.70
13.60
10
9
8

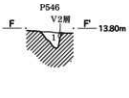
0　(1：200)　10m


SD253・254
A
A' 13.00m
SD253
SD254
SD253
2 オリーブ褐色粘質土、粘性あり、しまりあり、鉄化を含む。
3 緑灰色粘質土、粘性あり、しまりなし。
SD254
1 灰色粘質土、粘性あり、しまりあり、炭化物を少量含む。鉄化を含む。
SD282
A
A' 14.00m
SD282
1 褐灰色粘質土、粘性あり、しまりあり、鉄化物を少量含む。
SX274
A
A' 14.00m
SX274
B
B' 14.00m
SX274
1 褐灰色粘質土、粘性あり、しまりあり、黒色粘質土をブロック状に含む。
2 黒色シルト、粘性あり、しまりややなし。
3 青灰色粘質土、粘性あり、しまりややなし、明青灰色粘質土を含む。炭化物を含む。
0
(1:40)
2m

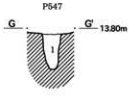




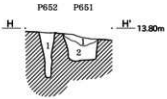
Pit545
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　V2層をまばらに含む。
2　明青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。



Pit546
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　V2層をブロック状に含む。

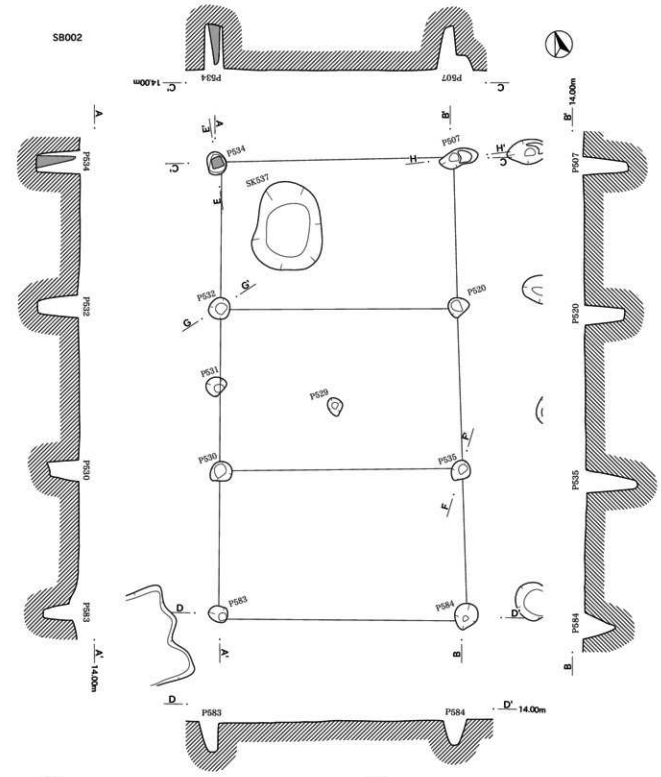


Pit547
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　V2層をブロック状に多量に含む。

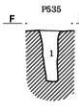


Pit651
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　V2層ブロック状に含む。
2　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　径3cmの炭化物を含む。
Pit652
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。

0　(1：60)　3m



Pit534
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　V2層をブロック状に少量含む。
2　明青灰色粘土。粘性あり。しまりなし。

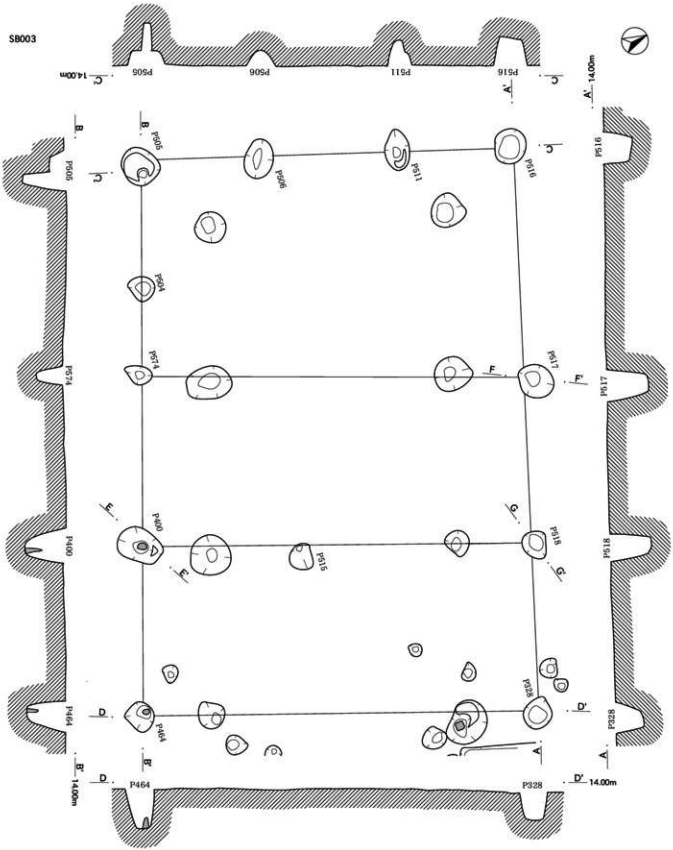


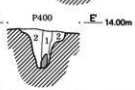
Pit535
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　径5mmの炭化物を少量含む。
　　V2層をブロック状に少量含む。

Pit532
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　V2層をまばらに含む。
2　明青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。

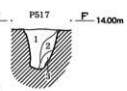
Pit507
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　V2層をまばらに含む。
2　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。

0　(1：60)　3m

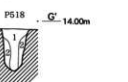




Pit400
1 オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
炭化物を少量含む。
2 オリーブ灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
炭化物を少量含む。V2層をブロック状に含む。

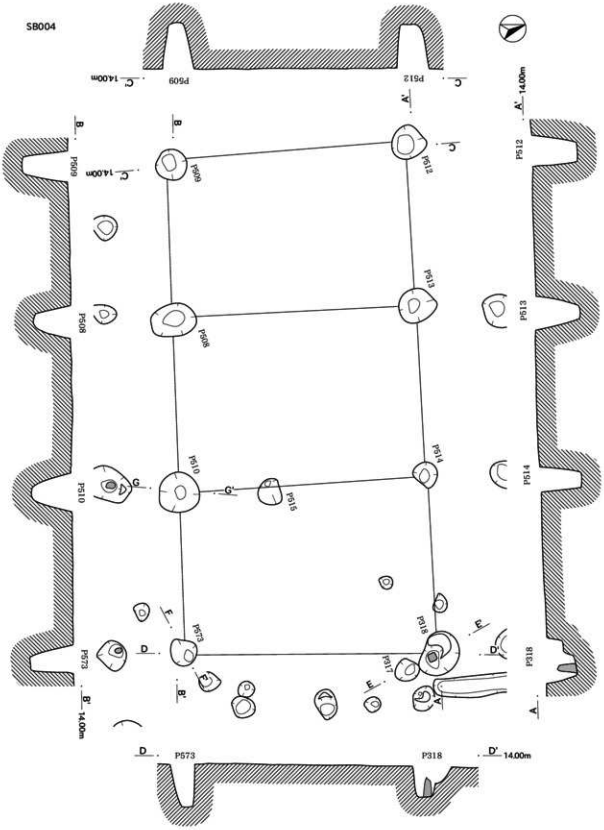


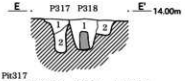
Pit517
1 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
V2層をブロック状に含む。
2 明青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
3 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。



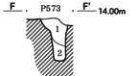
Pit518
1 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
V2層をブロック状に含む。
2 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
V2層をブロック状に含む。

0　(1：60)　3m

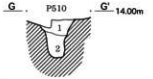




Pit317
1　緑黒色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　炭化物を少量含む。
2　暗緑灰色粘質土。粘性ややあり。しまりなし。
Pit318
1　暗灰黒色粘質土。粘性ややあり。
　しまりややあり。炭化物を少量含む。
2　暗緑灰色粘質土。粘性ややあり。
　しまりややあり。炭化物を少量含む。
　V2層をブロック状に含む。

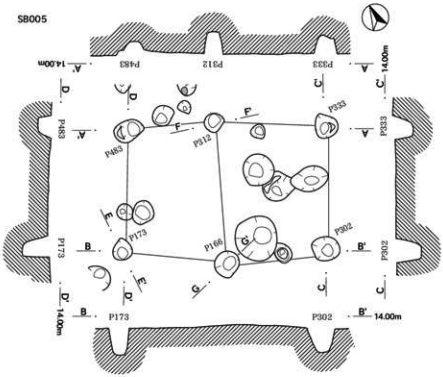


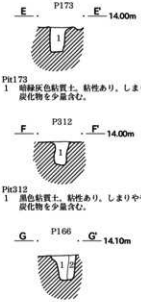
Pit573
1　黒色粘質土。粘性ややあり。
　しまりあり。炭化物をまばらに含む。
2　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。
　しまりややあり。炭化物を少量含む。



Pit510
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　V2層をブロック状に含む。
2　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　V2層をブロック状に多量に含む。
　酸化鉄をまばらを含む。

0　(1：60)　3m

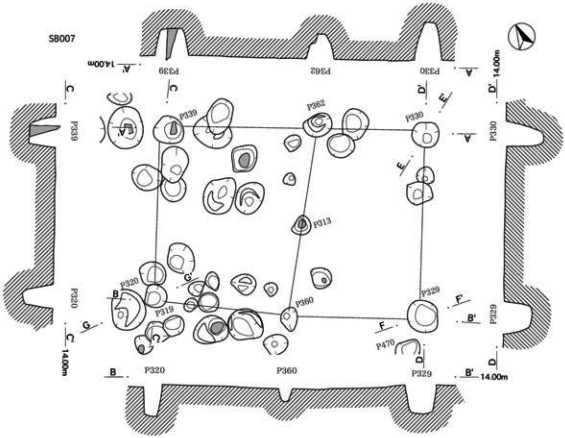


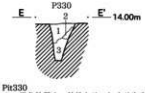


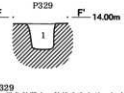
Pit173
1　明緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
　　炭化物を少量含む。

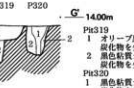
Pit312
1　黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
　　炭化物を少量含む。

Pit166
1　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
2　暗オリーブ灰色粘質土。粘性ややあり。しまりあり。









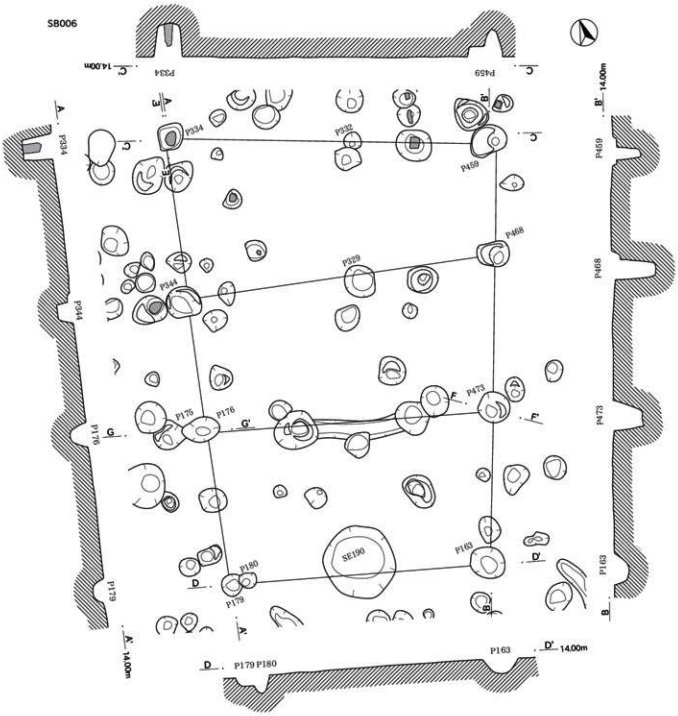
Pit330
1　黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
　　炭化物を少量含む。V2層をまばらに含む。
2　明青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　V2層崩落土。
3　灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
　　炭化物を少量含む。

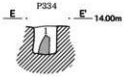
Pit329
1　黒色粘質土。粘性ややあり。しまりややあり。
　　炭化物を少量含む。V2層をブロック状に含む。

Pit319
1　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　　炭化物を少量含む。V2層まばらに含む。
2　黒色粘質土。粘性ややあり。しまりややあり。
　　炭化物を少量含む。V2層まばらに含む。

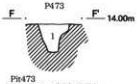
Pit320
1　黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　　炭化物を少量含む。V2層をやや多く含む。

0　(1：60)　3m

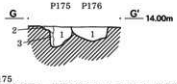




Pit334
1　オリーブ黒色粘質土。粘性ややあり。しまりややあり。
　　炭化物を少量含む。

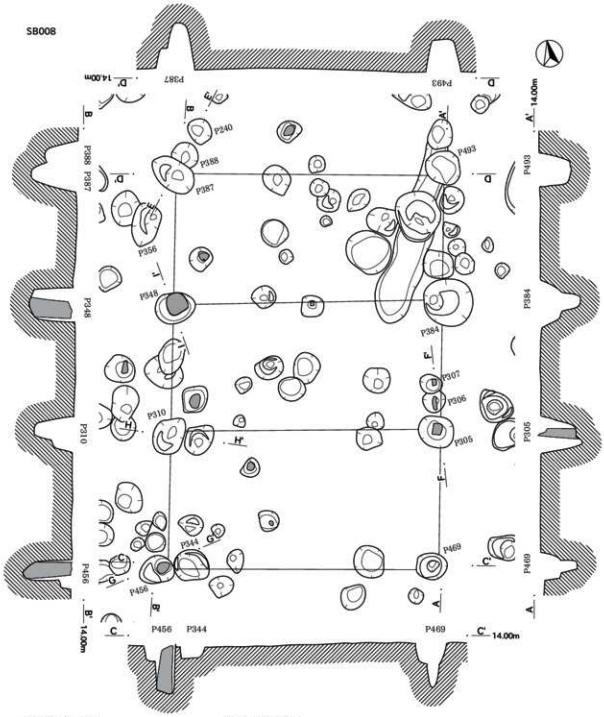


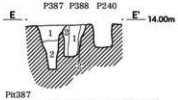
Pit473
1　オリーブ黒色粘質土。
　　粘性あり。しまりあり。
　　炭化物を少量含む。



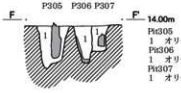
Pit175
1　黒色粘質土。粘性ややあり。しまりあり。炭化物を少量含む。
2　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。
3　オリーブ灰色粘質土。粘性ややあり。しまりややあり。
Pit176
1　黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。

0　(1：60)　3m

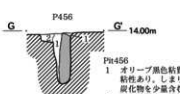




Pit387
1　オリーブ黒色粘質土。粘性ややあり。しまりあり。炭化物を少量含む。
2　オリーブ黒色粘質土。粘性ややあり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
Pit388
1　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
2　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。

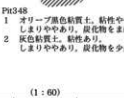


Pit305
1　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
Pit306
1　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
Pit307
1　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。



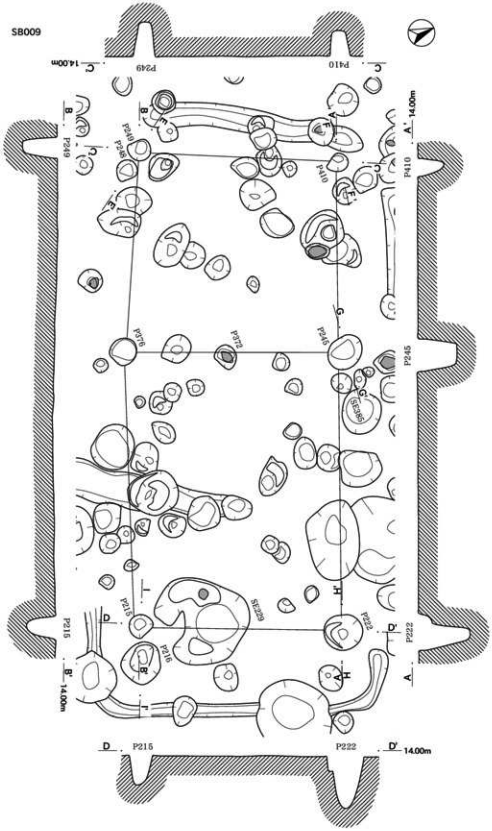
Pit456
1　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
2　灰色粘質土。粘性ややあり。しまりややあり。

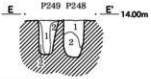
Pit310
1　黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。
2　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。明青灰色粘土をまばらに含む。
Pit311
1　黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物をごく少量含む。しまりややあり。炭化物を少量含む。
2　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。V2層をまばらに含む。



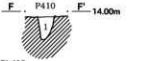
Pit348
1　オリーブ黒色粘質土。粘性ややあり。しまりややあり。炭化物をまばらに含む。
2　灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。

0　(1 : 60)　3m

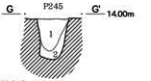




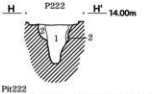
Pit248
1　暗灰色粘質土。粘性あり。
　しまりなし。径3cmの炭化物を含む。
　V2層を多量に含む。
2　黒褐色粘質土。粘性あり。しまりなし。
Pit249
1　暗灰色粘質土。粘性あり。
　しまりなし。炭化物を微量含む。
2　暗灰色粘質土。粘性あり。
　しまりなし。V2層を多量に含む。
　V2層崩落土。



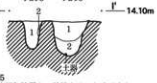
Pit410
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　径5～10mmの炭化物を少量含む。



Pit245
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　径1～2cmの炭化物を少量含む。
　V2層をまばらに含む。
2　明青灰色粘質土。粘性あり。
　しまりなし。酸化鉄を含む。

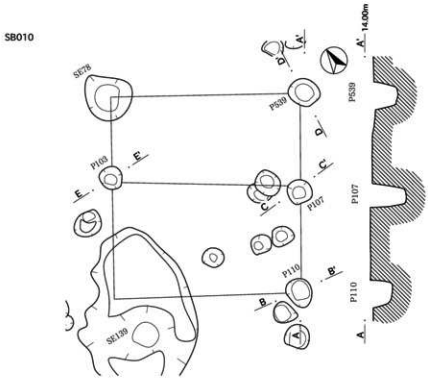


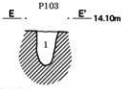
Pit222
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　径3～5mmの炭化物を少量含む。
　V2層をブロック状に含む。
2　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　V2層をまばらに含む。



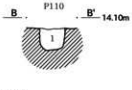
Pit215
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　V2層をまばらに含む。
2　明青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
Pit216
1　暗灰色粘質土　粘性あり。しまりなし。
　径5～10mmの炭化物を少量含む。
　V2層をブロック状に含む。

0　(1：60)　3m

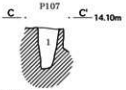




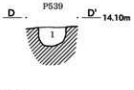
Pit103
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　径2～3mmの炭化物を含む。
　　V2層をまばらに含む。



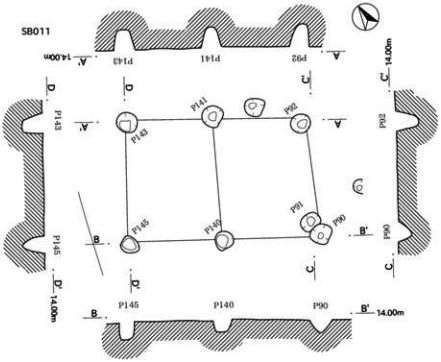
Pit110
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　径2～3mmの炭化物を含む。
　　V2層をまばらに含む。



Pit107
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　径2～3mmの炭化物を含む。
　　V2層をまばらに含む。

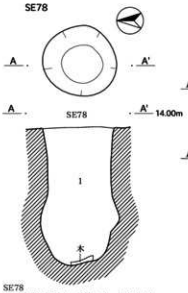


Pit539
1　黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
　　炭化物をまばらに含む。
　　V2層をブロック状に含む。



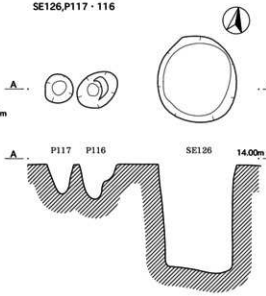
0　(1：60)　3m

SE78

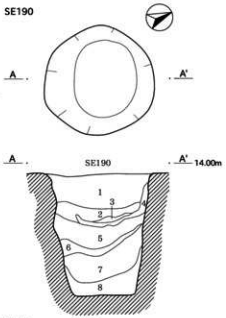


SE78
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　径5～10mmの炭化物を多量含む。
　　V2層をまばらに含む。

SE126,P117・116

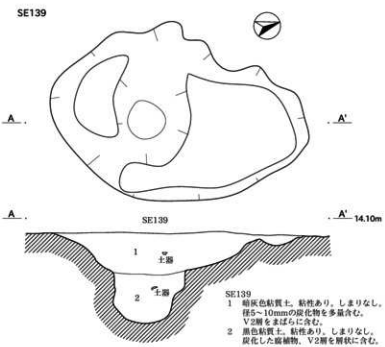


SE190



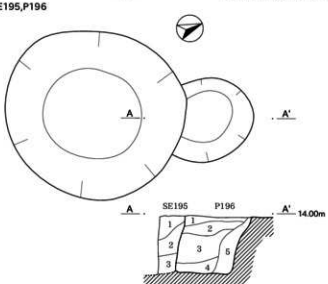
SE190
1　黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　　炭化物をまばらに含む。
2　黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
　　炭化物をまばらに含む。明青灰色粘土をまばらに含む。
3　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
　　炭化物をブロック状に含む。
4　黒色粘質土。粘性あり。
　　しまりなし。炭化物をブロック状に含む。
　　明青灰色粘土をまばらに含む。
5　灰オリーブ色粘質土。粘性あり。
　　しまりややあり。炭化物をまばらに含む。
　　明青灰色粘土をまばらに含む。
6　オリーブ黒色粘質土。粘性なし。しまりなし。
　　炭化物をブロック状に含む。
　　明青灰色粘土をまばらに含む。
7　黒色粘質土。粘性なし。しまりなし。
　　炭化物を多く含む。炭層。
8　オリーブ灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。

SE139



SE139
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　径5～10mmの炭化物を多量含む。
　　V2層をまばらに含む。
2　黒色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　炭化した植物物。V2層を層状に含む。

SE195,P196

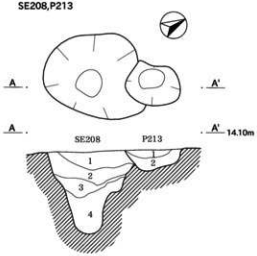


SE195
1　黒褐色粘質土。粘性ややあり。しまりあり。
　　炭化物を少量含む。
2　褐灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　炭化物を少量含む。
3　黒色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　炭化物を少量含む。

P196
1　緑黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。
2　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　　炭化物を少量含む。V2層を多く含む。
3　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　　炭化物を少量含む。V2層を少量含む。
4　暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　炭化物をまばらに含む。
5　暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　　V2層を部ブロック状に含む。

0　(1：40)　2m

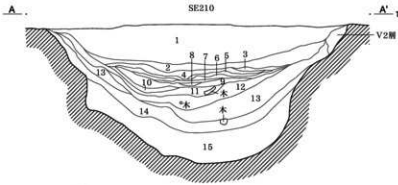
SE208,P213



SE208
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　径2～3cmの炭化物を少量含む。
　　V2層をまばらに含む。
2　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　V2層をブロック状に含む。
3　黒色砂質土。粘性なし。しまりなし。
　　炭層。
4　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　V2層をブロック状に含む。

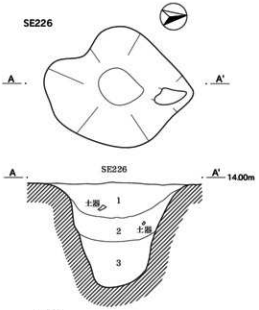
Pb213
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　V2層をブロック状に少量含む。
2　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　V2層をブロック状に多量に含む。

SE210



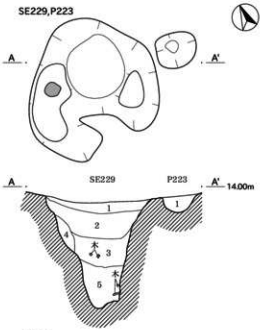
SE210
1　暗黄灰色粘質土。粘性なし。しまりあり。径1～3cmの炭化物を少量含む。
2　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。炭化物を含む。
　　V2層をまばらに含む。
3　黒色砂質土。粘性なし。しまりなし。炭層。
4　灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。灰白色粘質土をブロック状に含む。
5　黒色砂質土。粘性なし。しまりなし。炭層。
6　極暗褐色粘質土。粘性あり。しまりなし。もみがらを含む。
7　黒色砂質土。粘性なし。しまりなし。炭層。
8　灰褐色粘質土。粘性あり。しまりなし。
9　黒色砂質土。粘性なし。しまりなし。炭と極暗褐色粘質土の互層。
10　灰褐色粘質土。粘性あり。しまりなし。
11　黒色砂質土。粘性なし。しまりなし。灰褐色粘質土を含む。
12　暗褐色粘質土。粘性なし。しまりなし。
13　黒色砂質土。粘性なし。しまりなし。炭層。
14　灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。炭化物を多量に含む。
15　灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。炭化物・礫を少量含む。
　　V2層をブロック状に含む。

SE226

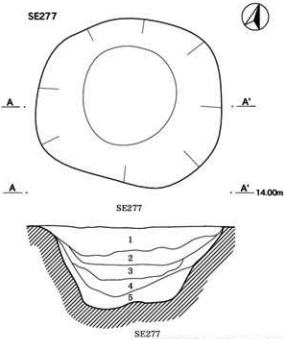


SE226
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　　V2層をブロック状に含む。
2　黒色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　径2～3mmの炭化物を含む。
3　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　V2層をブロック状に含む。

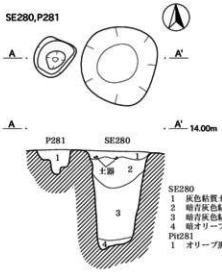
0　(1：40)　2m



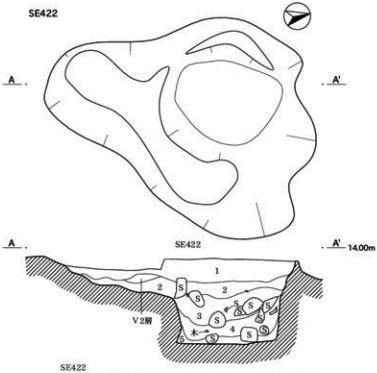
SE229
1　暗灰黄色粘質土。粘性あり。しまりなし。
2　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　V2層をブロック状に含む。
3　黒色粘質土。粘性あり。しまりなし。
4　明青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
5　明青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
Pit223
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　V2層をまばらに含む。



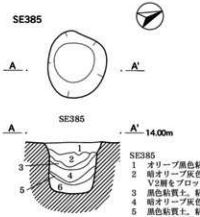
SE277
1　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　径5mmの炭化物を少量含む。
2　緑灰色粘質土。粘性なし。しまりややなし。
　黄褐色砂質土をブロック状に含む。
3　黒褐色粘質土。粘性あり。しまりややなし。
　径5mmの炭化物を少量含む。
4　暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややなし。
5　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりややなし。
　炭化物を多量に含む。V2層をブロック状に含む。



SE280
1　灰色粘質土。
2　暗青灰色粘質土。
3　暗青灰色粘質土。
4　暗オリーブ灰色粘質土。
Pit281
1　オリーブ黒色粘質土。

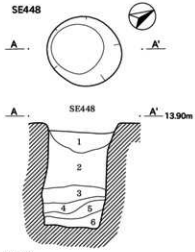


SE422
1　暗灰色粘質土。粘性なし。しまりなし。径1cmの炭化物を少量含む。
2　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。径5mmの炭化物を少量含む。
　径2cmの礫を多数含む。
3　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　V2層をブロック状に多量含む。径2cmの礫を多数含む。
4　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。径2cmの礫を多数含む。
5　極暗褐色粘質土。粘性なし。しまりなし。炭化物を含む。

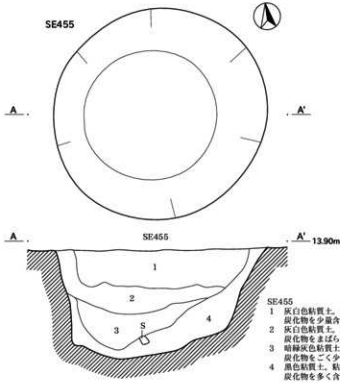


SE385
1　オリーブ黒色粘質土。粘性ややあり。しまりあり。炭化物を少量含む。
2　暗オリーブ灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。
　V2層をブロック状に含む。
3　黒色粘質土。粘性なし。しまりややあり。炭化物を多量に含む。炭層。
4　暗オリーブ灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。炭化物をまばらに含む。
5　黒色粘質土。粘性なし。しまりややあり。炭化物を多量に含む。炭層。
6　暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物をまばらに含む。

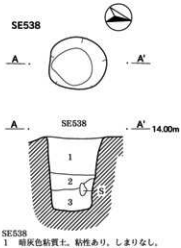
0　(1：40)　2m



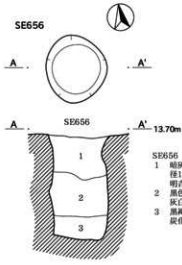
SE448
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　炭化物をまばらに含む。
2　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
3　極暗褐色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　炭化物を含む。
4　灰白色粘質土。粘性あり。しまりなし。
5　暗褐色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　炭化物を含む。
6　灰白色粘質土。粘性あり。しまりなし。



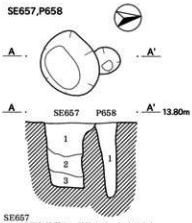
SE455
1　灰白色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　炭化物を少量含む。V2層に類似する。
2　灰白色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
　炭化物をまばらに含む。
3　暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　炭化物をごく少量含む。
4　黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　炭化物を多く含む。炭層。



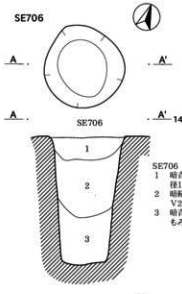
SE538
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　V2層をブロック状に多量に含む。
2　黒色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　V2層をブロック状に含む。
3　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　V2層をブロック状に含む。



SE656
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　径1～3cmの炭化物を少量含む。
　明青灰色粘質土をブロック状に含む。
2　黒色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　灰白色粘質土をブロック状に含む。
3　黒褐色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　炭化物を多量に含む。

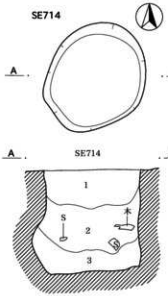


SE657
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　V2層を多量に含む。
2　黒色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　径3cmの炭化物含む。
　灰白色粘質土をブロック状に含む。
3　灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
Pit658
1　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　V2層をブロック状に含む。

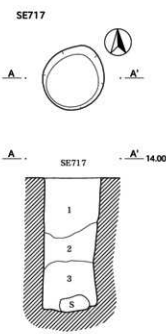


SE706
1　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　径1cmの炭化物を少量含む。V2層を含む。
2　暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややなし。
　V2層をまばらに含む。
3　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりややなし。
　もみがらを多量に含む。

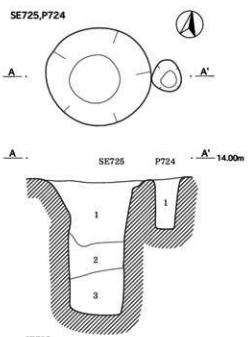
0　(1：40)　2m



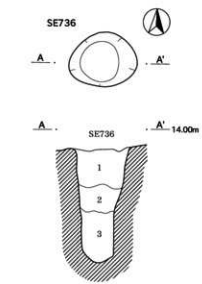
SE714
1　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　径1cmの炭化物を多量に含む。
　　灰色粘質土を含む。
2　黒褐色粘質土。粘性あり。しまりややなし。
　　径2cmの炭化物を多量に含む。
3　暗青灰色粘質土。粘性ややあり。しまりややなし。
　　径1～2cmの炭化物を少量含む。
　　径2cmの礫を含む。



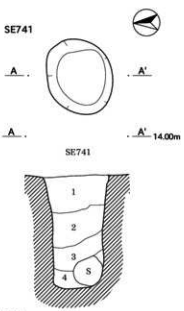
SE717
1　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
2　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　　V2層を含む。
3　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりややなし。



SE725
1　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　　径1～3mmの炭化物をごく少量含む。
2　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりややなし。
　　径5mmの炭化物を多量に含む。
3　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　もみがらを多量に含む。
Pit724
1　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
　　V2層を含む。

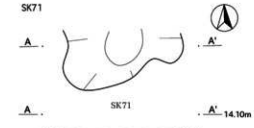


SE736
1　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
2　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりややなし。
3　黒色粘質土。粘性あり。しまりややなし。
　　炭化物を含む。

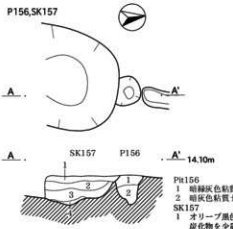


SE741
1　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりややなし。
　　径1mmの炭化物を少量含む。
2　暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　径1mmの炭化物を含む。
3　暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　径１mmの炭化物を少量含む。もみがらを多量に含む。
4　暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　　礫を多く含む。

0　(1：40)　2m

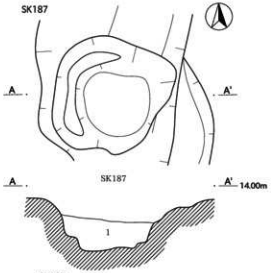


SK71
1 青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。Ⅲ2層に相当。
2 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
径1cmの炭化物を少量含む。V2層をまばらに含む。
3 明青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。

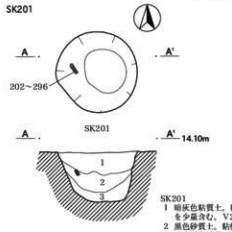


Pit156
1 暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
2 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。

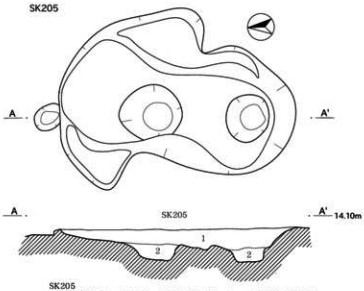
SK157
1 オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
炭化物を少量含む。
2 暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
3 暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
4 緑灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。



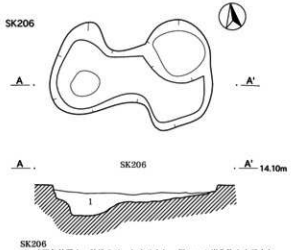
SK187
1 緑黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
炭化物を少量含む。Ⅲ2層に相当。



SK201
1 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。径1cmの炭化物
を少量含む。V2層をまばらに含む。
2 黒色砂質土。粘性なし。しまりなし。炭・砂の混合層。
3 明青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。

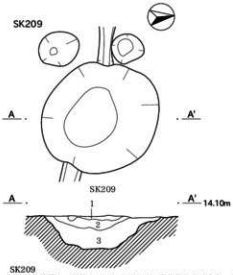


SK205
1 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。径1～2mmの炭化物を少量含む。
V2層をブロック状に含む。
2 灰色粘質土。粘性あり。しまりなし

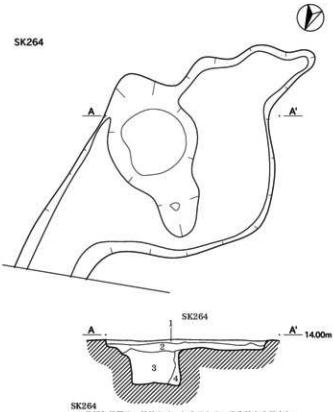


SK206
1 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。径1cmの炭化物を少量含む。

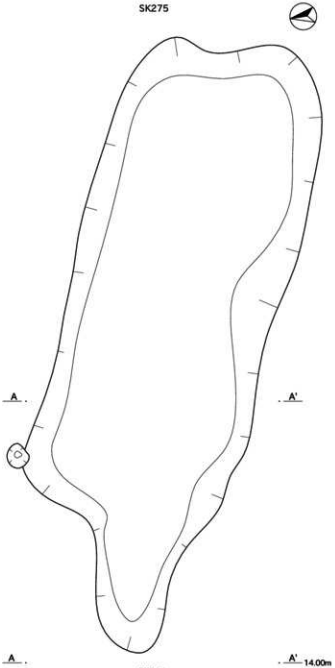
0　(1：40)　2m



SK209
1 黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。炭化物を多く含む。炭層。
2 明青灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
3 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　径1～2cmの炭化物を少量含む。V2層をブロック状に含む。

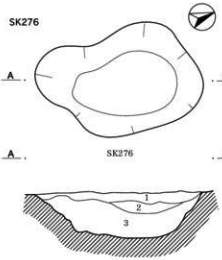


SK264
1 黄灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。酸化鉄を少量含む。
2 黄灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。酸化鉄を多く含む。
3 灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
4 オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。

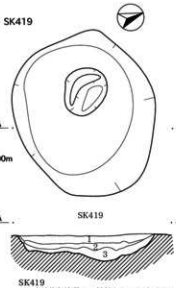


SK275
1 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。酸化鉄少量含む。
2 暗オリーブ灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。酸化鉄を少量含む。

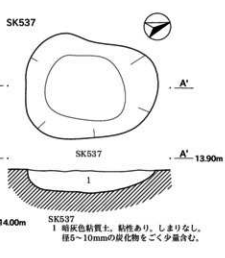
0　(1：40)　2m



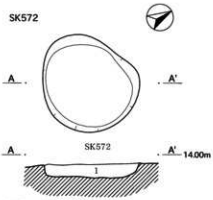
SK276
1 黒色粘質土。粘性あり。しまりあり。
V2層をブロック状に含む。
2 青灰色粘質土。粘性あり。しまりややなし。
3 暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややなし。
黄色粘質土をブロック状に含む。
炭化物を含む。



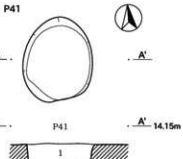
SK419
1 暗灰黄色粘質土。粘性なし。しまりあり。
2 黒色砂質土。粘性なし。しまりなし。炭層。
3 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
V2層をまばらに含む。



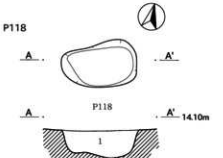
SK537
1 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
径5～10mmの炭化物をごく少量含む。



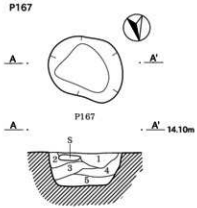
SK572
1 暗緑灰色粘質土。粘性ややあり。しまりあり。
V2層をブロック状に含む。



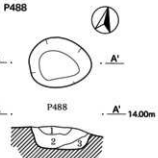
Pit41
1 黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
炭化物をごく少量含む。



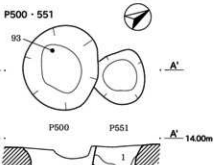
Pit118
1 暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
炭化物を少量含む。V2層をまばらに含む。



Pit167
1 オリーブ黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
炭化物を少量含む。
2 暗緑灰色粘質土。粘性ややあり。しまりややあり。
3 緑黒色粘質土。粘性ややあり。しまりややあり。
炭化物を少量含む。
4 暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
炭化物を少量含む。
5 暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
炭化物を少量含む。
2・4・5層はV2層をまばらに含む。

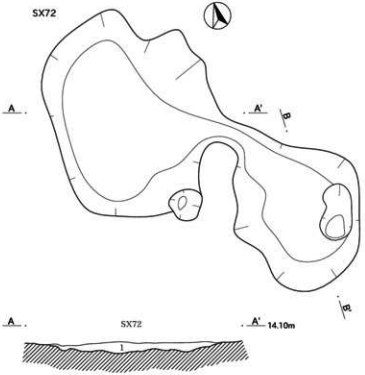


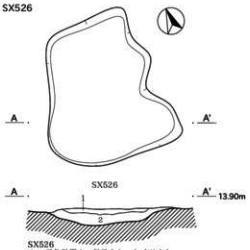
Pit488
1 緑黒色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
炭化物を少量含む。
2 暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
炭化物を少量含む。
3 緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
炭化物を少量含む。



Pit500
1 暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりあり。
炭化物を少量含む。V2層をブロック状に含む。
Pit551
1 暗青灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
2 緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。
炭化物を少量含む。

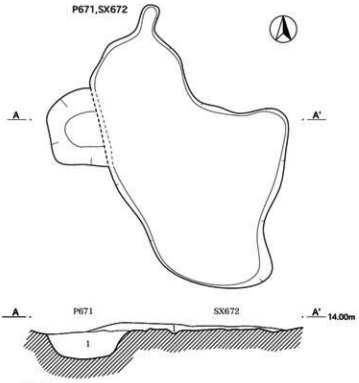
0　(1：40)　2m



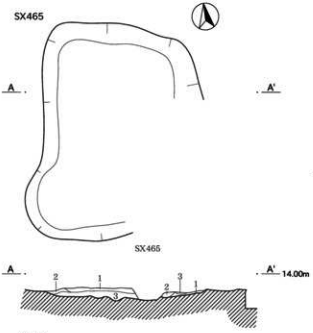


SX526
1　黒色砂質土。粘性なし。しまりなし。
　炭化物を多く含む。炭層。
2　暗灰色粘質土。粘性あり。しまりなし。
　V2層をブロック状に含む。

SX72
1　暗灰色粘質土。　　粘性あり。しまりなし。
　径2～3mmの炭化物を少量含む。
　V2層をブロック状に含む。
2　黒色粘質土。粘性あり。しまりなし。

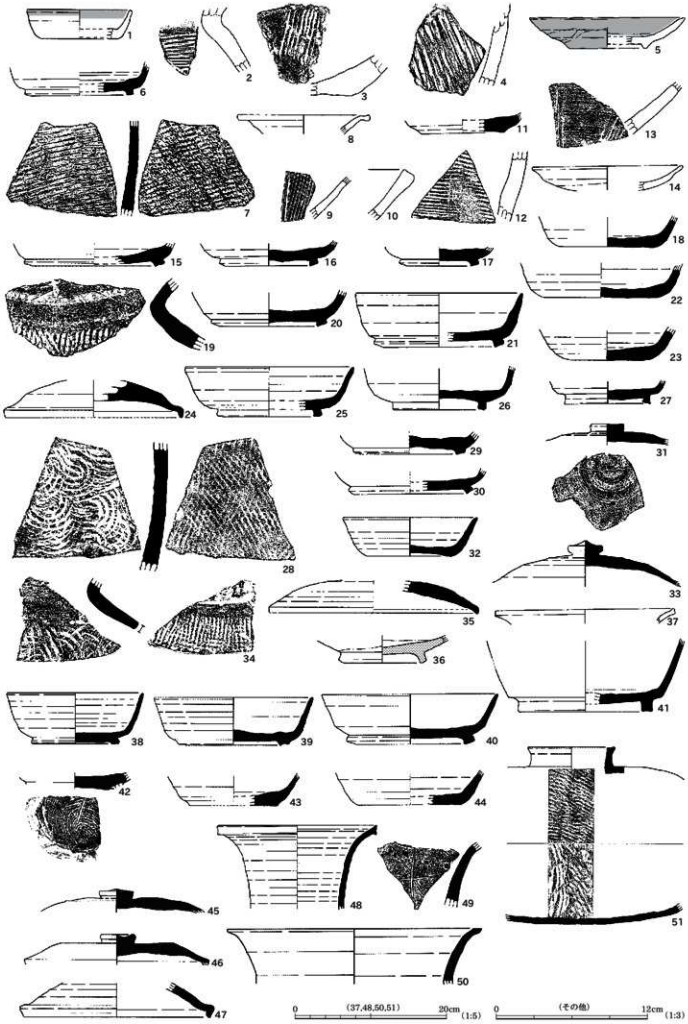


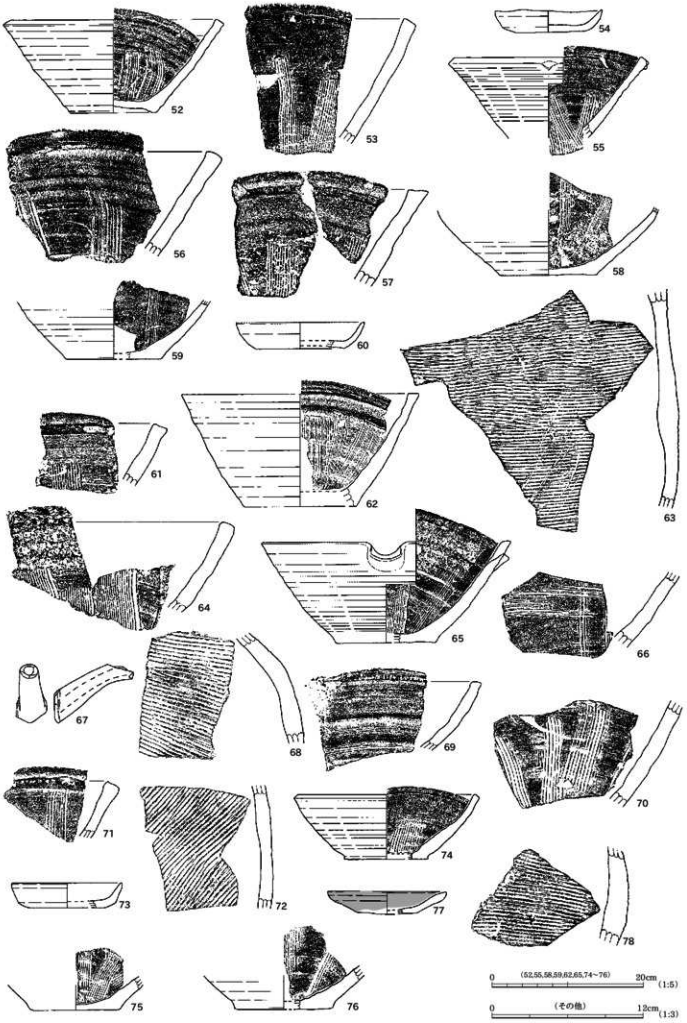
Pit671
1　暗青灰色粘質土。粘性なし。しまりあり。Ⅲ2層に相当。
SX672
1　暗灰色粘質土。粘性なし。しまりあり。基本層序Ⅲ2層に類似する。

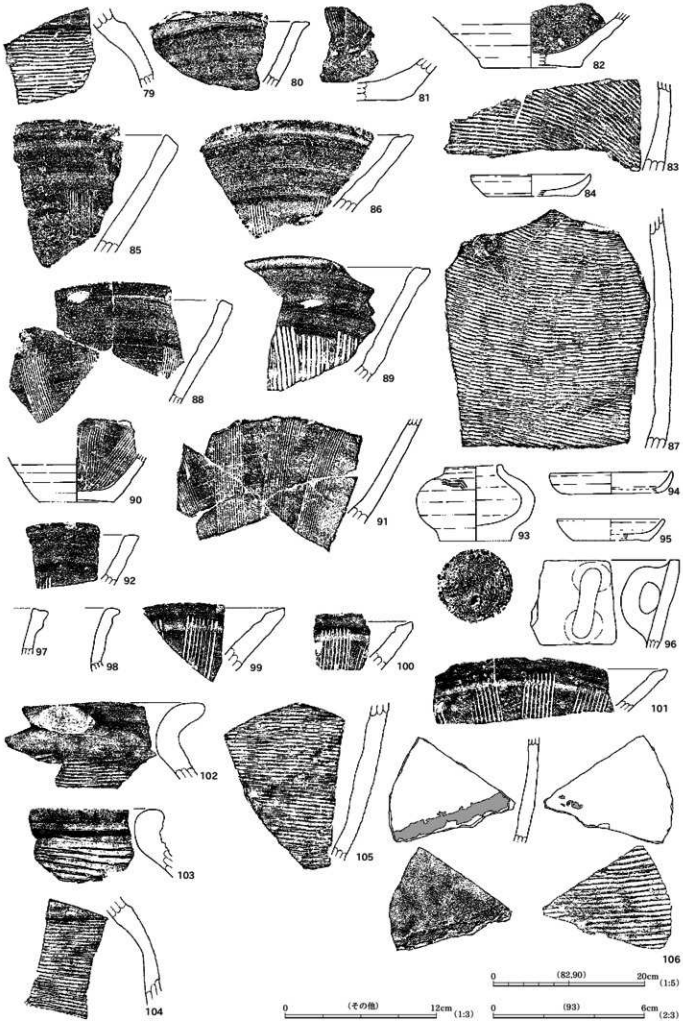


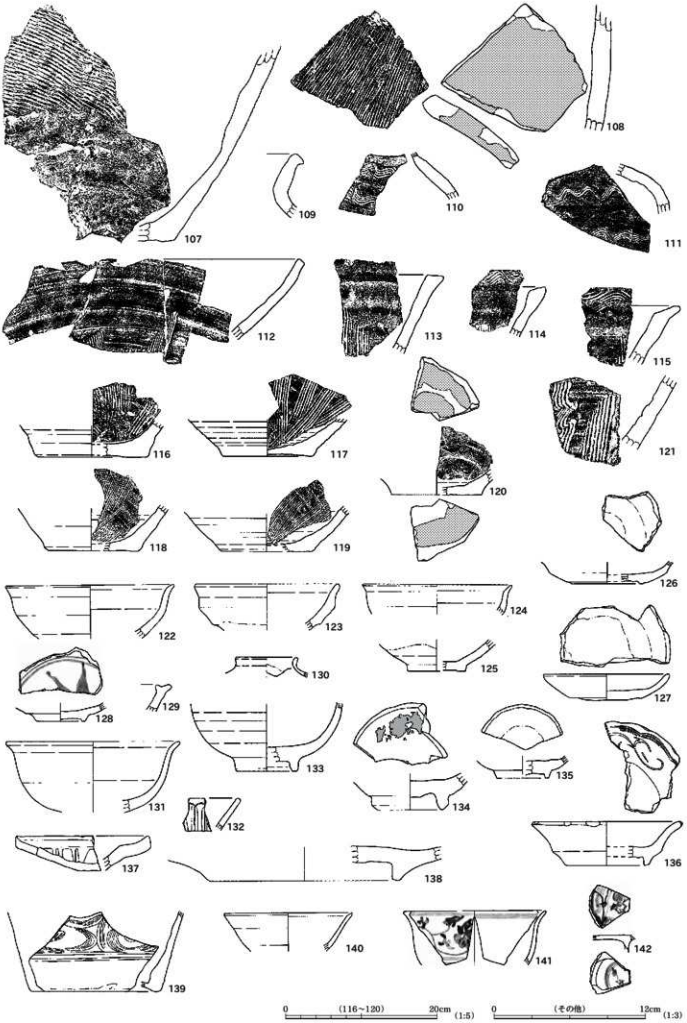
SX465
1　灰オリーブ色粘質土。粘性なし。しまりあり。
2　暗緑灰色粘質土。粘性あり。しまりややあり。炭化物を少量含む。
3　黒色粘質土。粘性ややあり。しまりややあり。炭化物を多く含む。炭層。

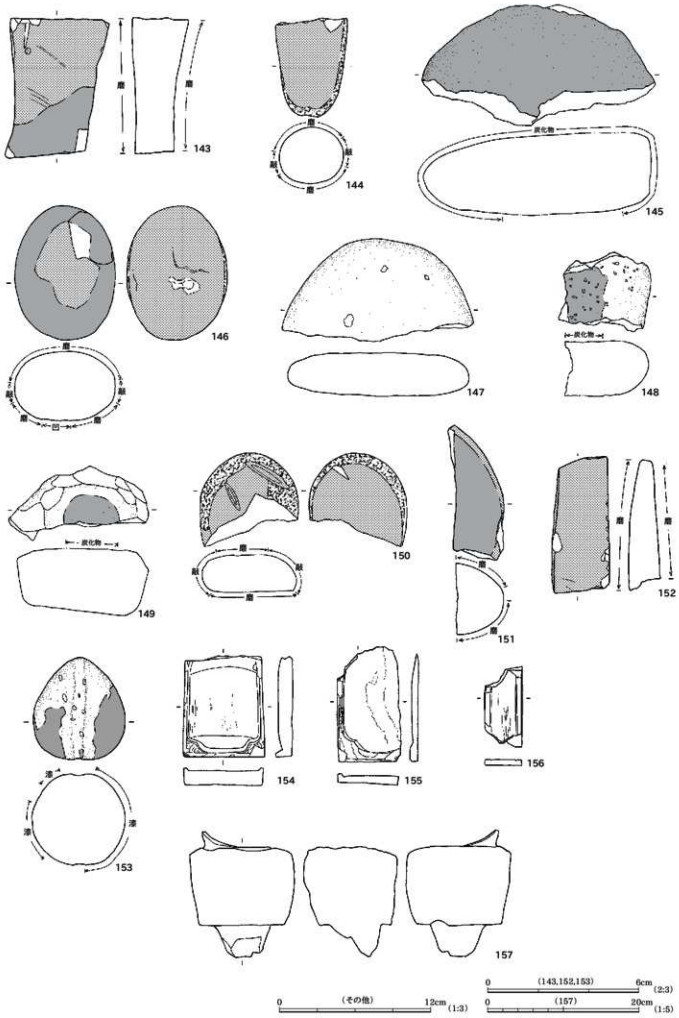
0　(1：40)　2m

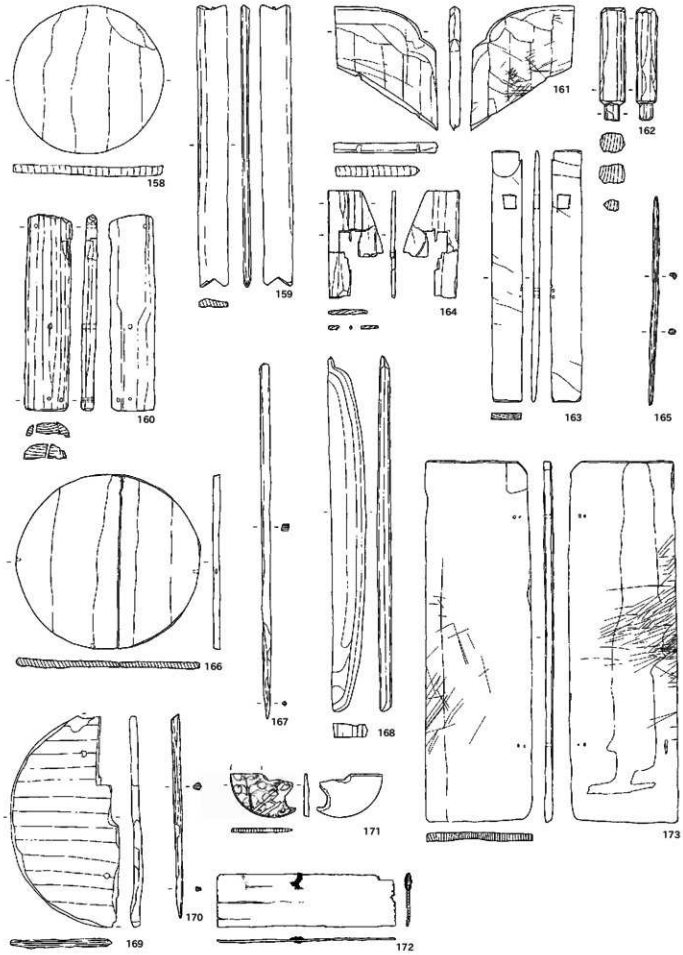

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
0 (37,48,50,51) 20cm (1:5)
0 (その他) 12cm (1:3)

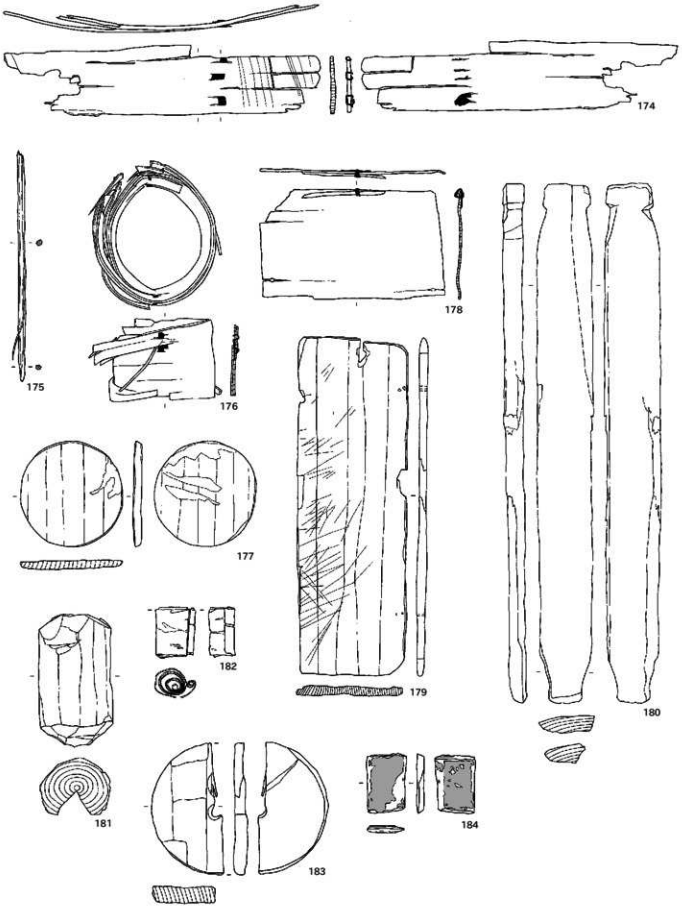

52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
0 (52,55,58,59,62,65,74～76) 20cm (1:5)
0 (その他) 12cm (1:3)

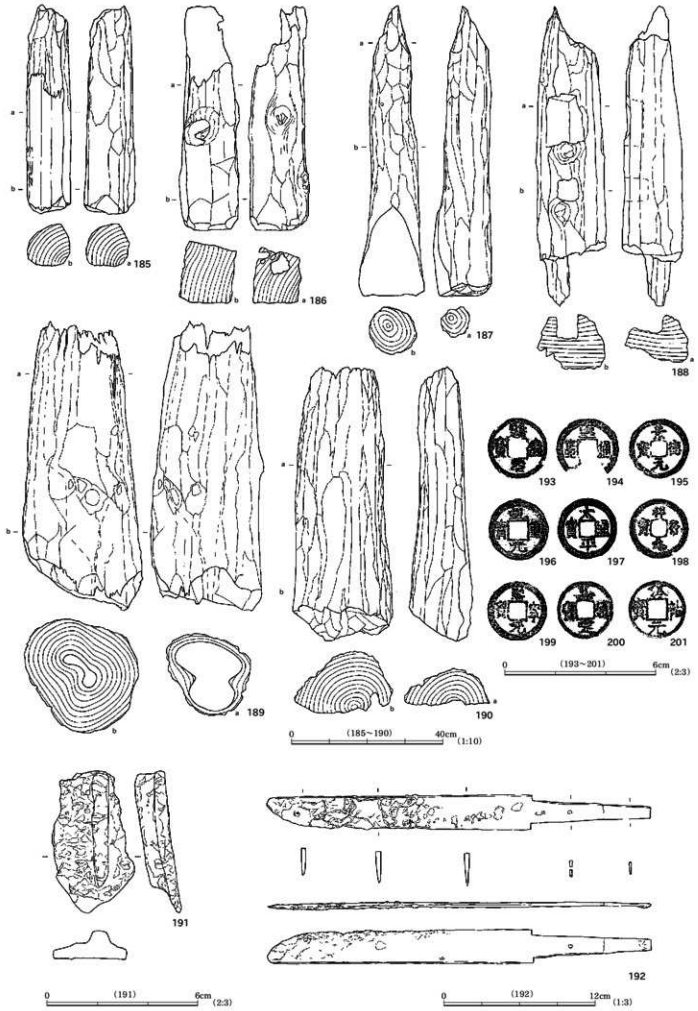

79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
0 (82,90) 20cm (1:5)
0 (その他) 12cm (1:3)
0 (93) 6cm (2:3)

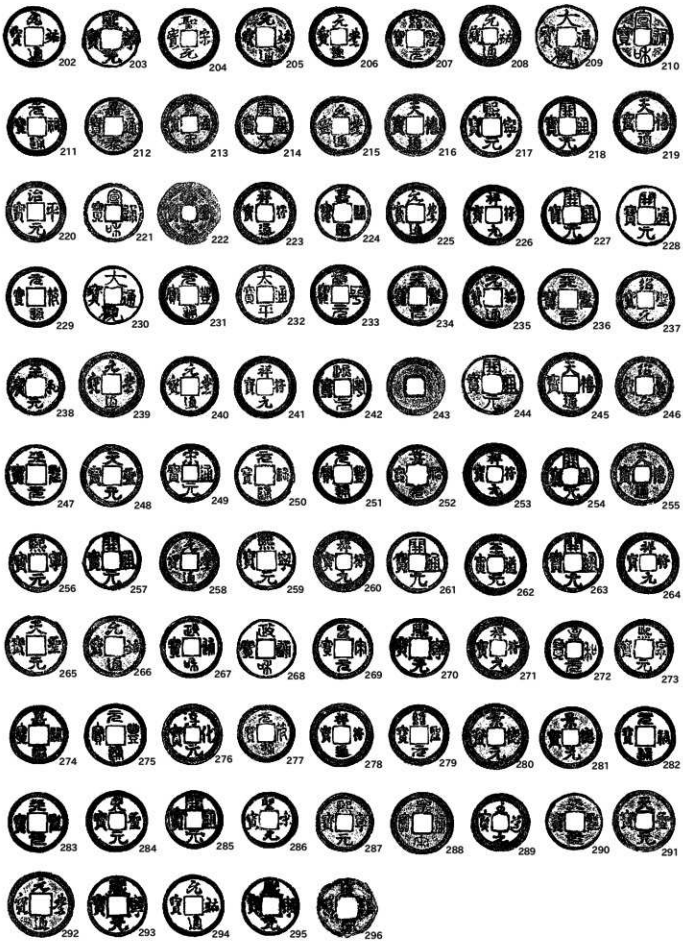

107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
0 (116~120) 20cm (1:5)
0 (その他) 12cm (1:3)


143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
炭化物
0 (その他) 12cm (1:3)
0 (143,152,153) 6cm (2:3)
0 (157) 20cm (1:5)

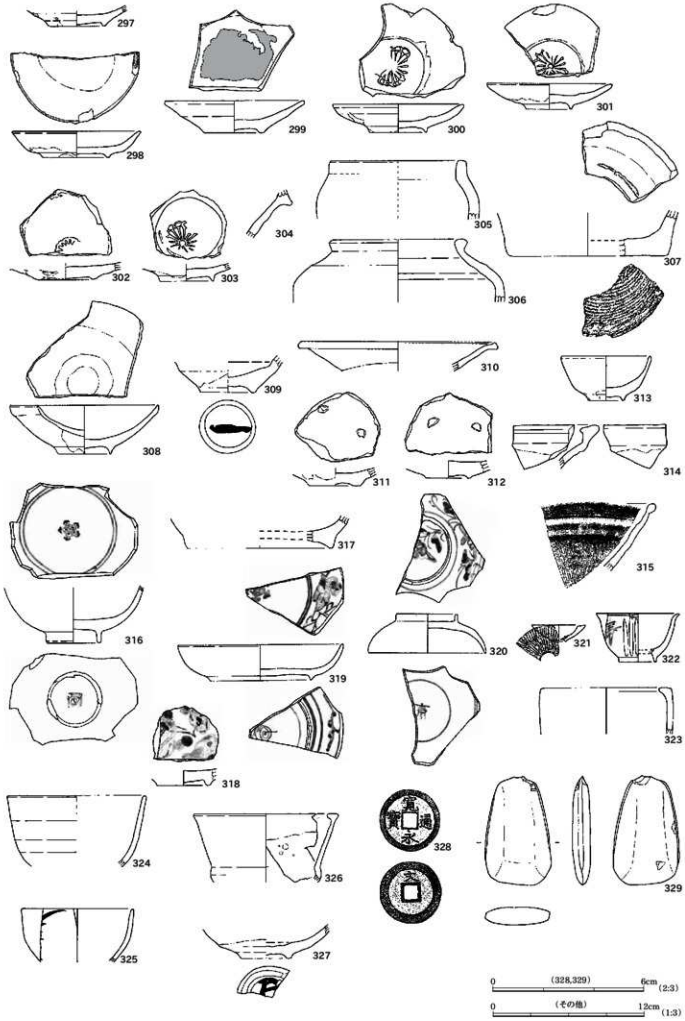

158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
0
12cm
(1:3)


174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
0
12cm
(1:3)


185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
0 (185～190) 40cm (1:10)
0 (193～201) 6cm (2:3)
0 (191) 6cm (2:3)
0 (192) 12cm (1:3)



0　6cm（2:3）

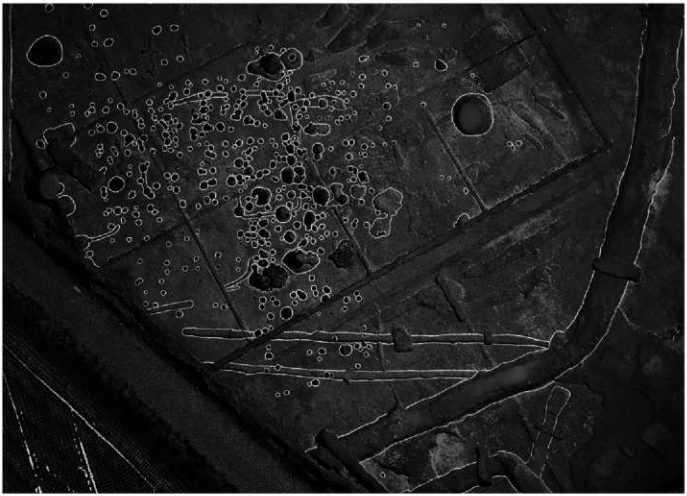

297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
0 (328,329) 6cm (2:3)
0 (その他) 12cm (1:3)

調査区近景（西から）

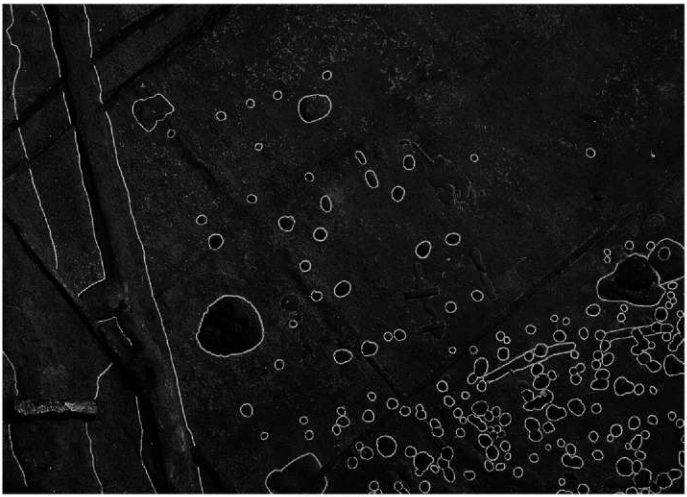
調査区近景（北から）

調査区全景（上空から）

Ⅲ・Ⅳ・Ⅷ区（上空から）



Ⅳ・Ⅴ区（上空から）



Ⅴ～Ⅷ区（上空から）

Ⅰ区（上空から）

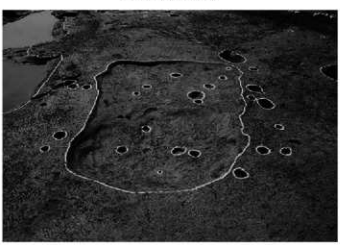
Ⅳ区（上空から）

基本層序①（南から）

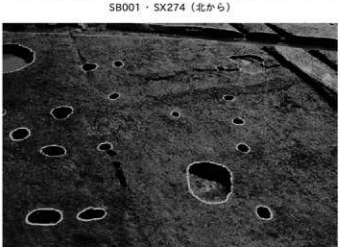
基本層序②（東から）

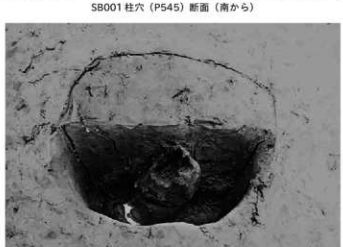
基本層序③（東から）

基本層序⑤（南から）


SB001・SX274（北から）

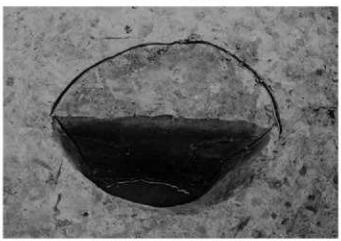
SB001 柱穴（P545）断面（南から）


SB002（北から）


SB002 柱穴（P534）断面（東から）

SB003柱穴（P400）断面（南から）

SB003柱穴（P400）完掘（南から）

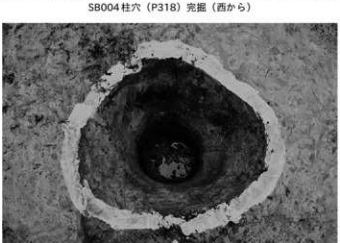

SB003柱穴（P518）断面（南から）

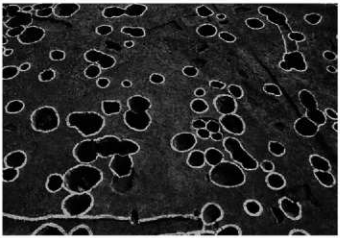
SB004（西から）

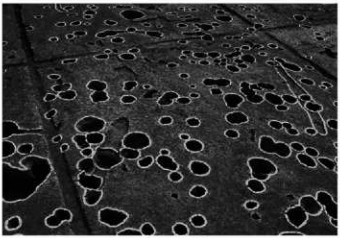
SB004柱穴（P318）断面（東から）

SB004柱穴（P318）完掘（西から）

SB004柱穴（P510）断面（東から）

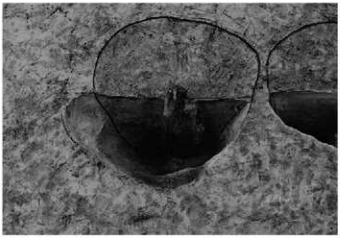

SB004柱穴（P510）完掘（東から）


SB007（西から）


SB008（北から）

SB008柱穴（P318）断面（東から）

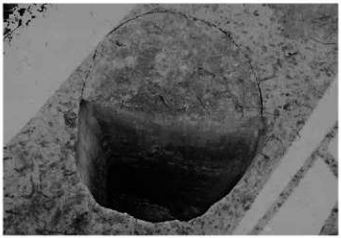
SB008柱穴（P318）完掘（東から）


SB008柱穴（P305）断面（東から）

SB008柱穴（P305）完掘（東から）

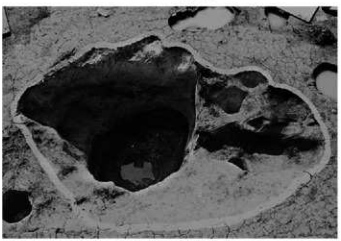
SB008柱穴（P456）断面（南から）

P347完掘（東から）


SE78断面（南西から）

SE208・P213断面（南から）

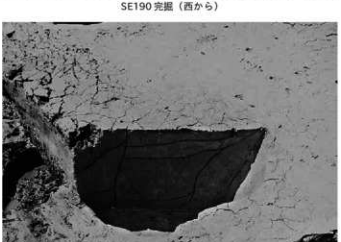
SE139断面（東から）


SE139完掘（東から）

SE190断面（東から）

SE190完掘（西から）

SE195断面（北から）


SE195・P196断面（南から）

SE210 断面（南から）

SE210 完掘（南から）

SE226 断面（南から）

SE226 完掘（南から）

SE229 断面（南西から）

SE229 完掘（南から）

SE277 断面（南から）

SE277 完掘（南から）

SE280 断面（南から）

SE280 完掘（南から）

SE385 断面（東から）

SE385 完掘（南から）

SE422 断面（東から）

SE422 完掘（南東から）

SE448 断面（東から）

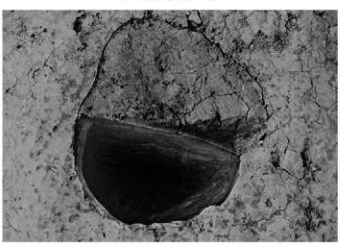
SE448 完掘（東から）

SE455 断面（南から）

SE455 完掘（南から）

SE538 断面（南から）

SE538 完掘（東から）


SE656 断面（南から）

SE656 完掘（南から）

SE657・P658 断面（東から）

SE657・P658 完掘（東から）

SE706断面（南から）

SE706完掘（北西から）

SE714断面（南から）

SE714完掘（南から）

SE717断面（南から）

SE717完掘（南から）

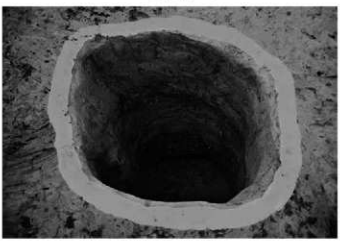
SE725断面（南から）

SE725完掘（南から）

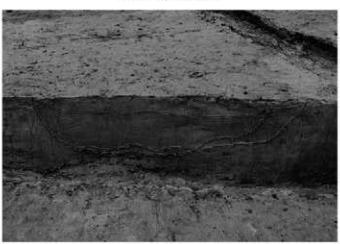
SE736 断面（南から）

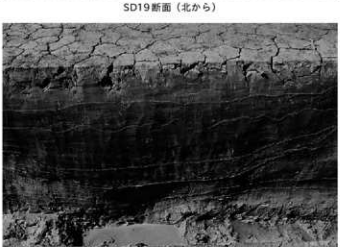
SE736 完掘（南から）

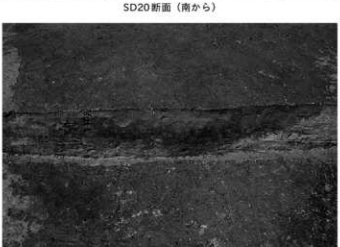
SE741 断面（南から）


SE741 完掘（南から）

SD19 断面（北から）


SD20 断面（南から）


SD51 断面 A-A'（南から）


SD51 断面 B-B'（南西から）

SD52 断面A-A'（南から）

SD52 断面B-B'（北から）

SD52 断面C-C'（東から）

SD151 断面（西から）

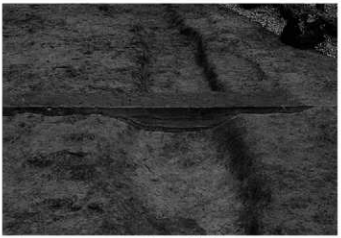
SD251 断面（南東から）

SD253 断面（南西から）

SD254 断面（南西から）

SD282 完掘（東から）

SR18（南から）


SR18断面B-B'（南から）

SR18断面C-C'（南から）

SR18断面C-C'東側（南から）

SR18断面D-D'南側（東から）

SR600（南から）

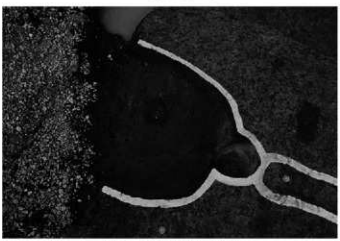
SD23断面（北から）

SD27断面（南から）

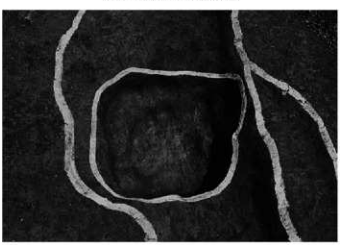
SK71 断面（西から）

SK71 完掘（西から）

P156・SK157 断面（東から）


P156・SK157 完掘（東から）

SK187 断面（南から）


SK187 完掘（南から）

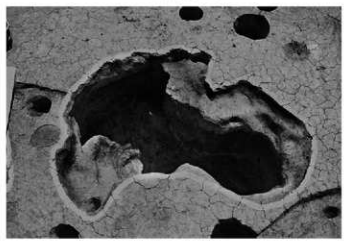
SK201 断面（南から）

SK201 完掘（南から）

SK201 銭貨出土状況（南から）

SK206断面（南から）

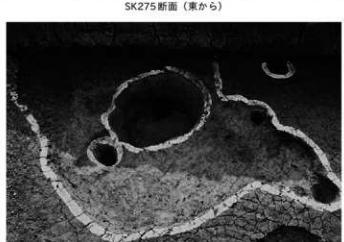
SK205断面（西から）


SK205完掘（西から）

SK209断面（南から）

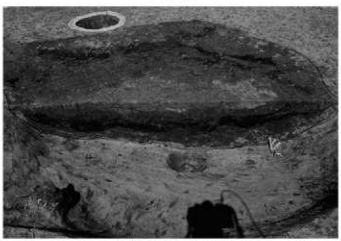
SK275断面（東から）

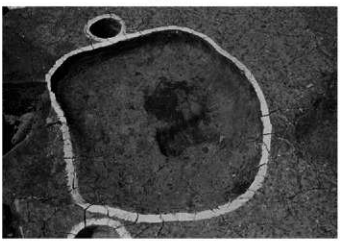
SK264断面（南から）


SK264完掘（東から）

SK276断面（東から）

SK276完掘（東から）


SK419断面（東から）


SK419完掘（東から）

SK537断面（東から）

SK537完掘（東から）

SK572断面（東から）

SK572完掘（東から）

P118断面（南から）

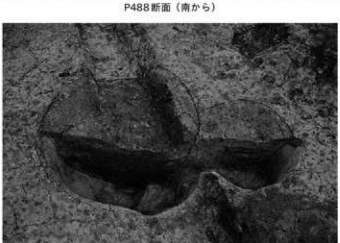
P118完掘（東から）

P167断面（南から）

P167完掘（南から）

P488断面（南から）

P488完掘（南から）


P500・551断面（南から）

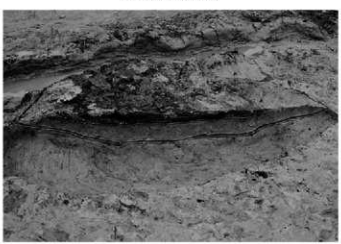
P500・551完掘（南から）

SX72 断面（西から）

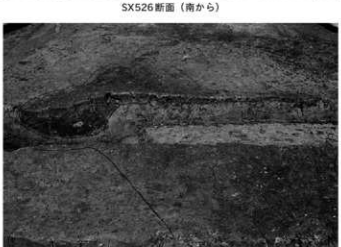
SX274 断面（西から）

SX465 断面（南から）

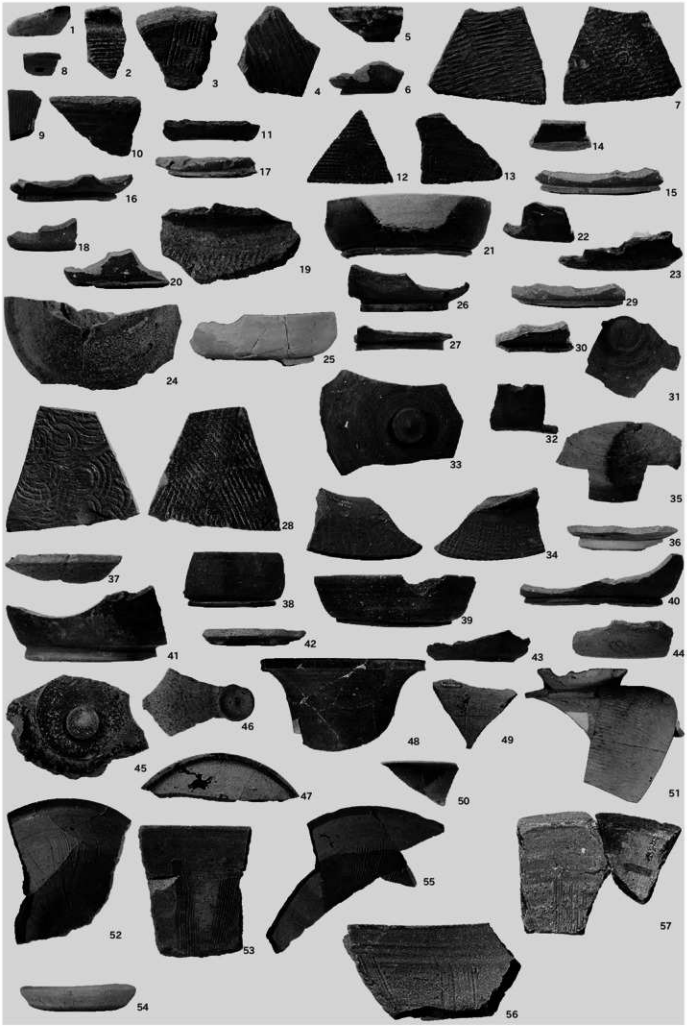
SX465 完掘（南から）

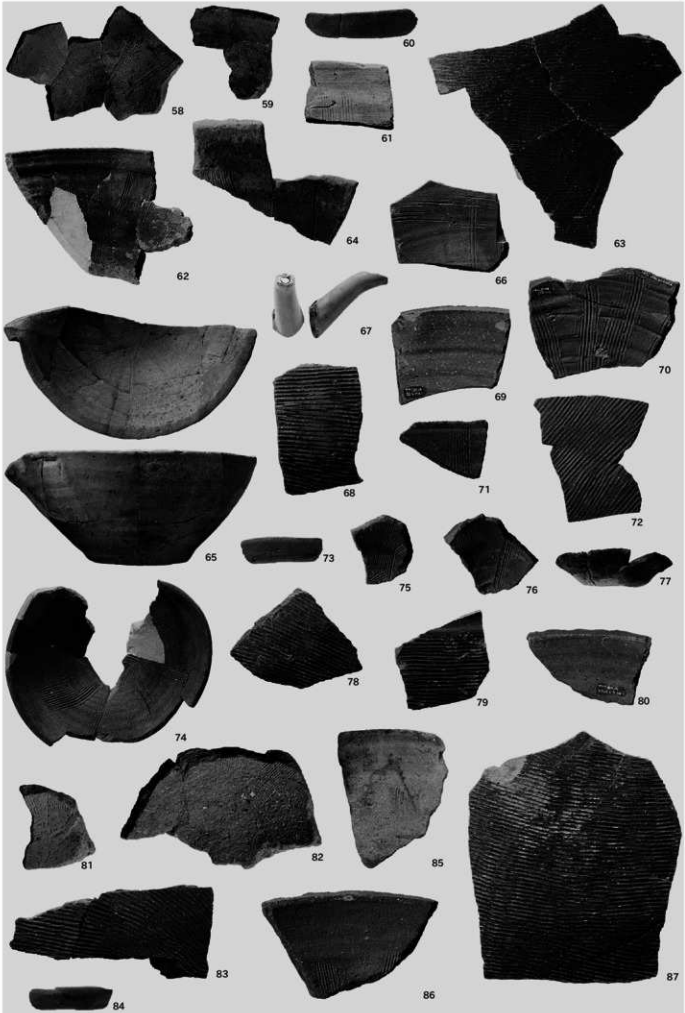

SX526 断面（南から）

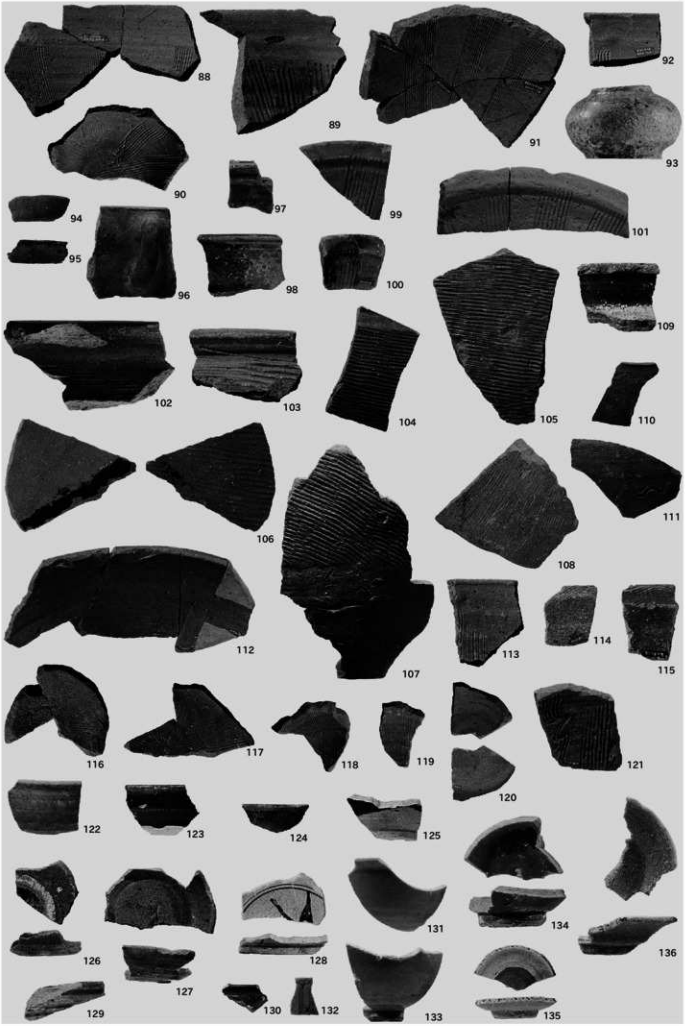
SX526 完掘（南から）

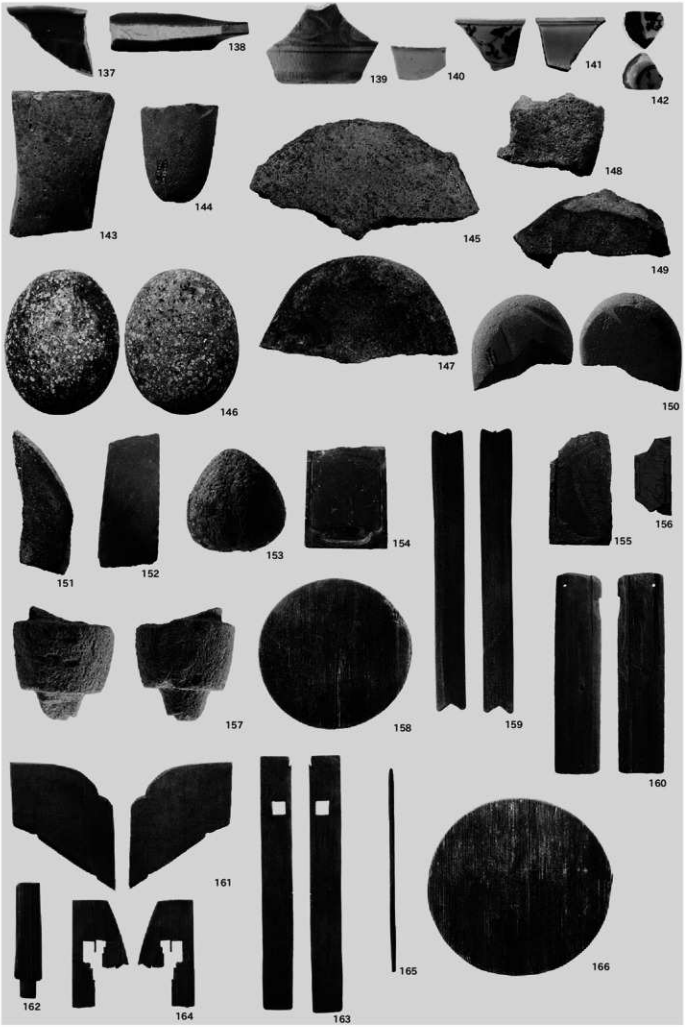

P671 ・ SX672 断面（南から）

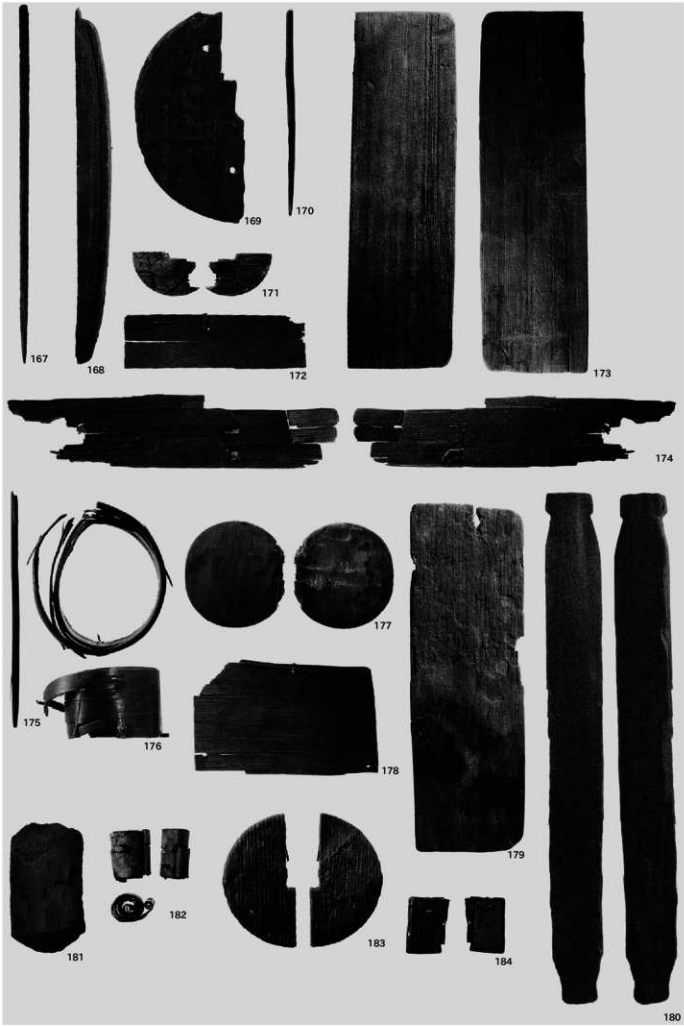
P671 ・ SX672 完掘（南西から）

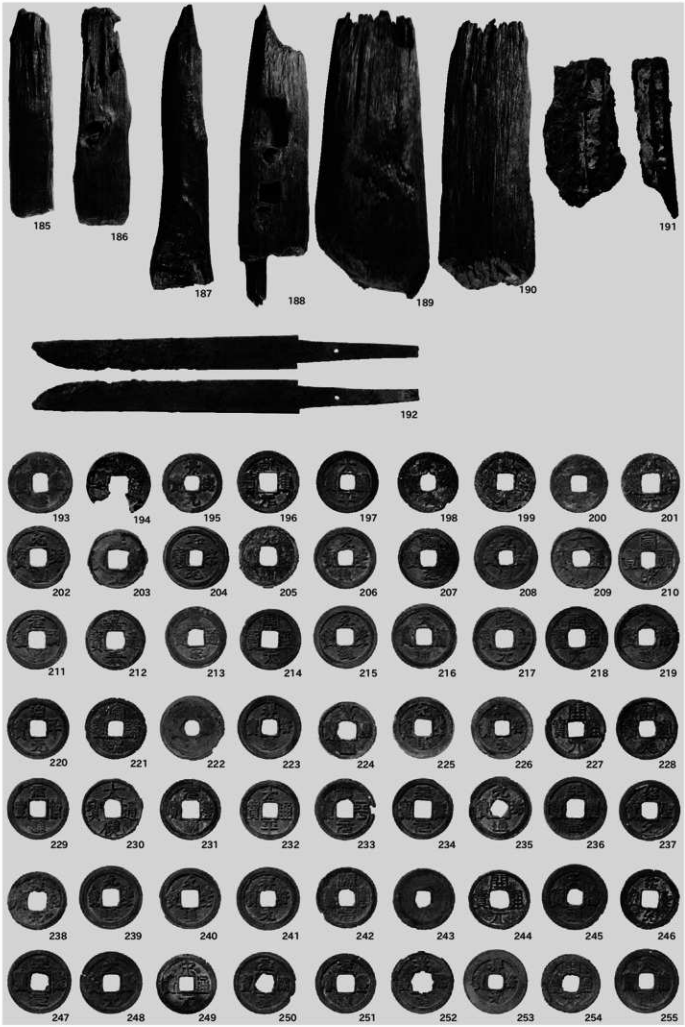

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57

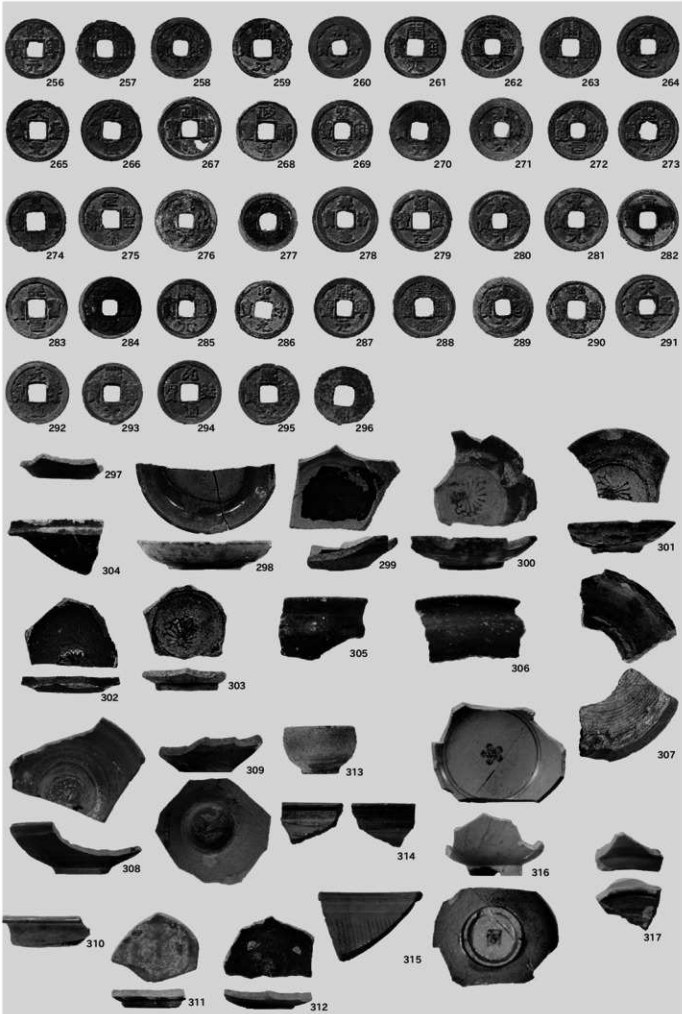

58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87

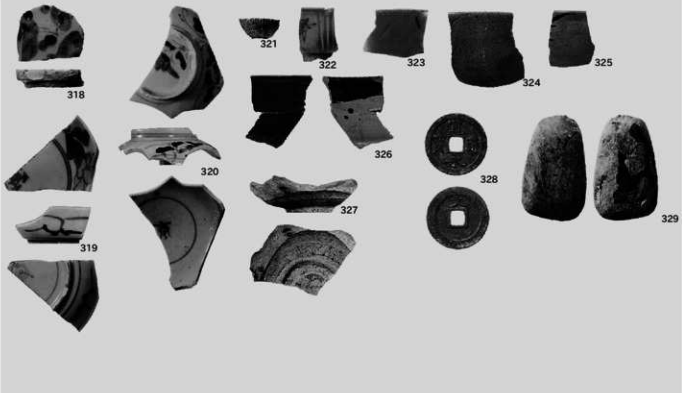

88
89
91
92
93
90
94
97
99
101
95
96
98
100
109
102
103
104
105
110
106
111
108
112
107
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
131
134
136
129
130
132
133
135

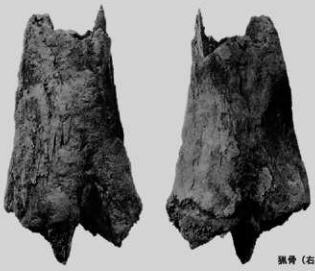

137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166


167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184


185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255


256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317





狐骨（右上腕骨）

臼歯（右第１前臼歯）

0　6cm (2:3)

報告書抄録

ふりがな	しもわりいせきいち
書名	下別遺跡Ⅰ
副書名	一般国道253号　上越三和道路関係発掘調査報告書
巻次	Ⅰ
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第120集
編・著者名	山崎　忠良　小林　芳宏　辻　範朗　外山　浩史
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒956-0845　新潟県新津市大字金津93番地1　　TEL 0250（25）3981
発行年月日	2003（平成15）年3月20日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
下別遺跡	新潟県上越市 大字米岡 字下別1,205ほか	15222	266	37度 8分 0秒	138度 18分 57秒	20020411 ～ 20021011	6,500m²	道路（上越三和道路）建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下別遺跡	散在地	古代（奈良・平安時代）		土器（土師器、須恵器）	
	集落	中世（鎌倉・室町時代）	掘立柱建物（14棟） 土坑（53基） 井戸（24基） 溝（26条） ピット（409基）	土器・陶磁器（土師質土器、珠洲焼、青磁、瀬戸美濃） 木製品（曲物、箸） 石器・石製品（磨石、硯） 金属製品（銭貨、小刀）	菱形に区画された溝に囲まれた屋敷地
	散在地	近世（江戸時代）		陶磁器（越中瀬戸、肥前系陶磁器）	

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第120集

一般国道253号　上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅰ

下別遺跡Ⅰ

平成15年3月19日印刷
平成15年3月20日発行

発行・編集　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市新光町4番地1
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新潟県新津市大字金津93番地1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　長谷川印刷
〒950-2022　新潟市小針1丁目11番8号
電話　025（233）0321

新潟県埋蔵文化財調査報告書第120集　下割遺跡Ⅰ　正誤表

ページ	行	誤	正
9	第3図スケール単位	30m	100m
39	木製品観察表21段	176　曲物　側板　7I6　P538	176　曲物　側板　7I6　SE538
39	木製品観察表22段	177　曲物　底板　7I6　P538	177　曲物　底板　7I6　SE538